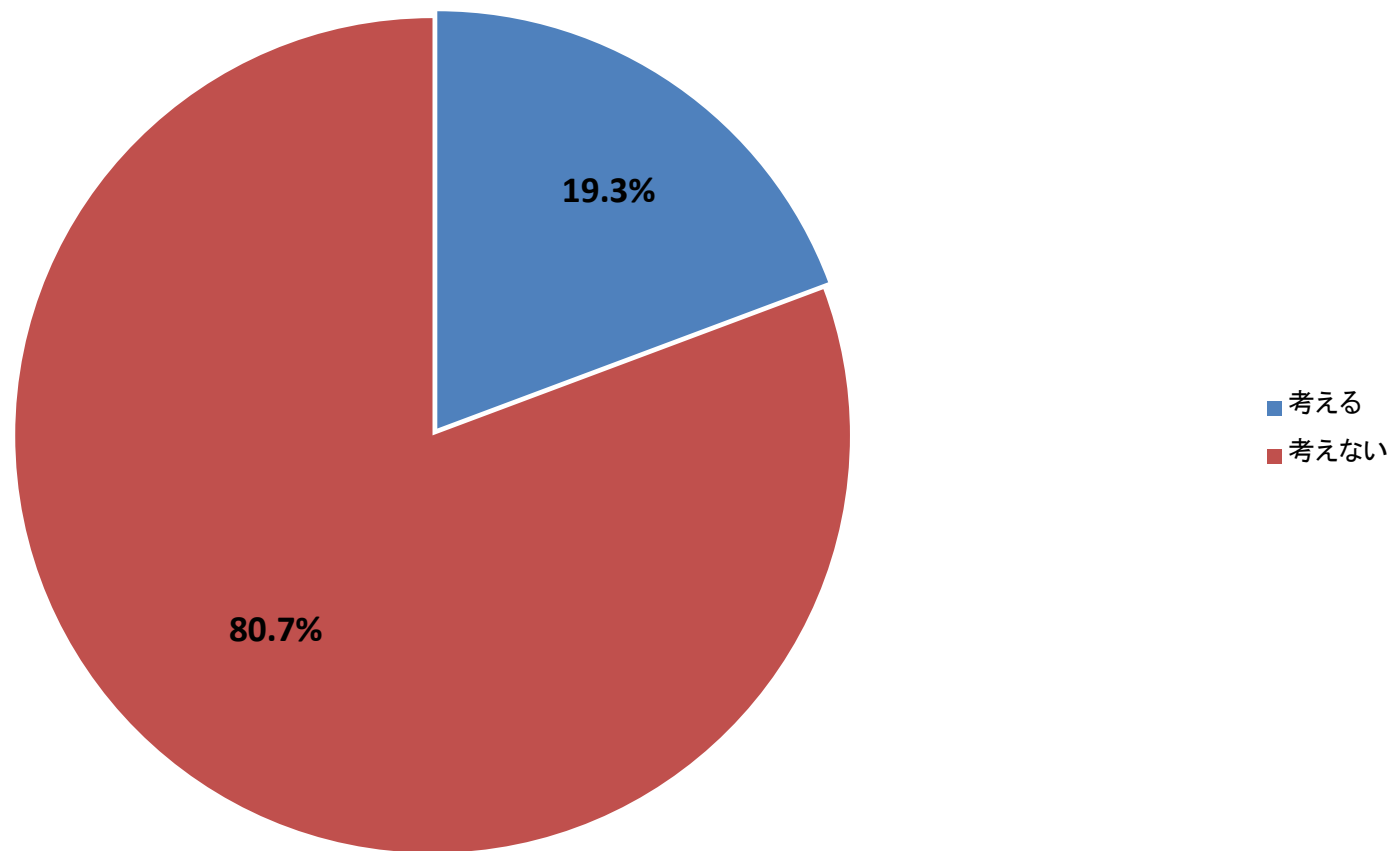


ベビカムweb調査結果 グラフ一覧

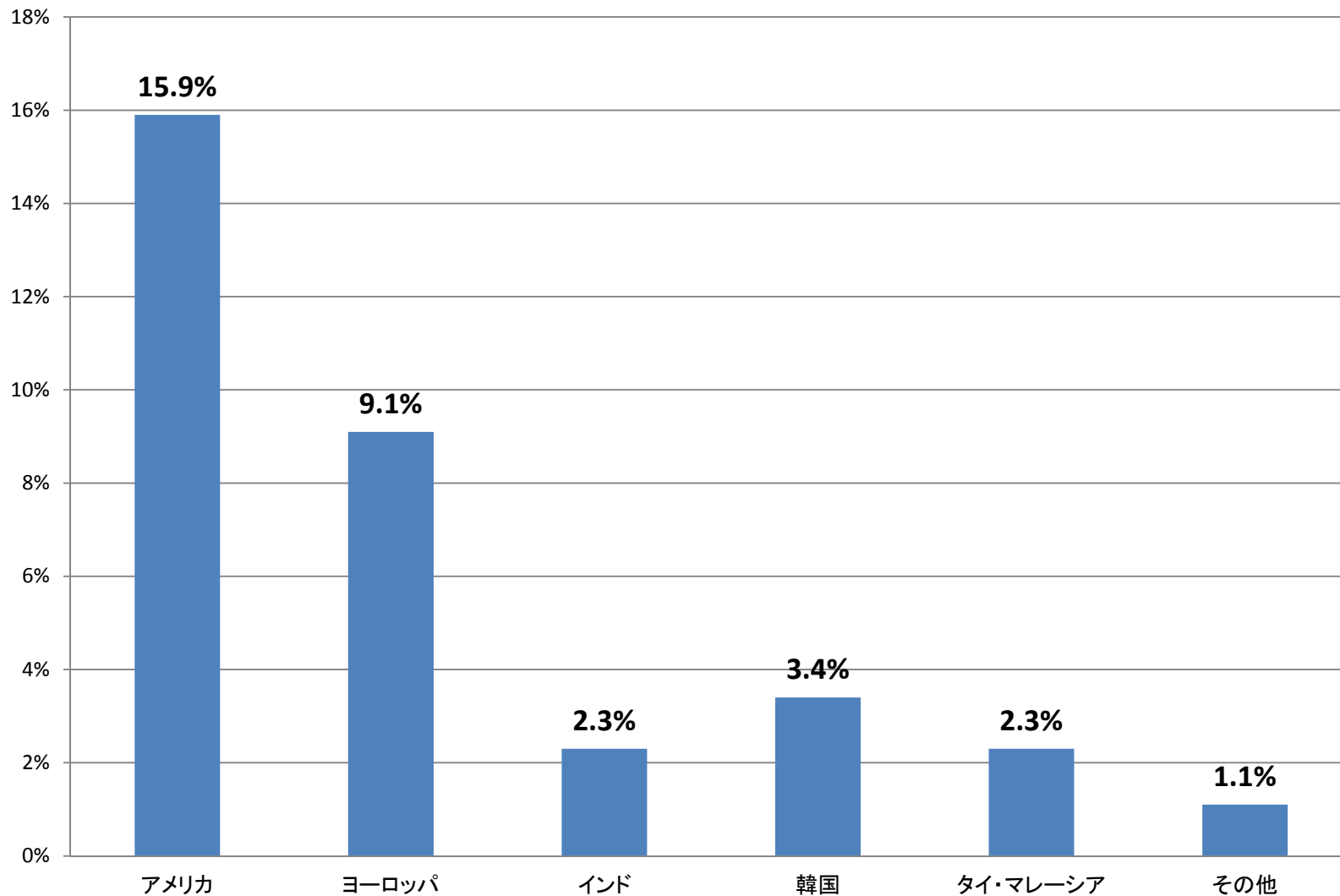
ベビカム調査実施方法

- 2011年7月、ベビカム「妊娠・出産・育児コミュニティ」(<http://com.babycome.ne.jp/>)のウェブサイトにて約2週間アンケートを掲載
- アンケート回答時間は約10分を想定
- Web経由によるデータ送信方式にて回収
- 不妊当事者を対象、88票の回答(回収率不明)

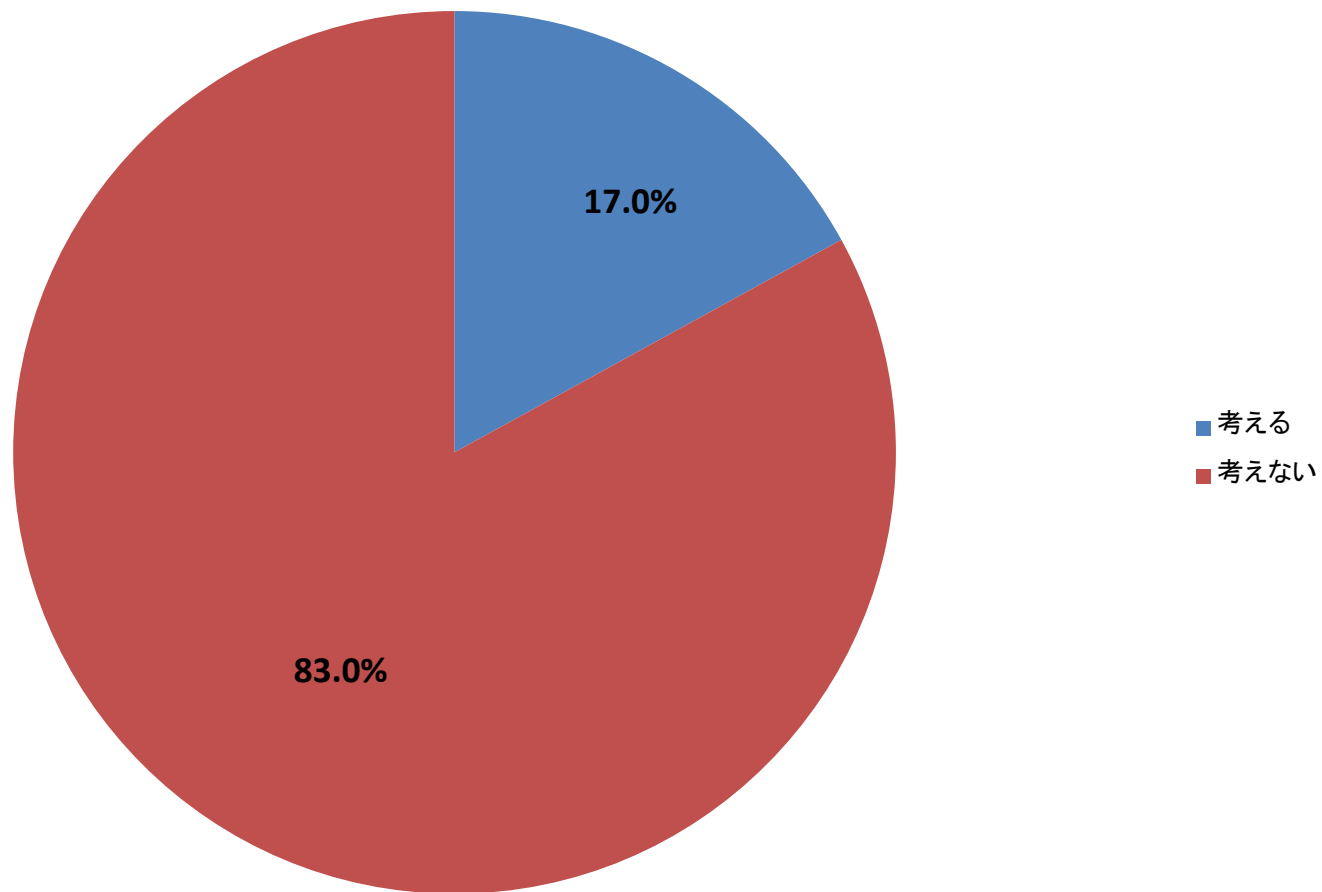
夫婦間体外受精を受けるために 海外渡航を考えるか



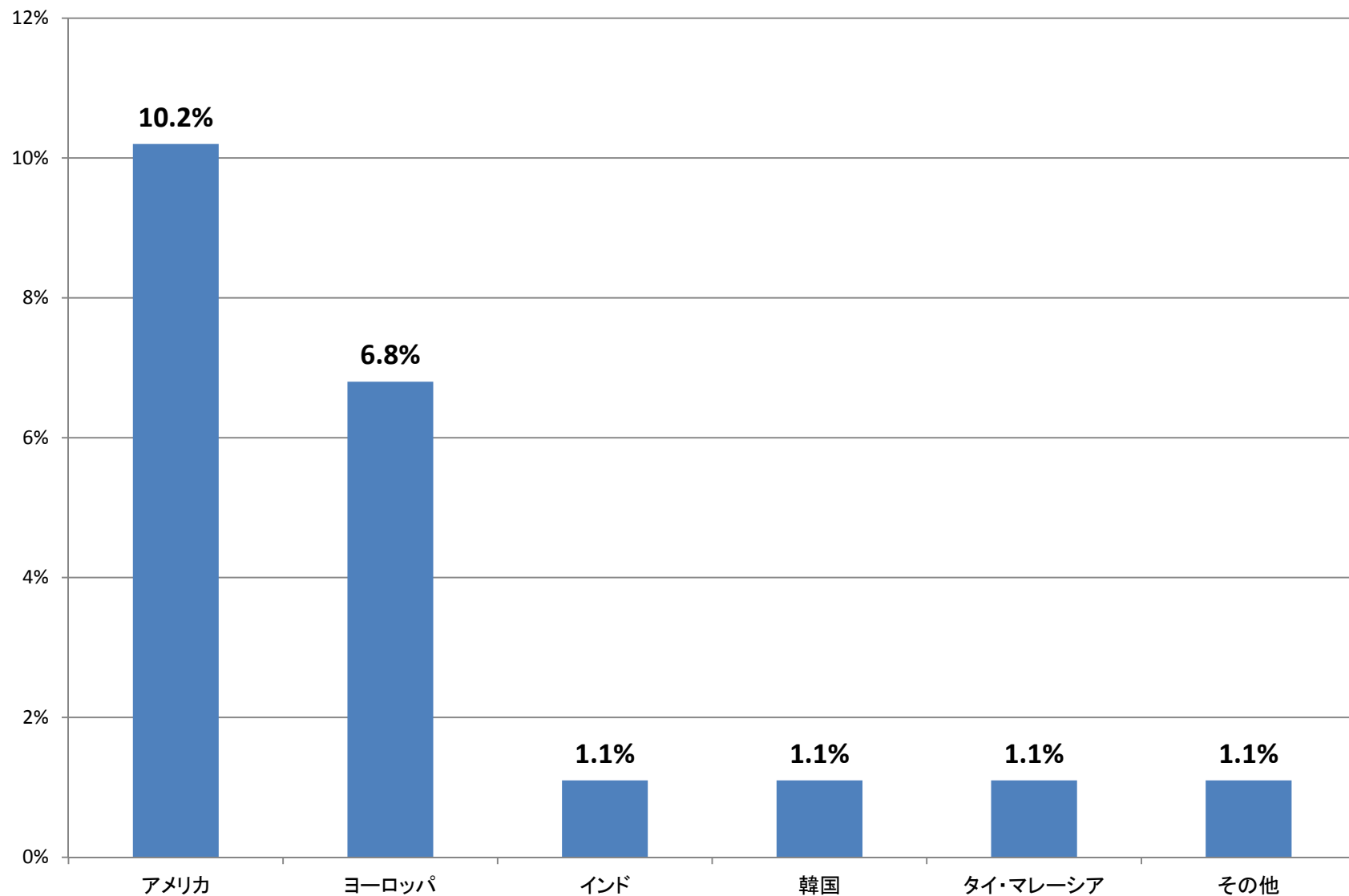
行ってみても良いと思う渡航先 夫婦間体外受精(複数回答可)



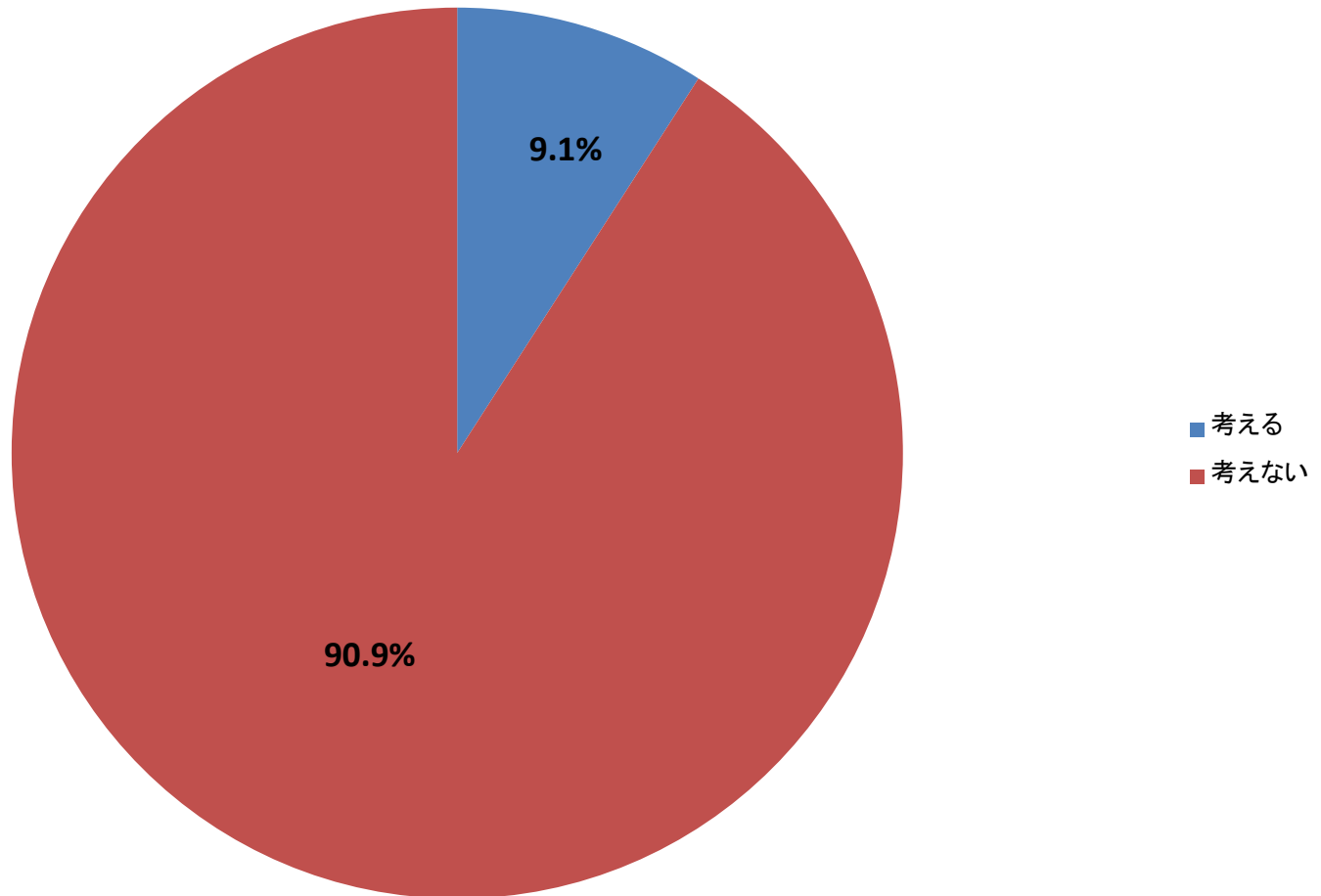
着床前診断を受けるために 海外渡航を考えるか



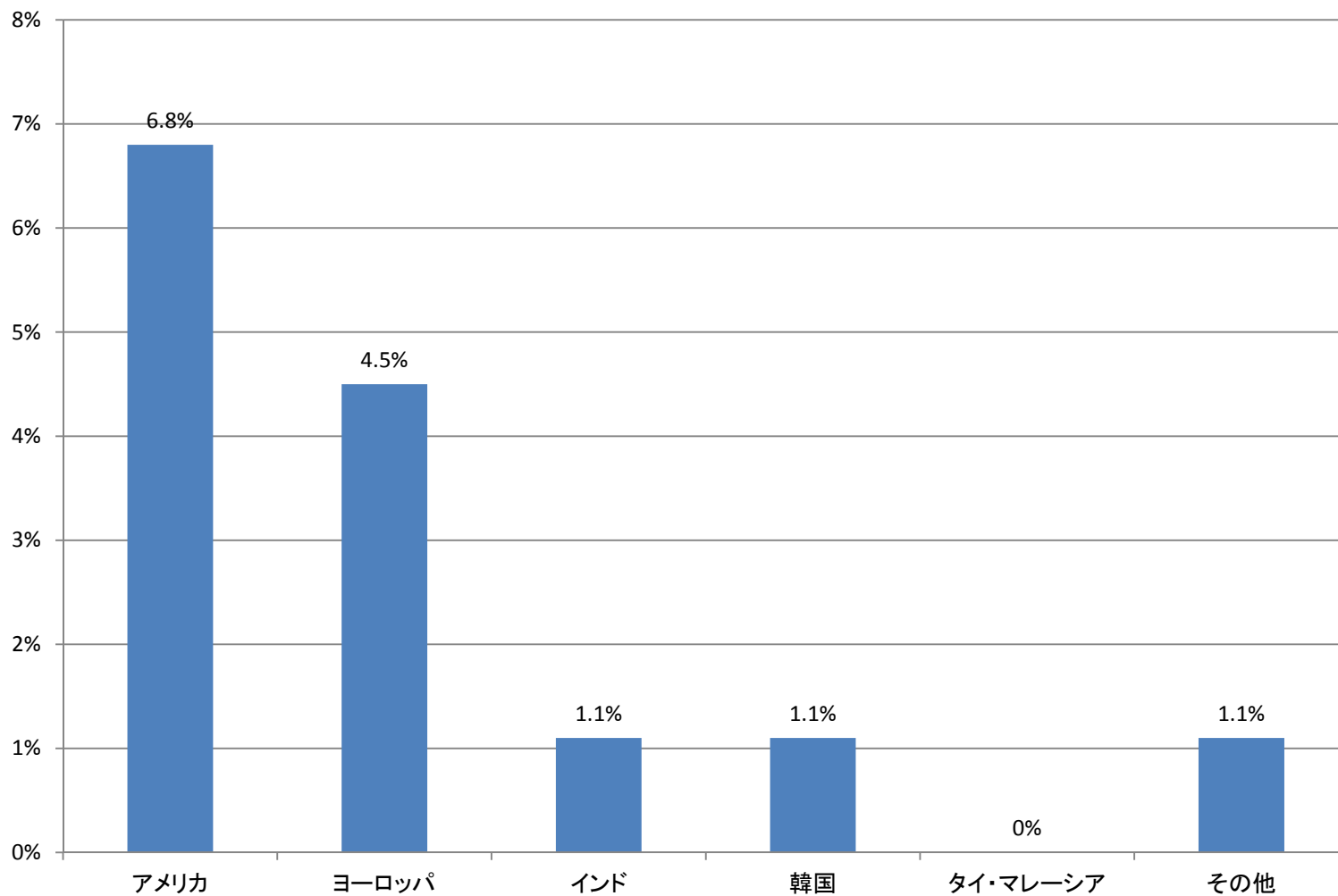
行ってみても良い渡航先 着床前診断(複数回答可)



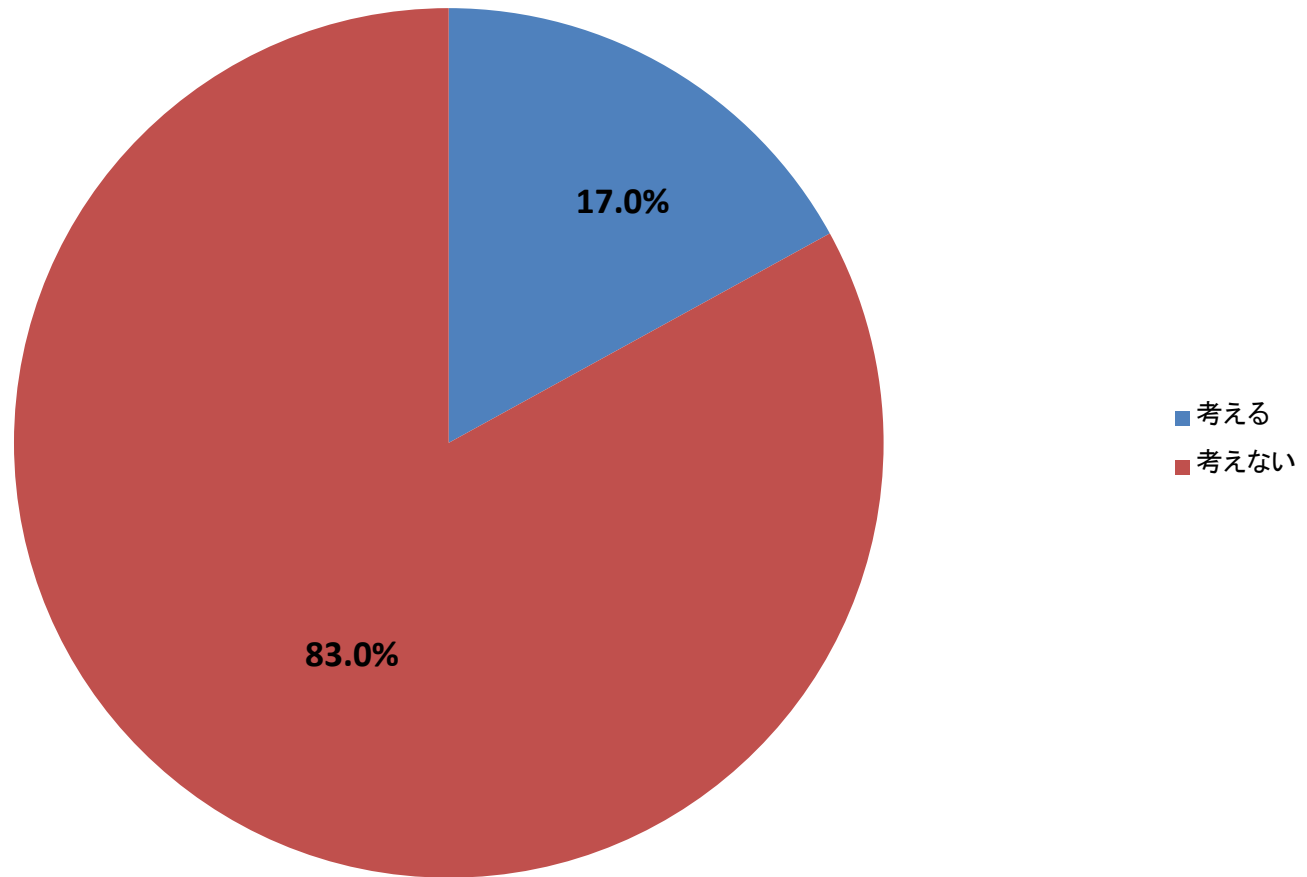
男女産み分けのために海外渡航を考えるか



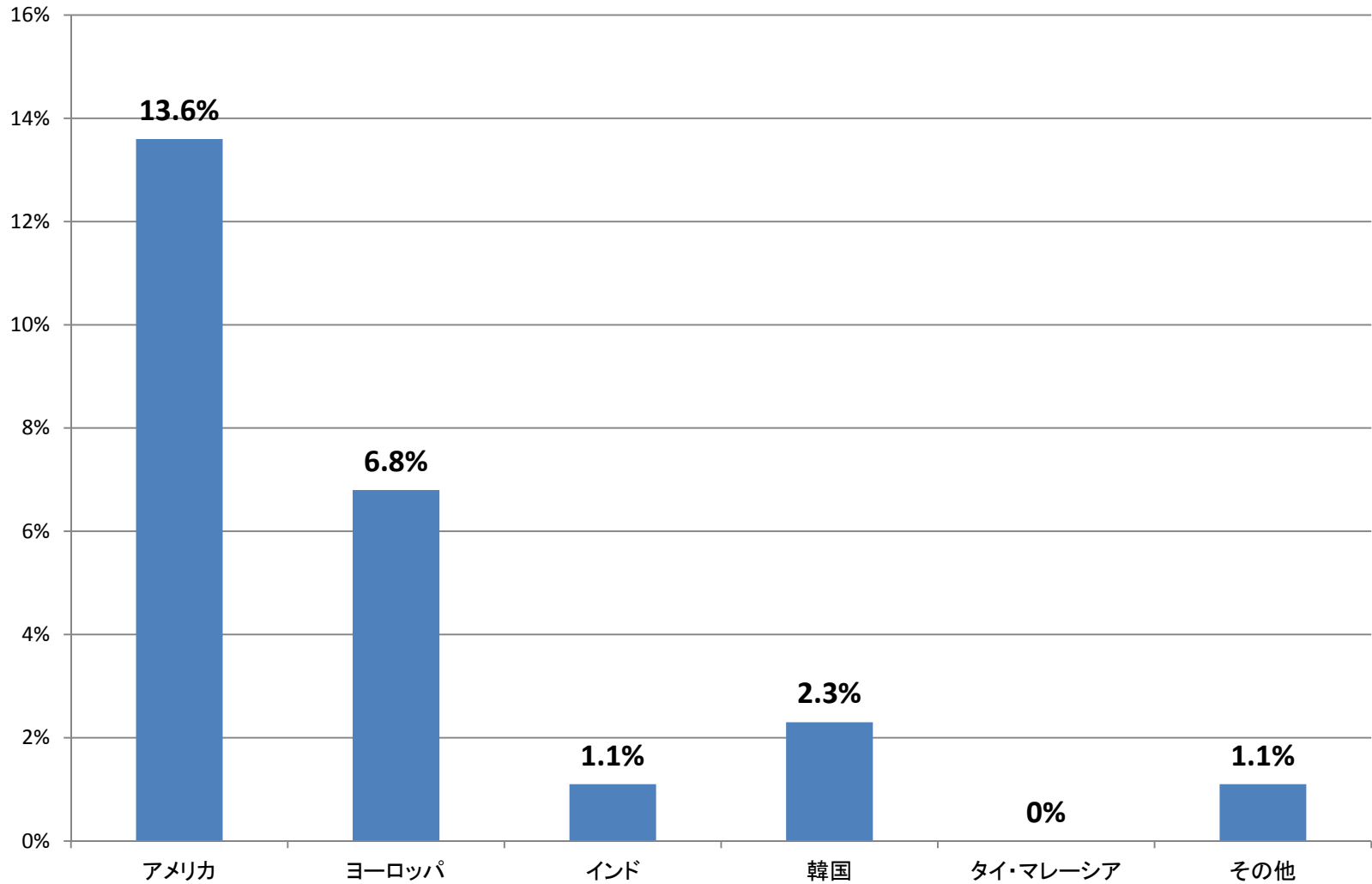
行ってみても良い渡航先 男女産み分け(複数回答可)



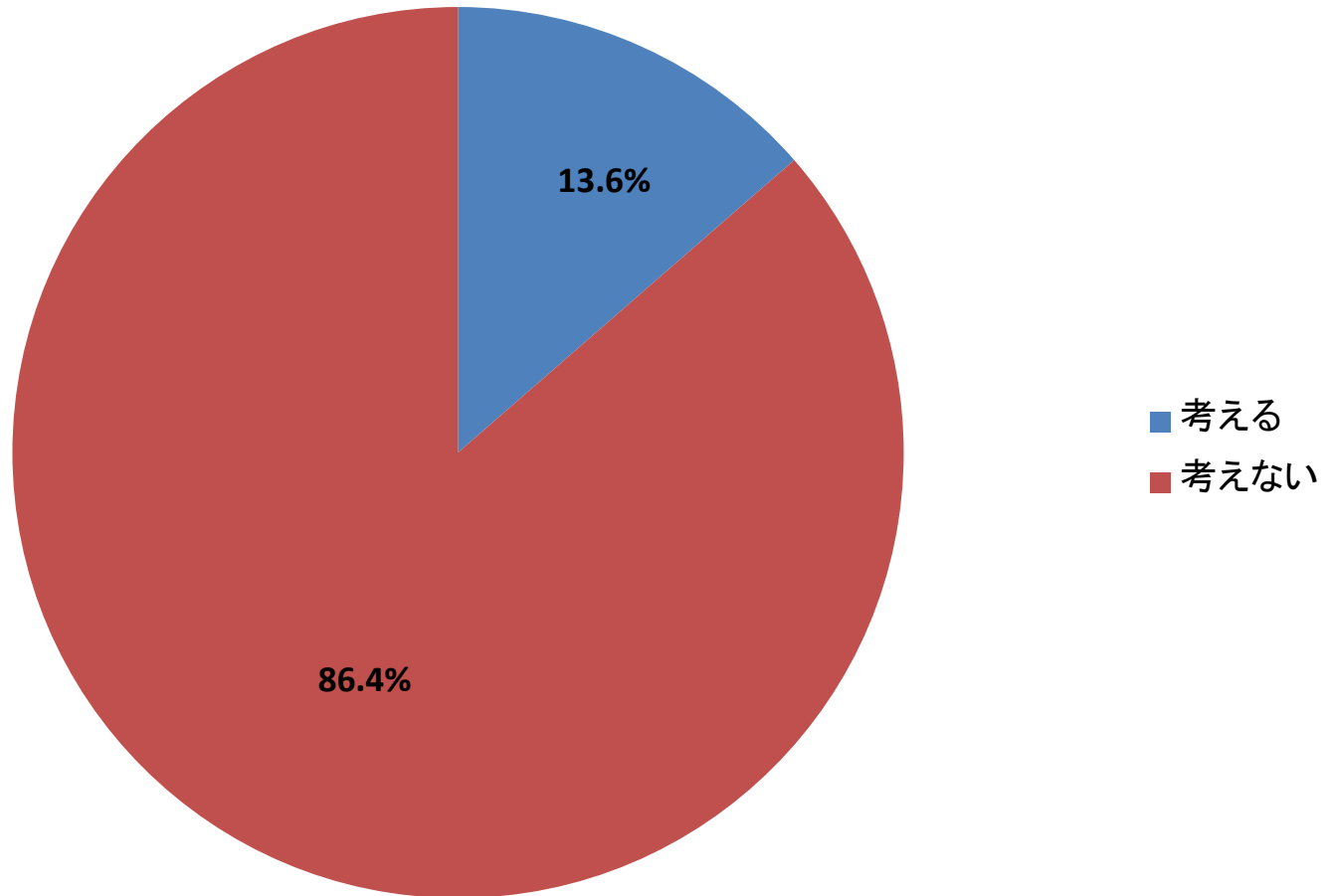
卵子提供を受けるために 海外渡航を考えるか



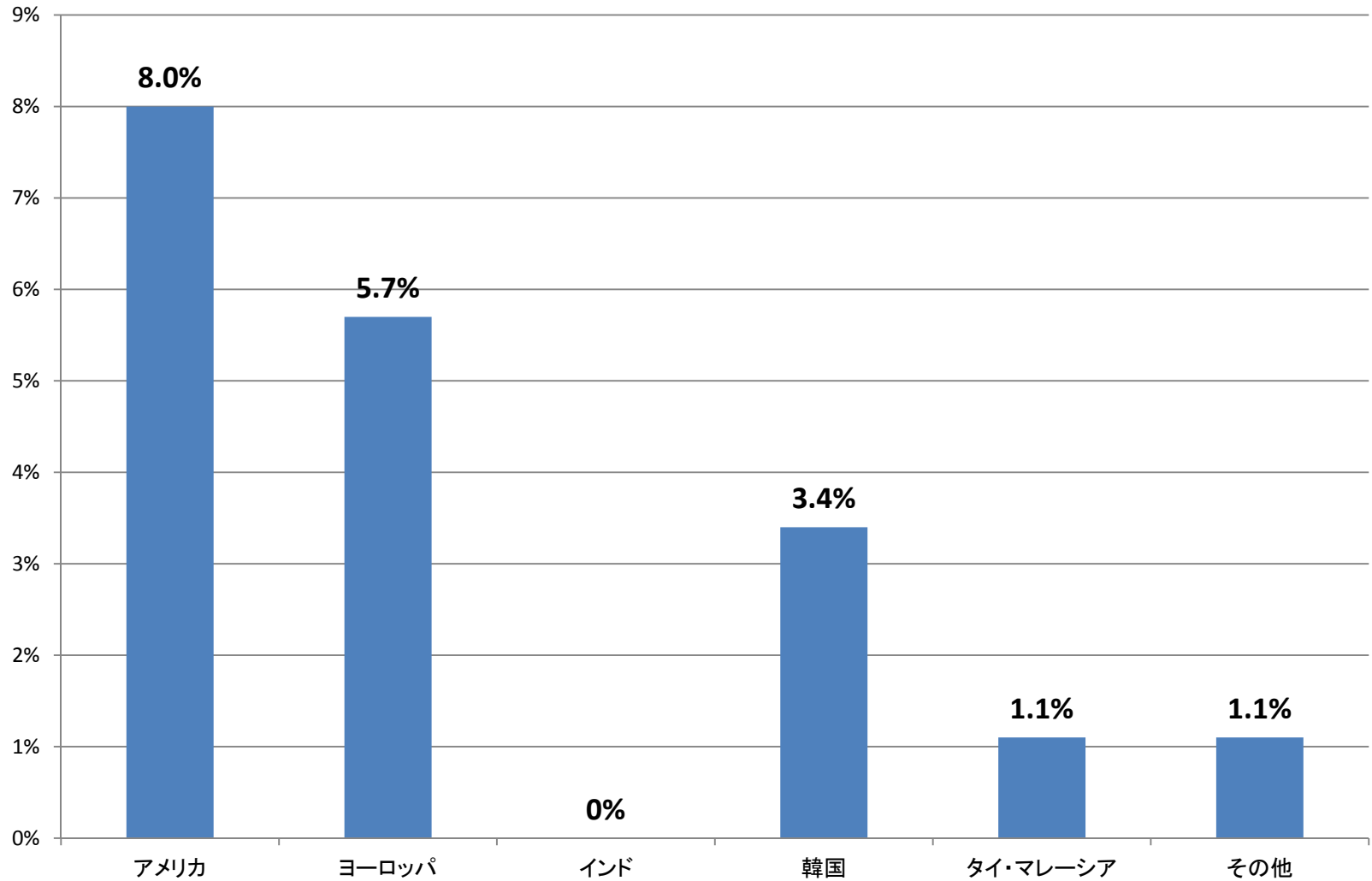
行ってみても良い渡航先 卵子提供(複数回答可)



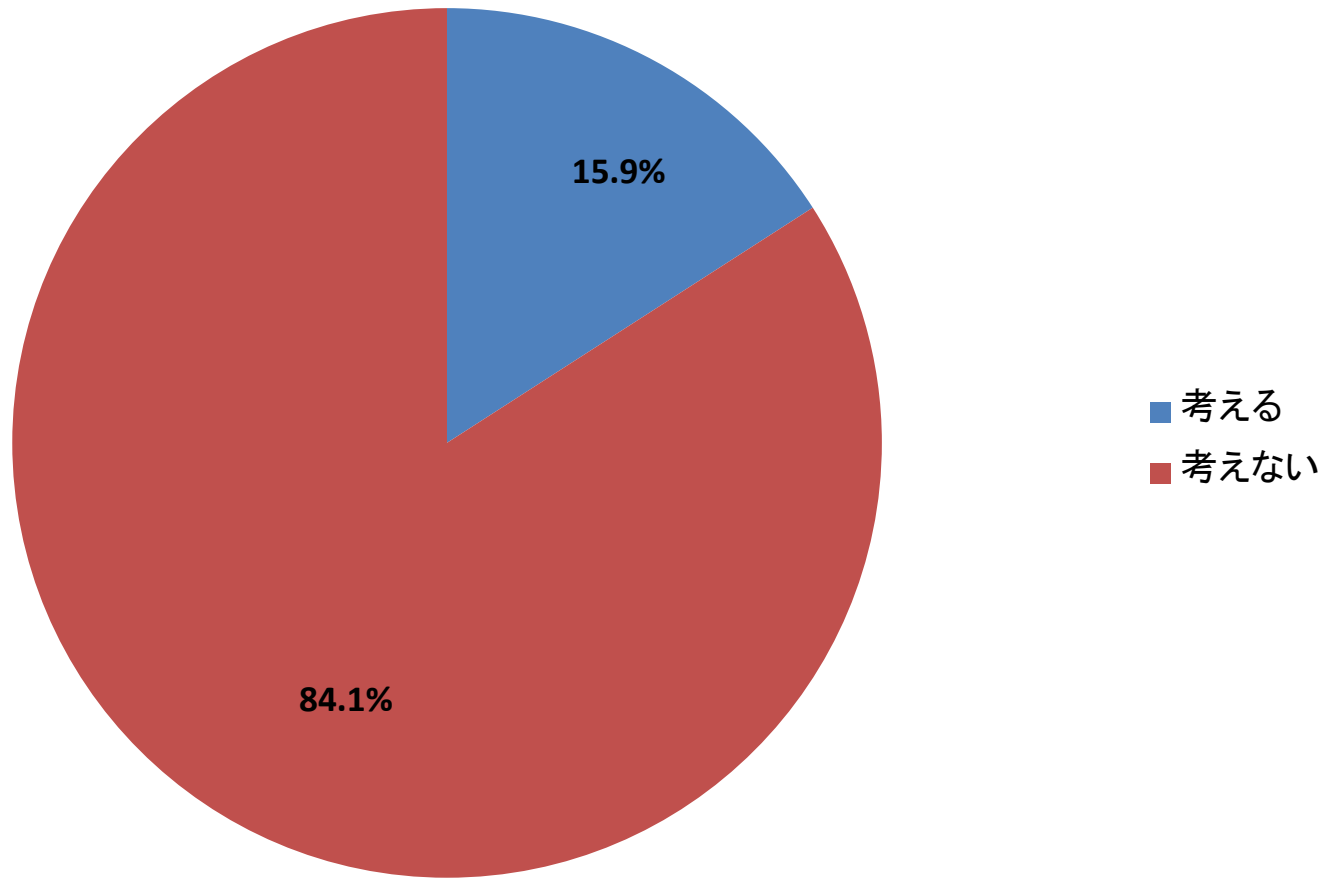
精子提供を受けるために 海外渡航を考えるか



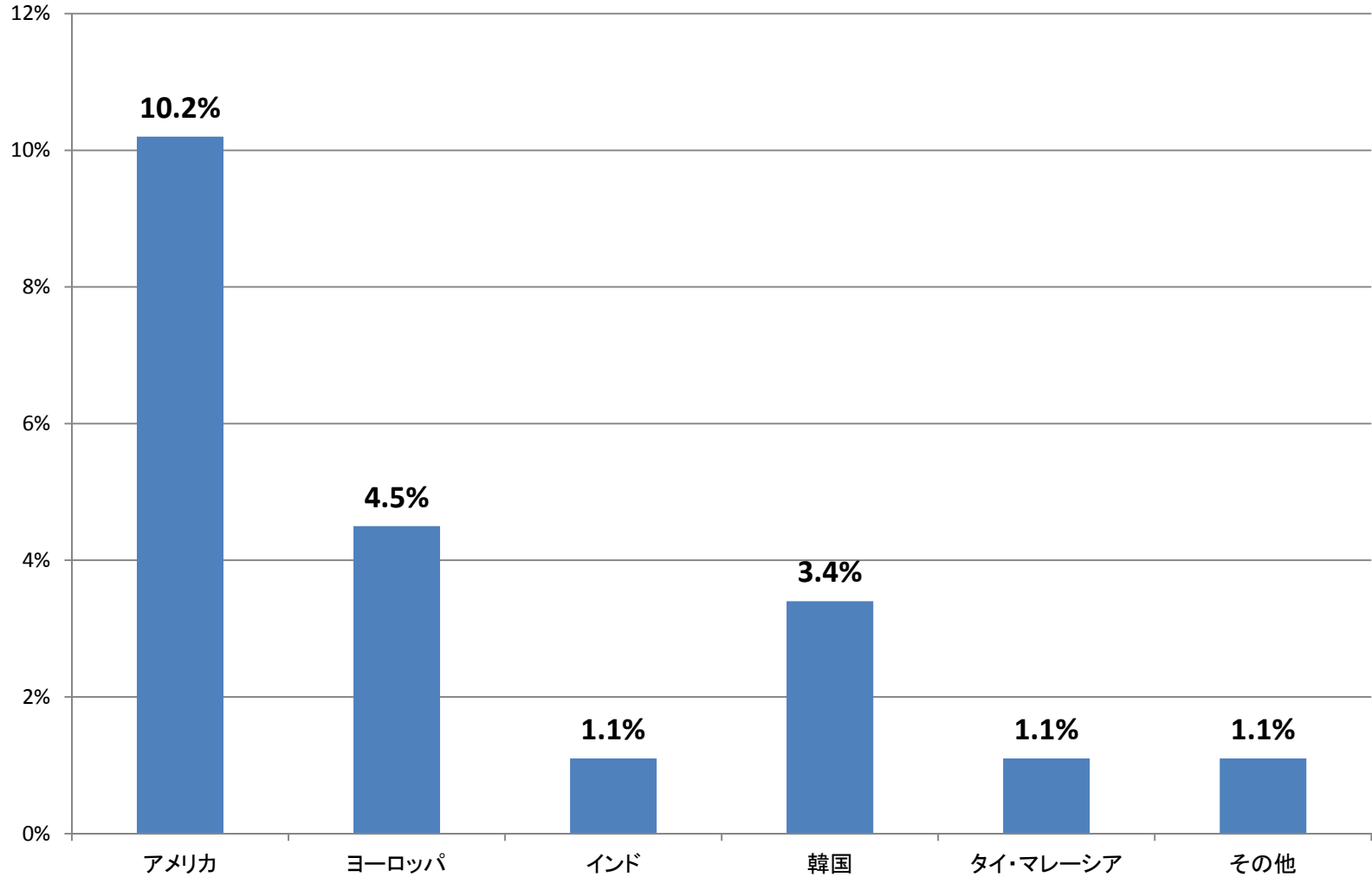
行ってみても良い渡航先 精子提供(複数回答可)



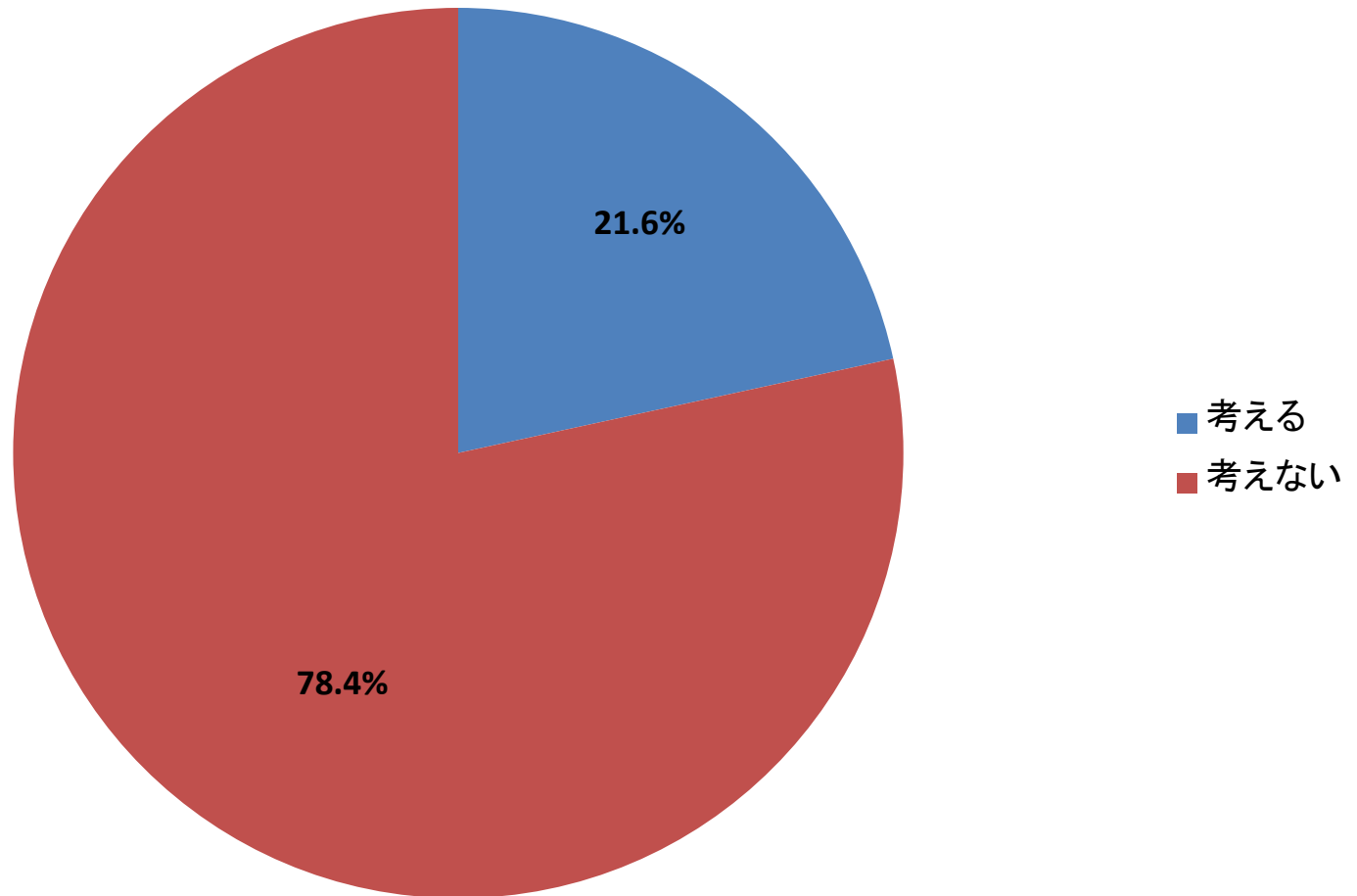
受精卵提供を受けるために 海外渡航を考えるか



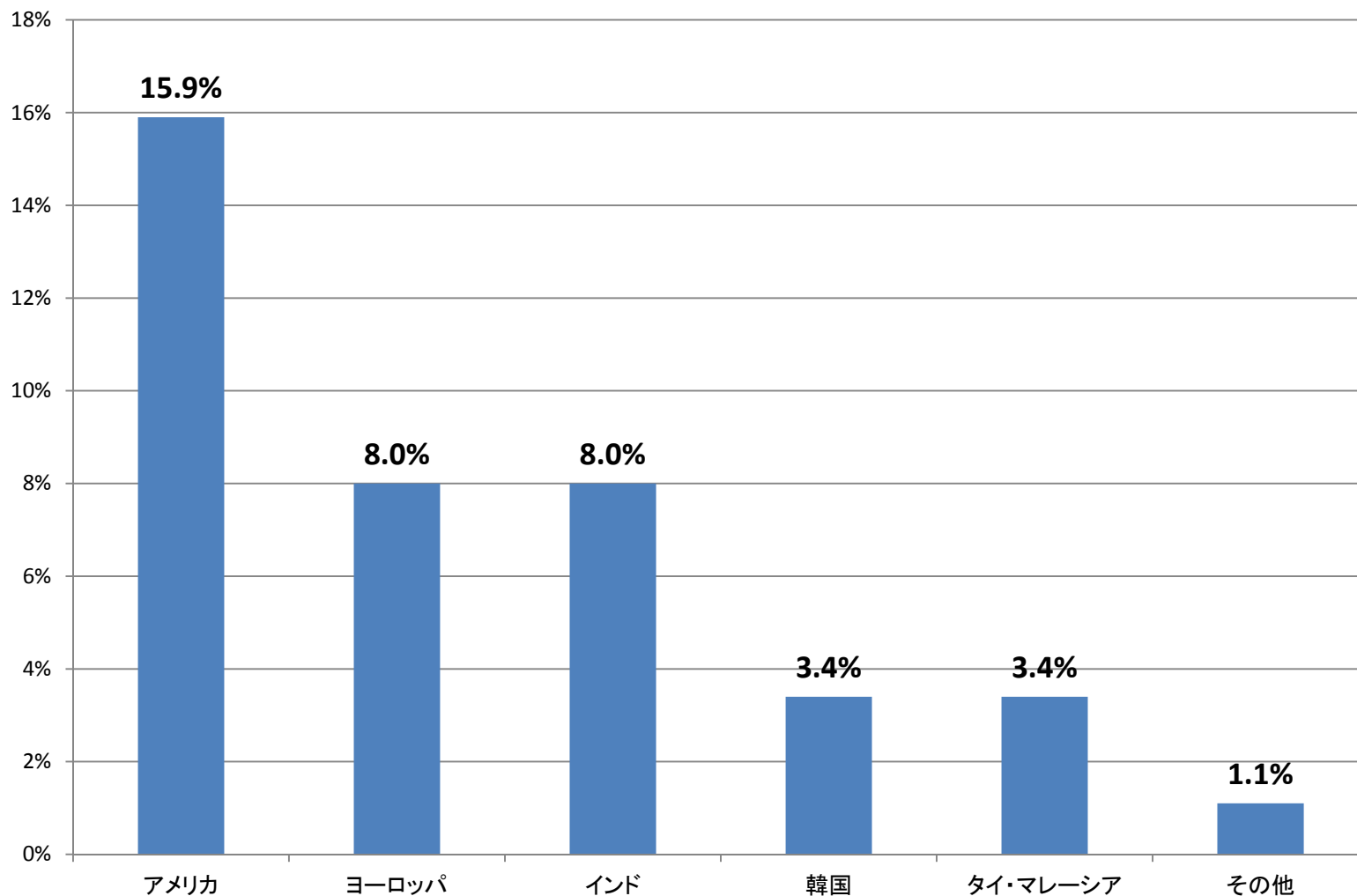
行ってみても良い渡航先 受精卵提供(複数回答可)



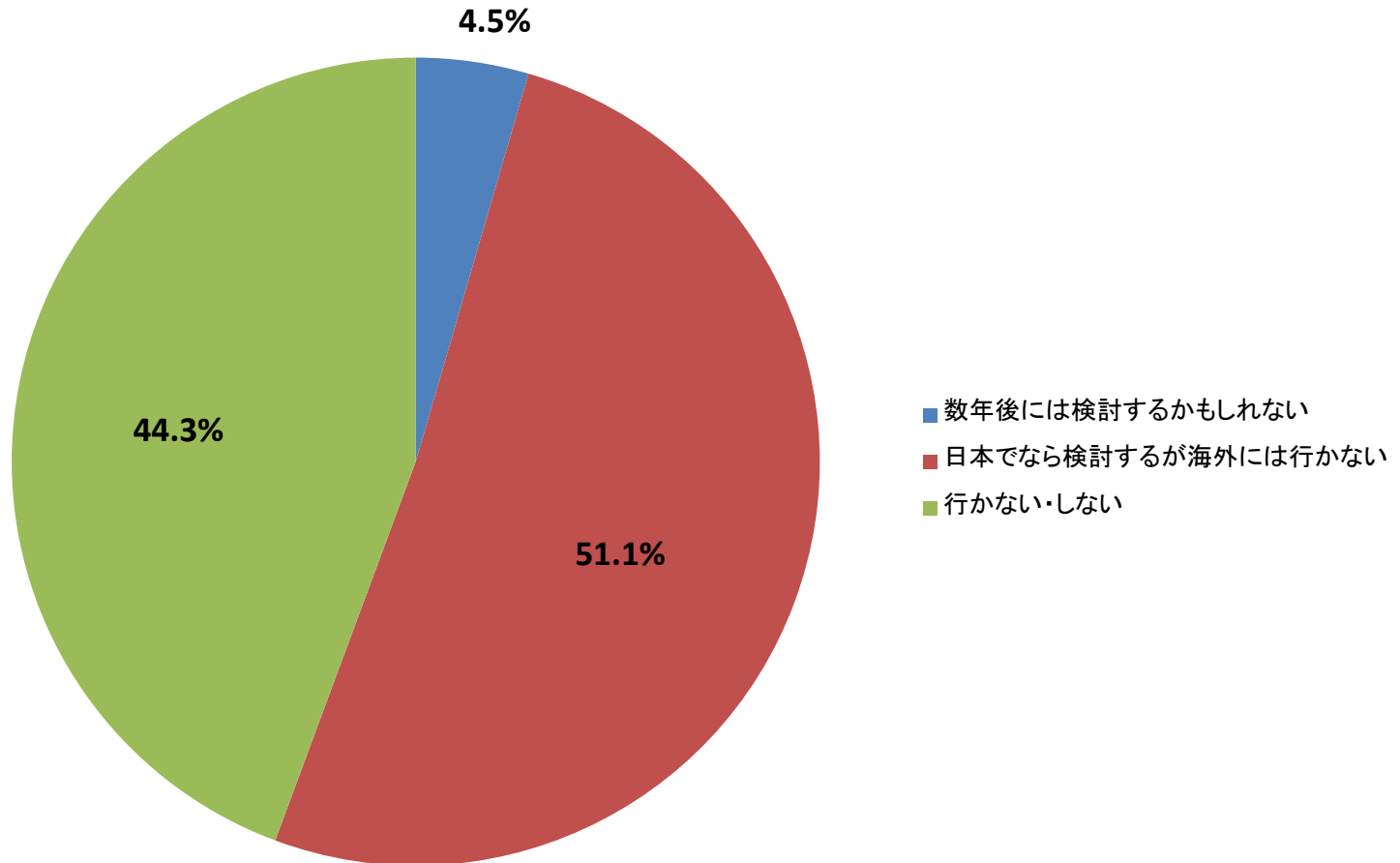
代理出産を依頼するために 海外渡航を考えるか



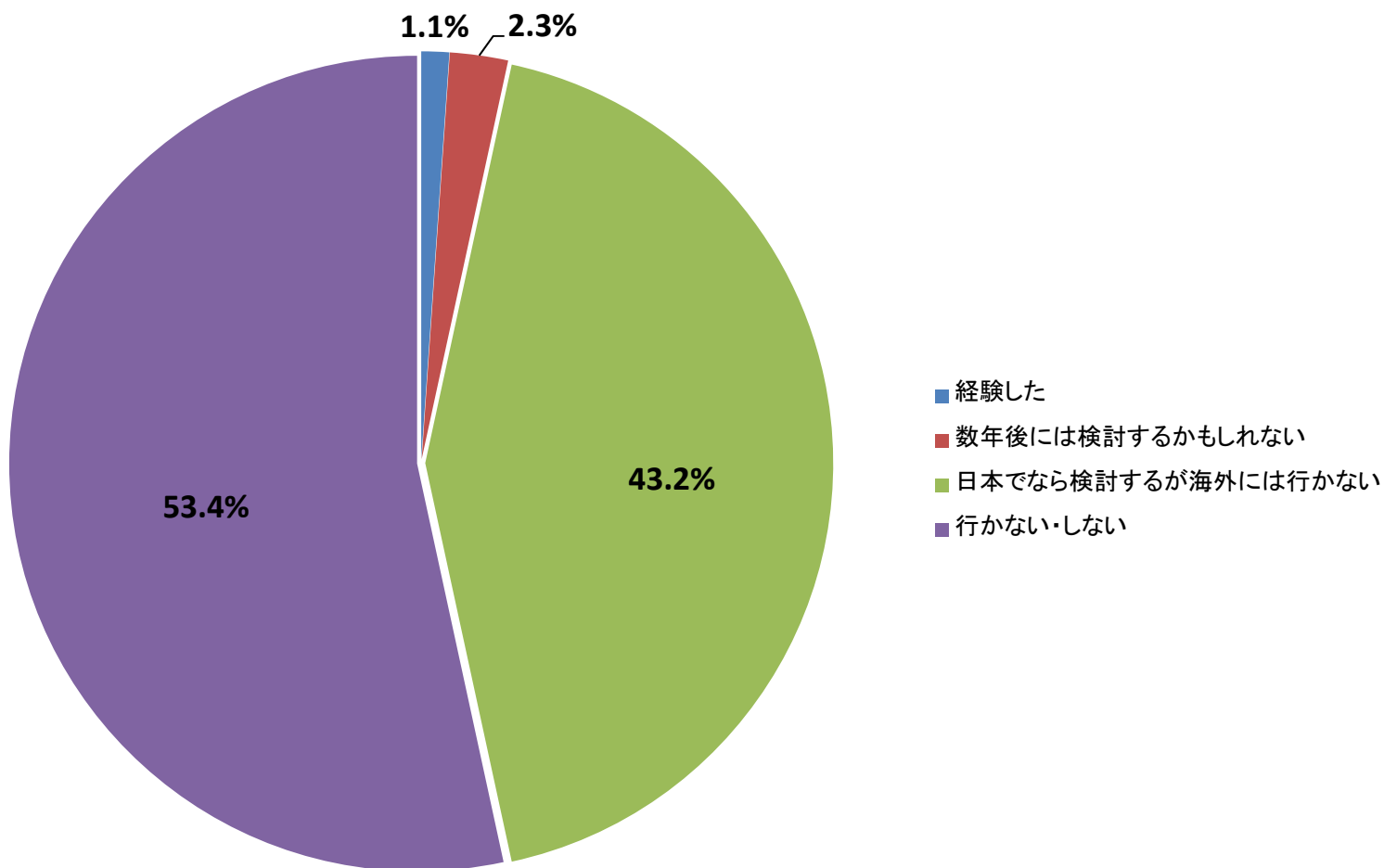
行ってみても良いところ 代理出産(複数回答可)



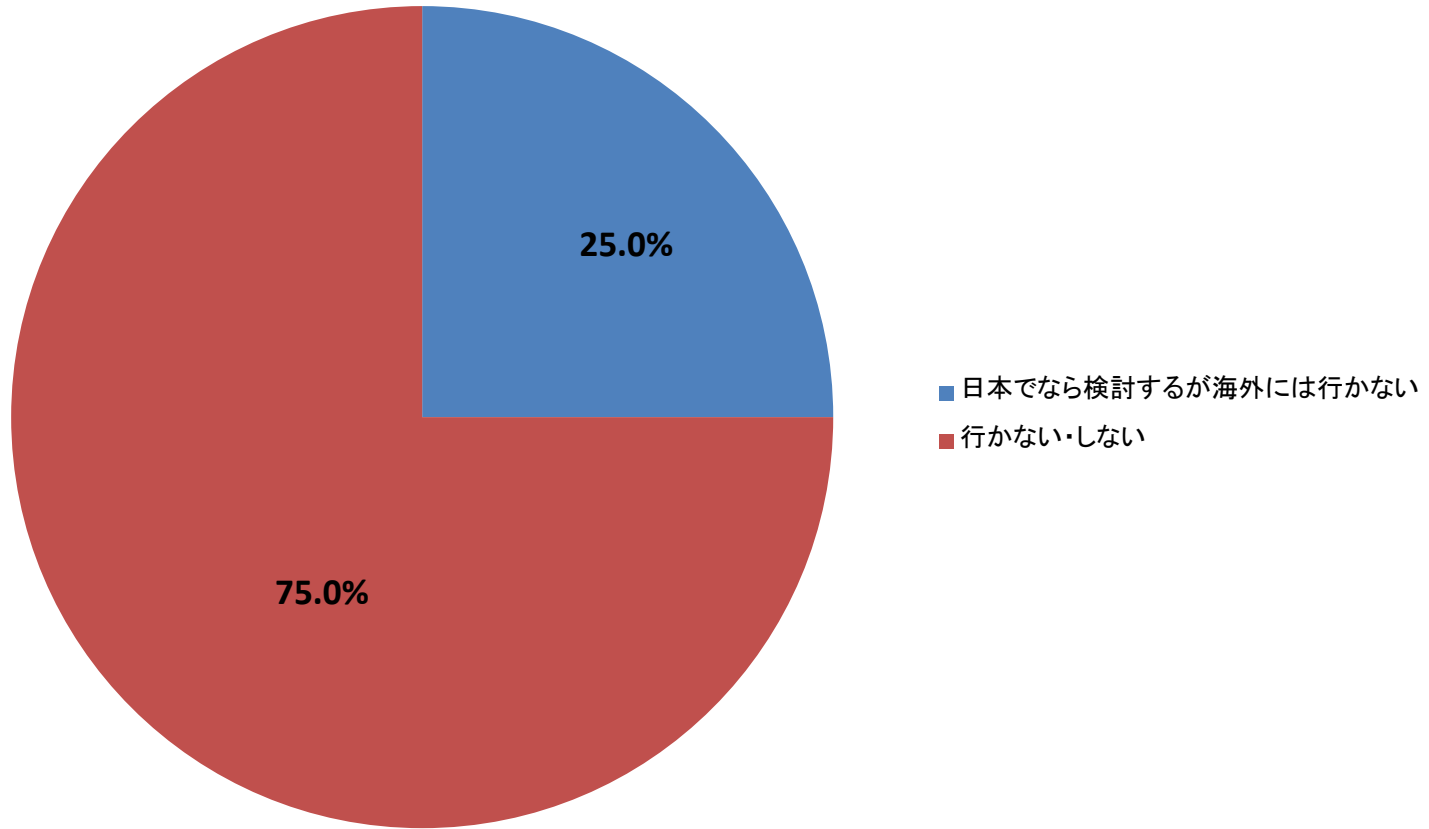
海外での夫婦体外受精についての現実性



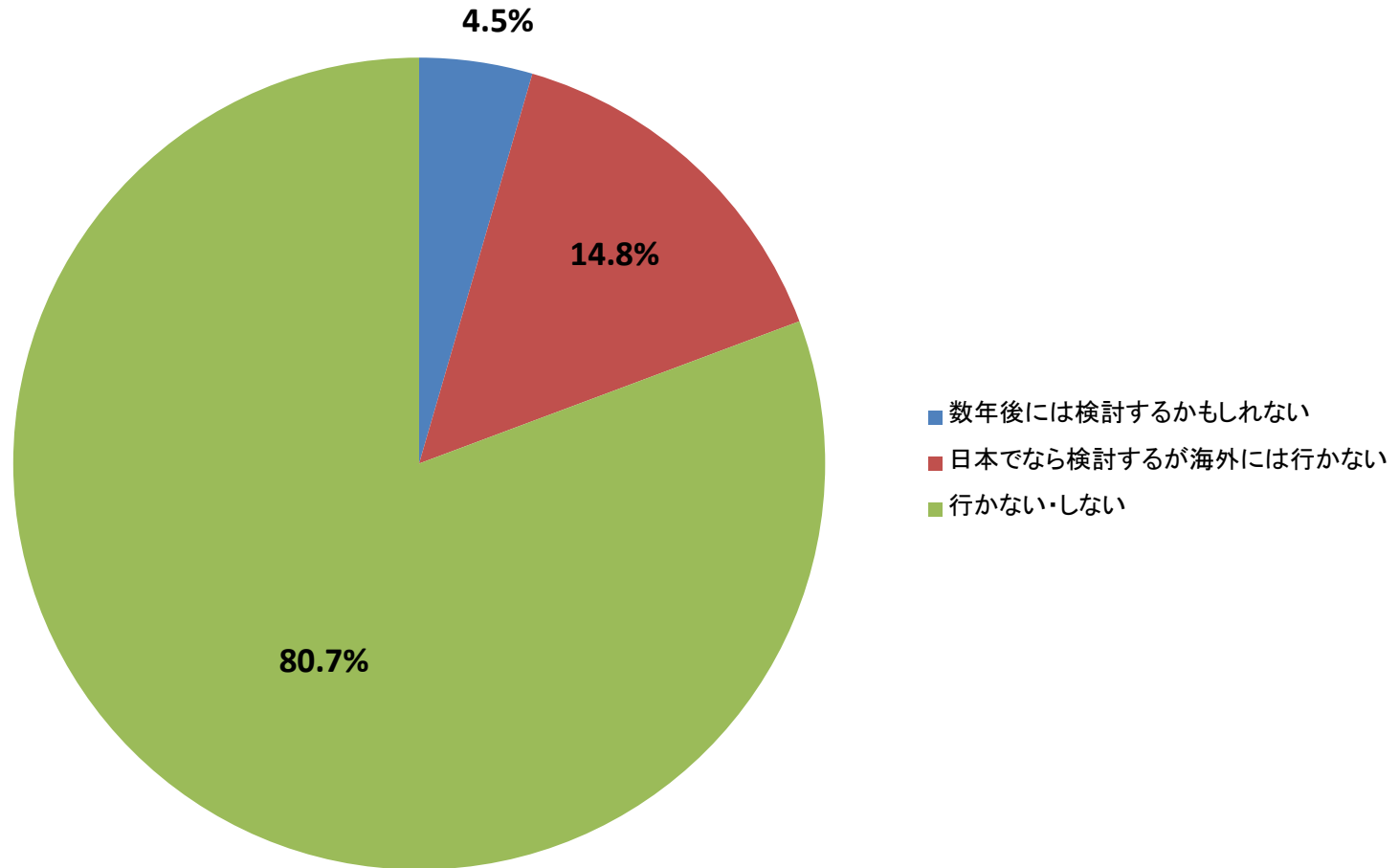
着床前診断についての現実性



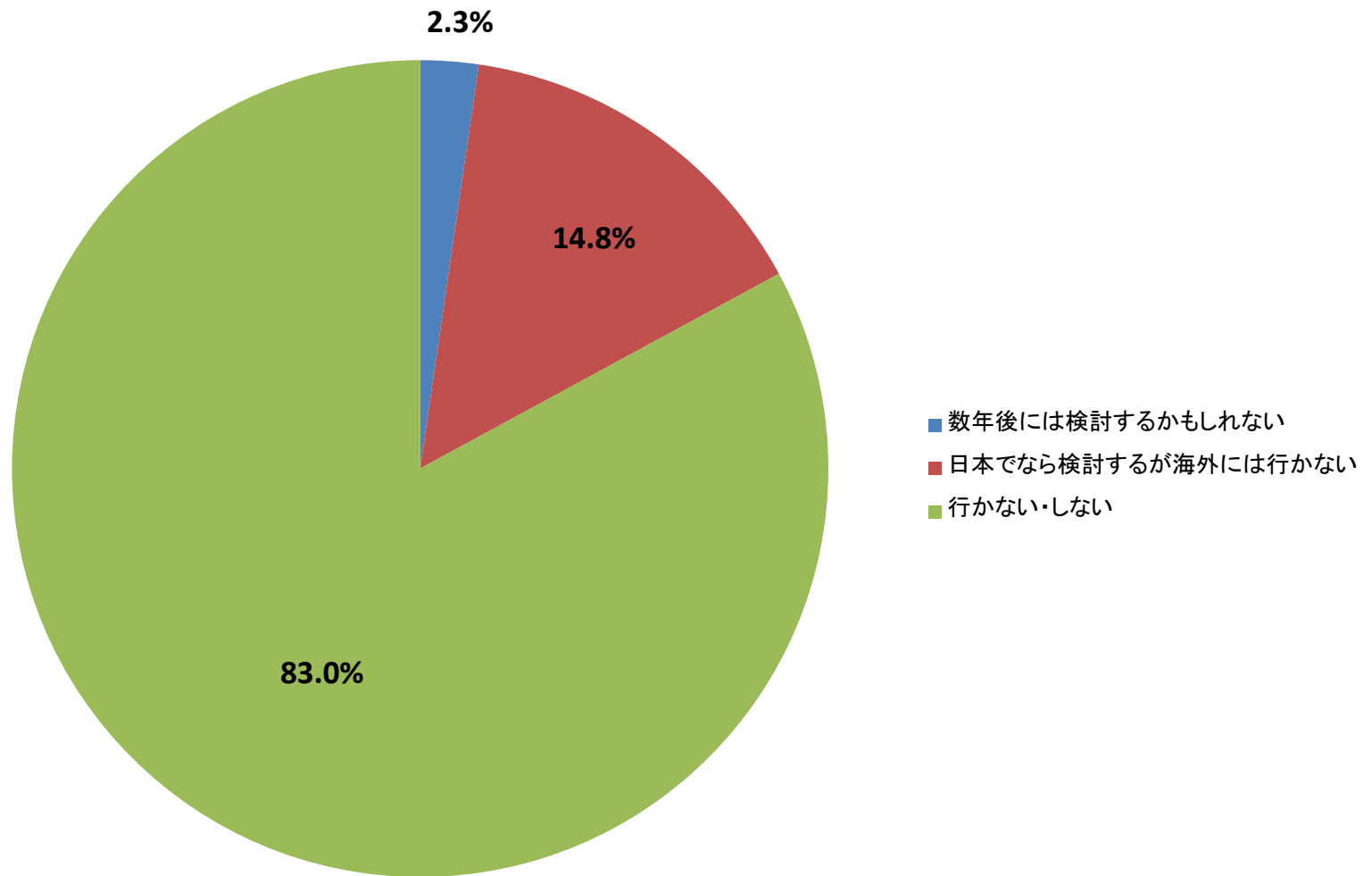
男女産み分けについての現実性



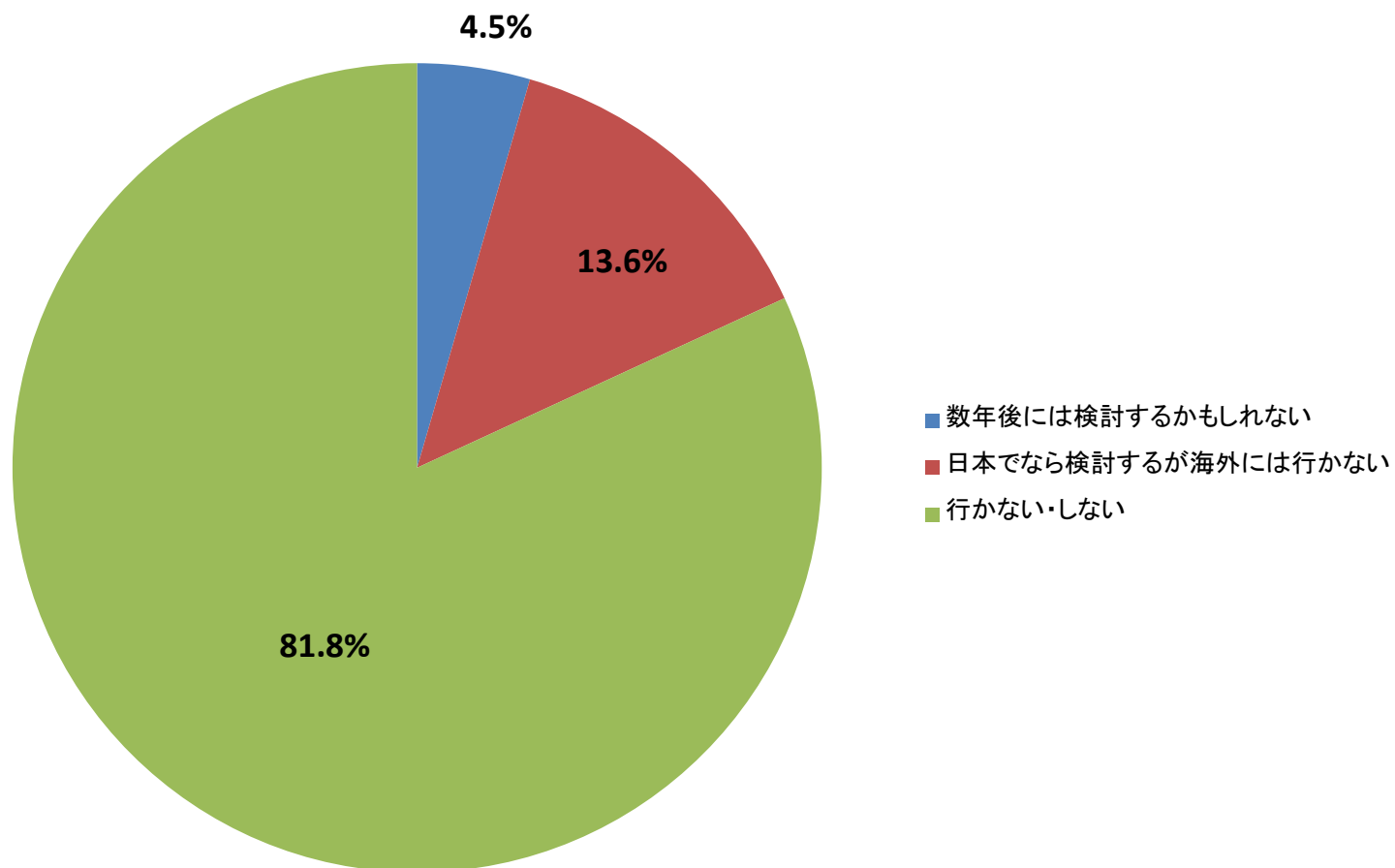
卵子提供についての現実性



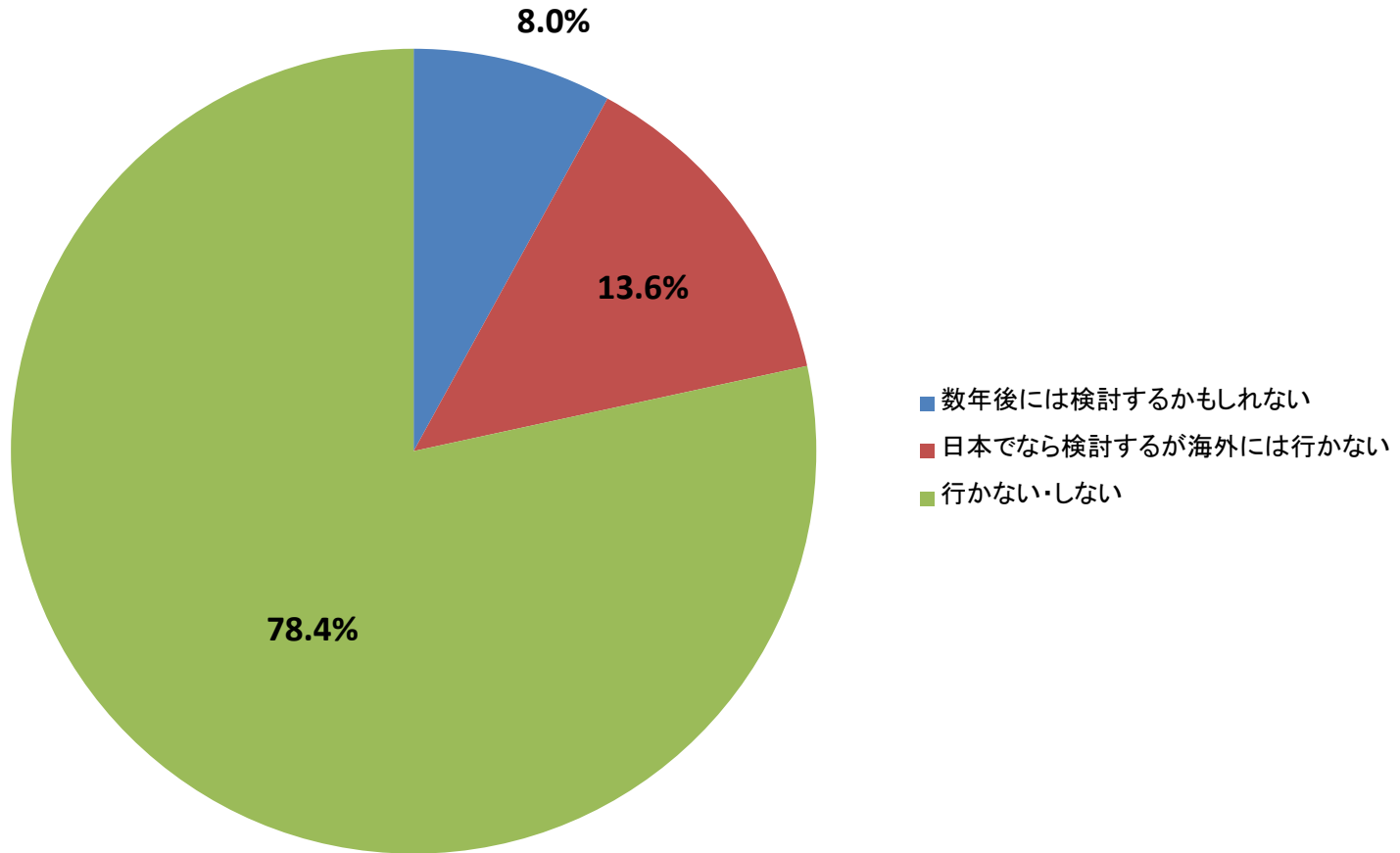
精子提供についての現実性



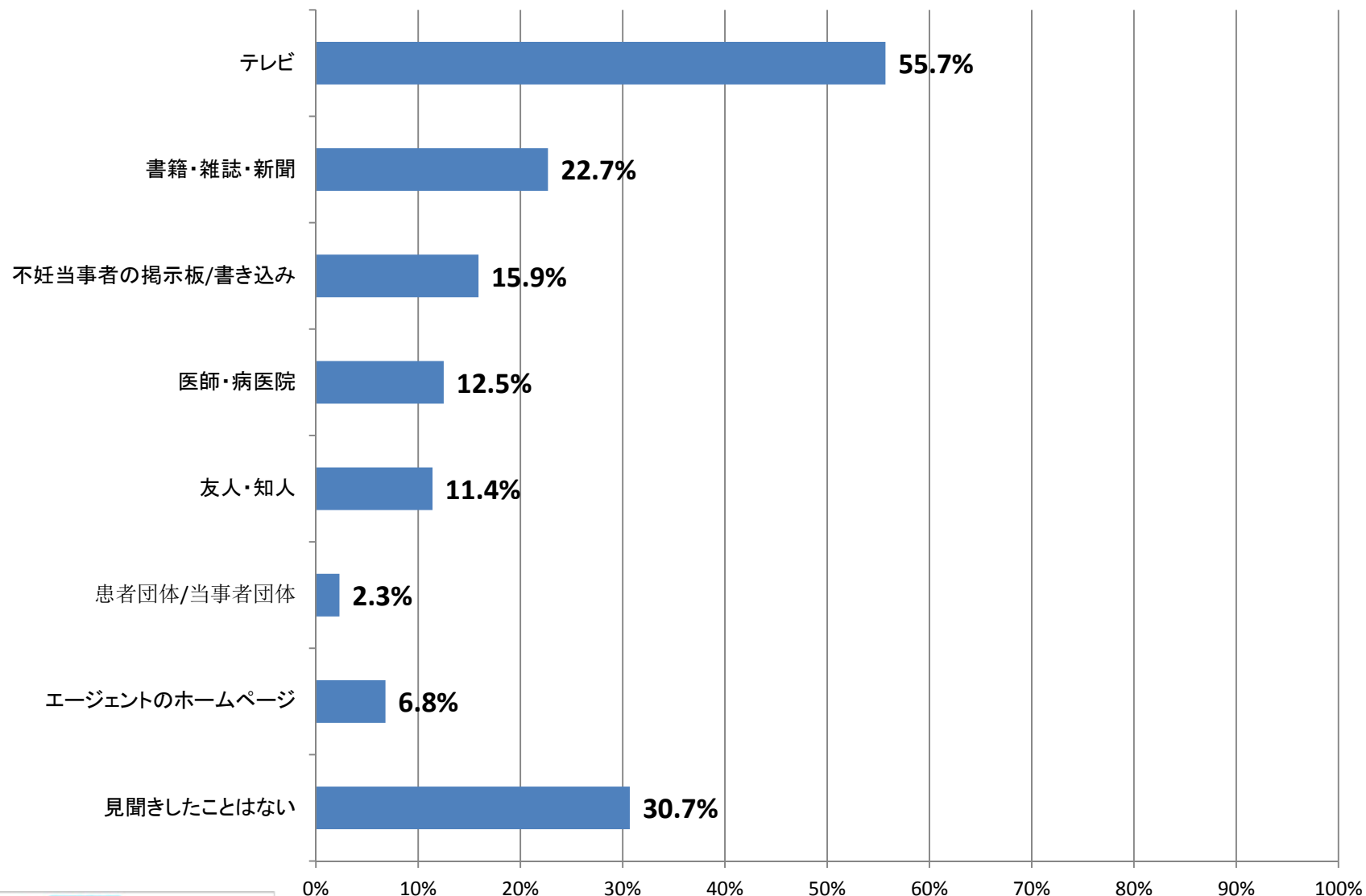
受精卵提供についての現実性



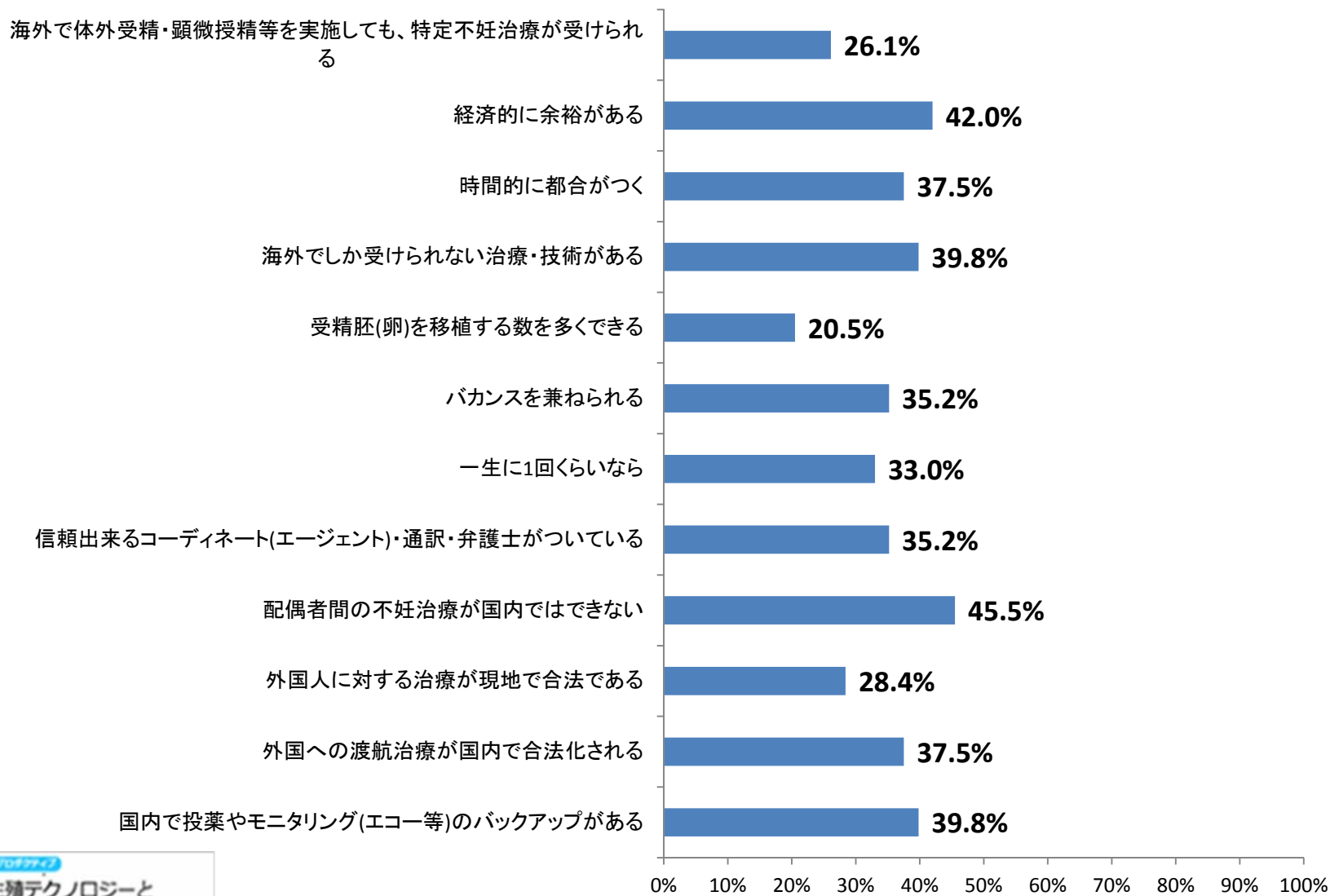
代理出産についての現実性



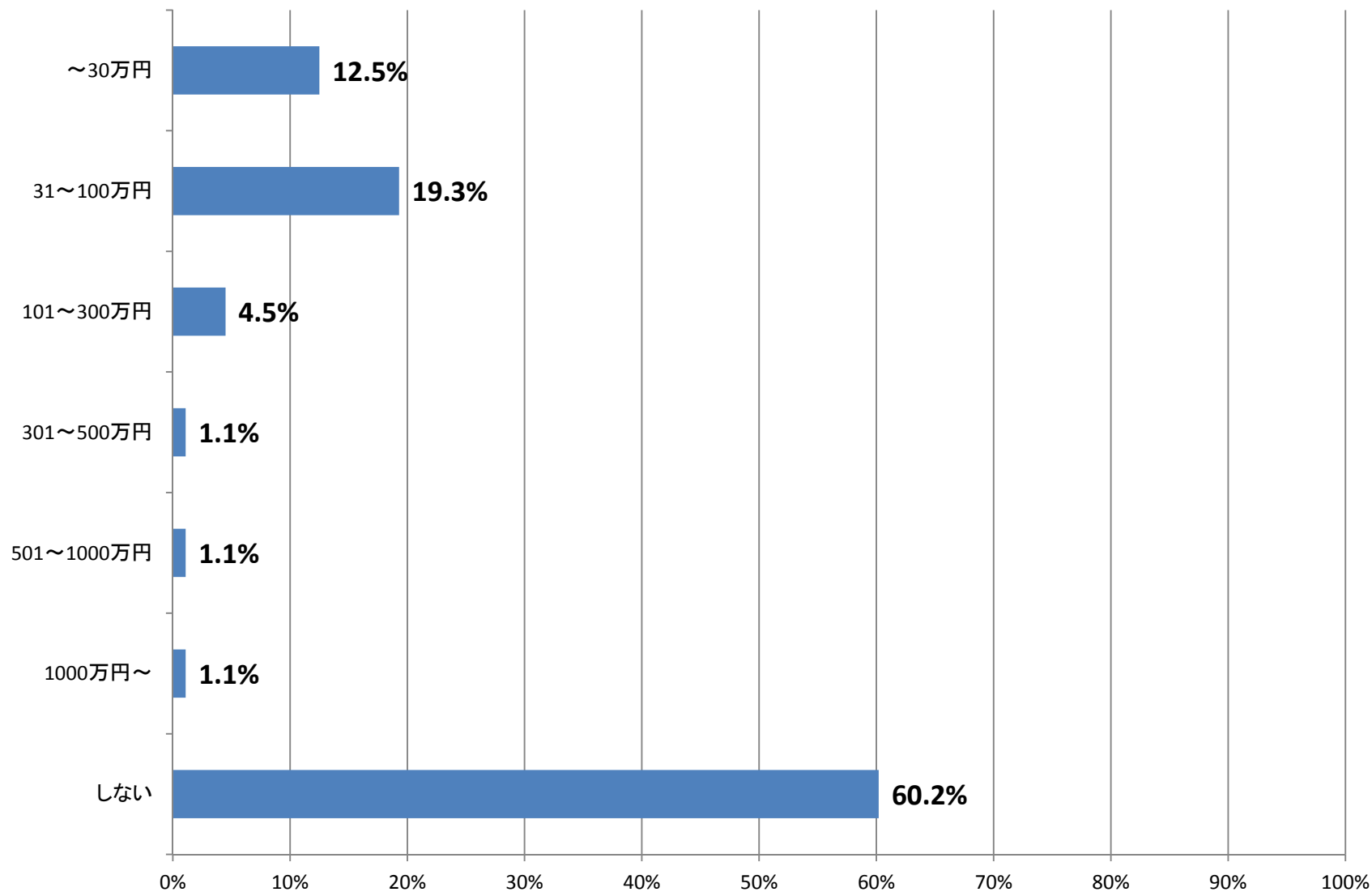
渡航治療に関する情報源(複数回答可)



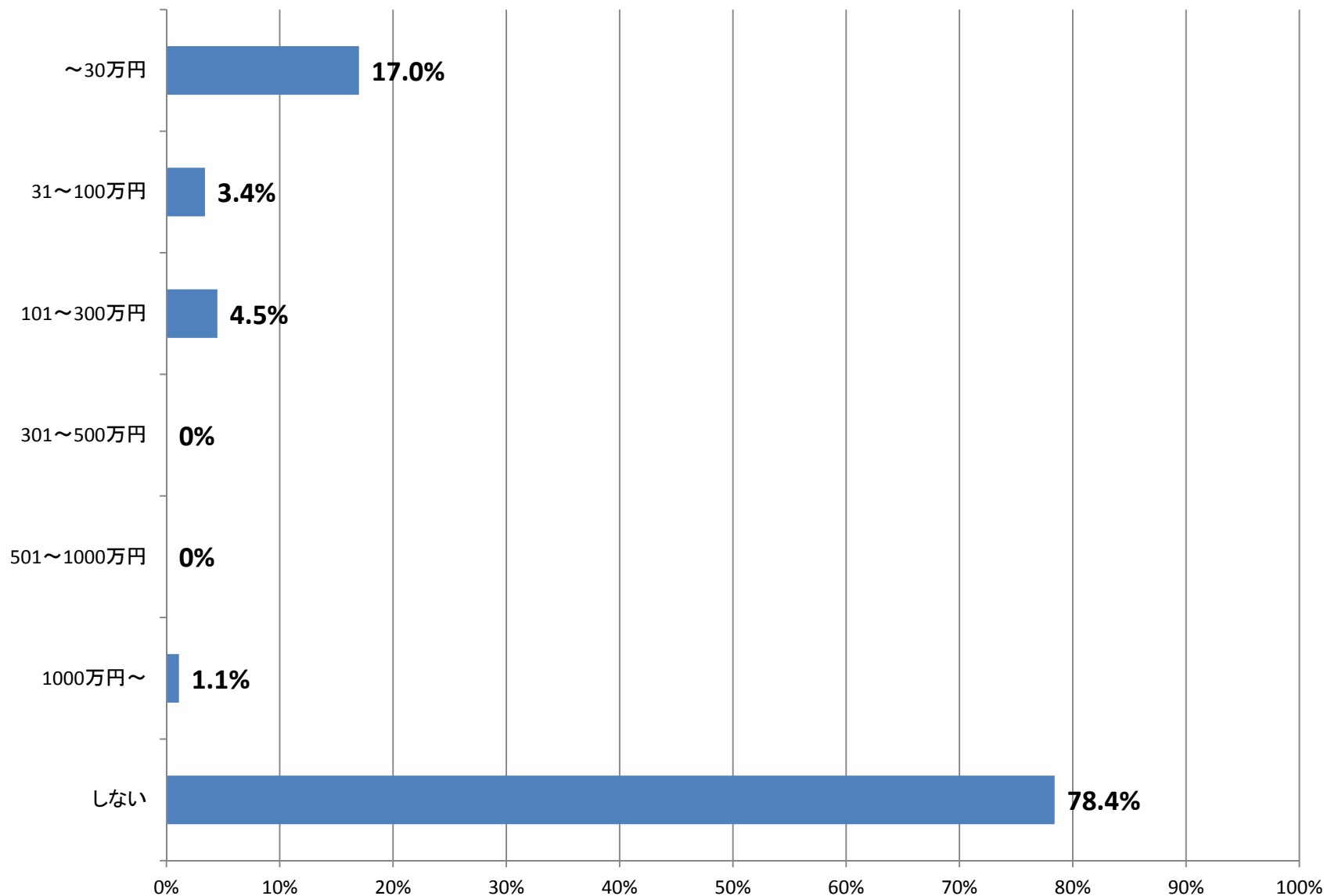
どのような条件なら配偶者間の不妊治療のために渡航治療を行うか



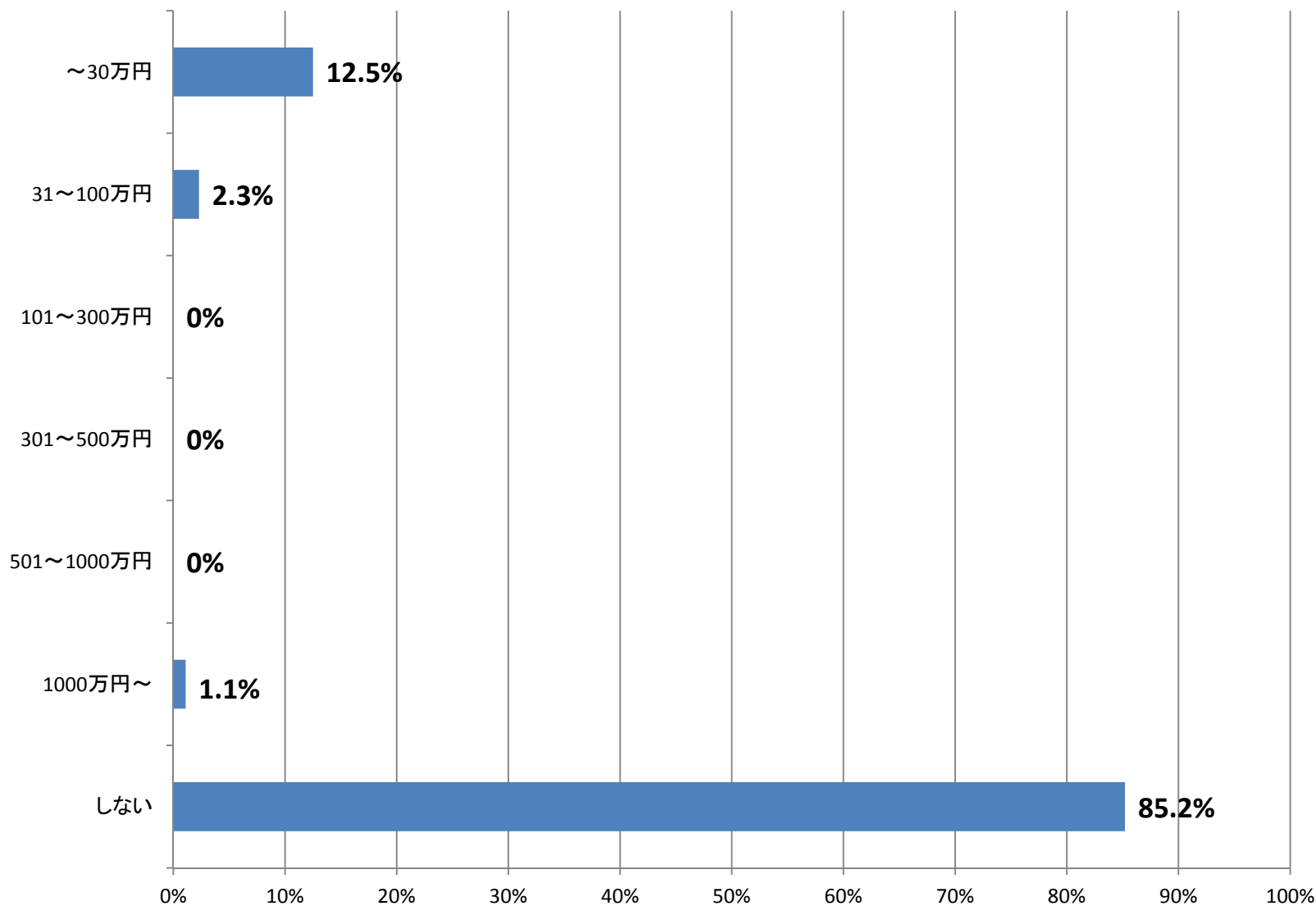
渡航治療を検討する金額(海外での夫婦間体外受精)



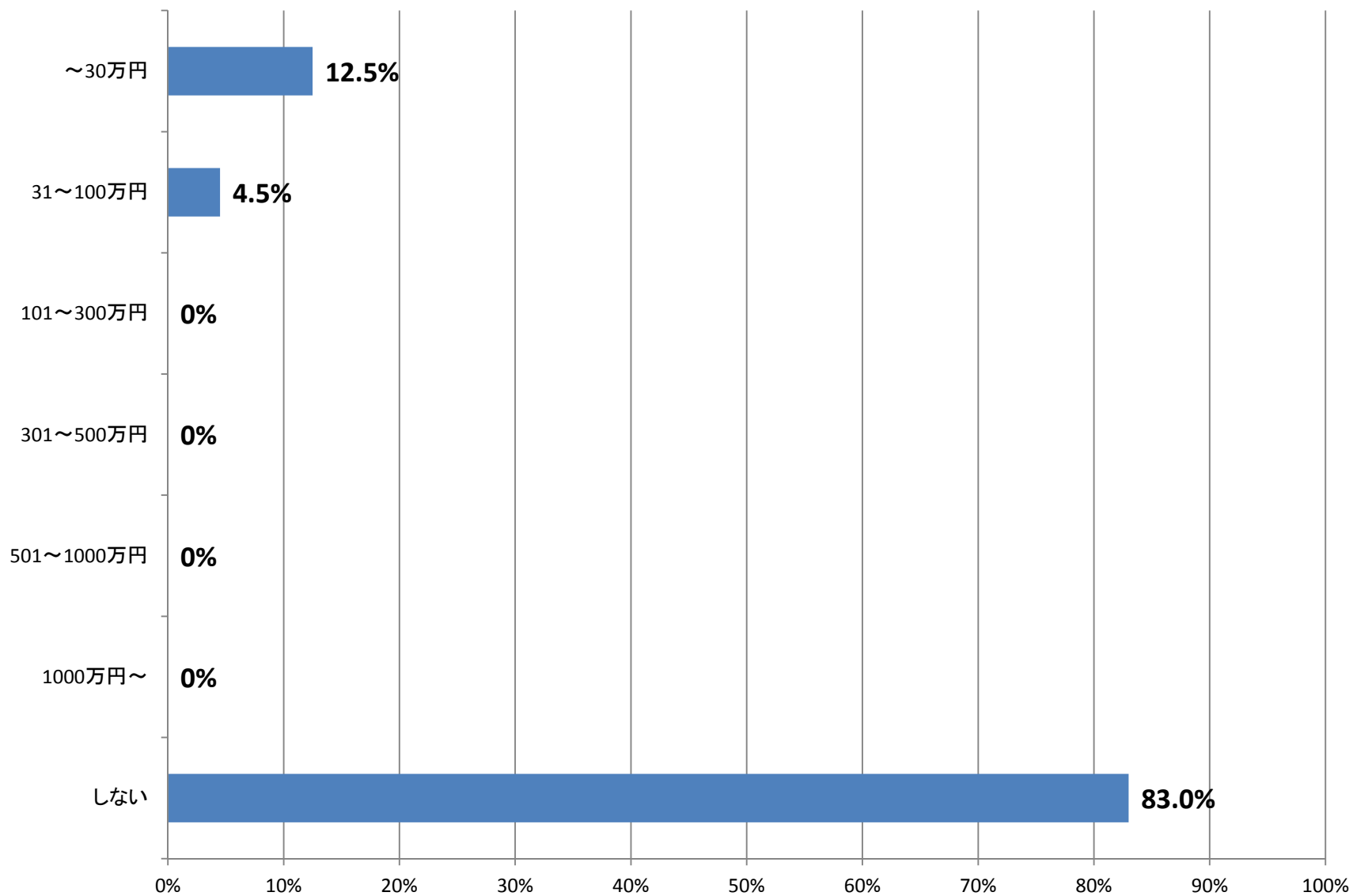
渡航治療を検討する金額(着床前診断)



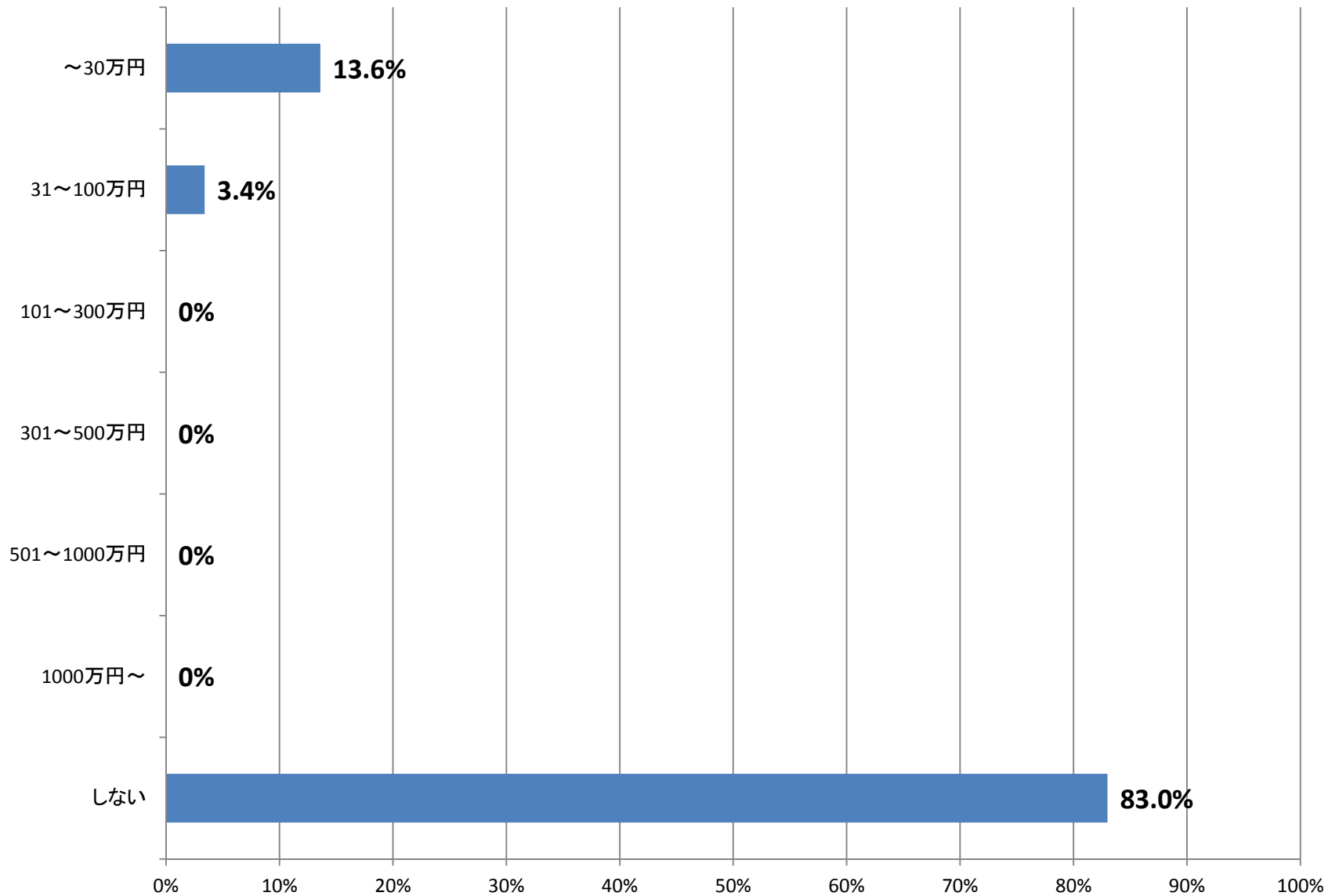
渡航治療を検討する金額(男女産み分け)



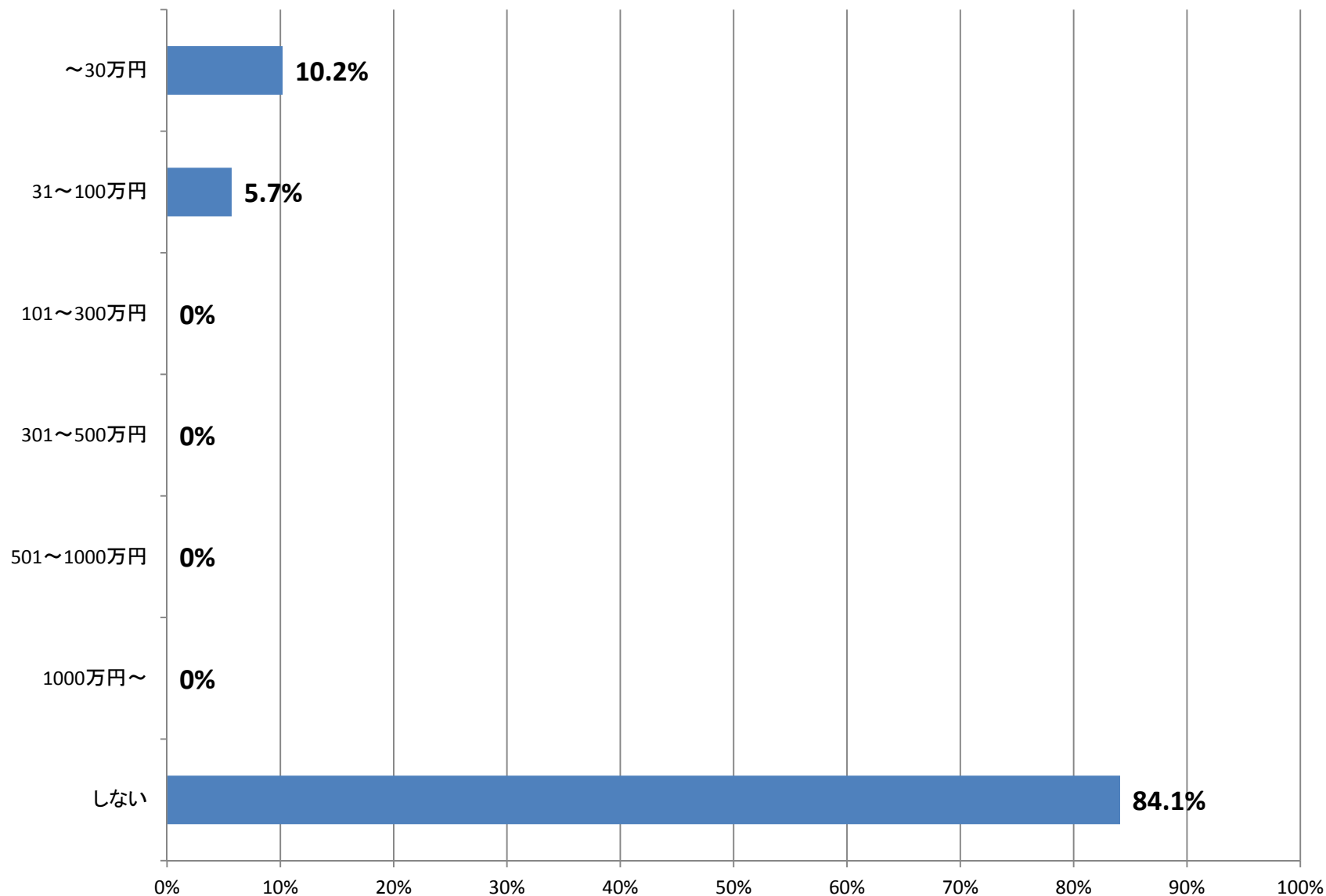
渡航治療を検討する金額(卵子提供)



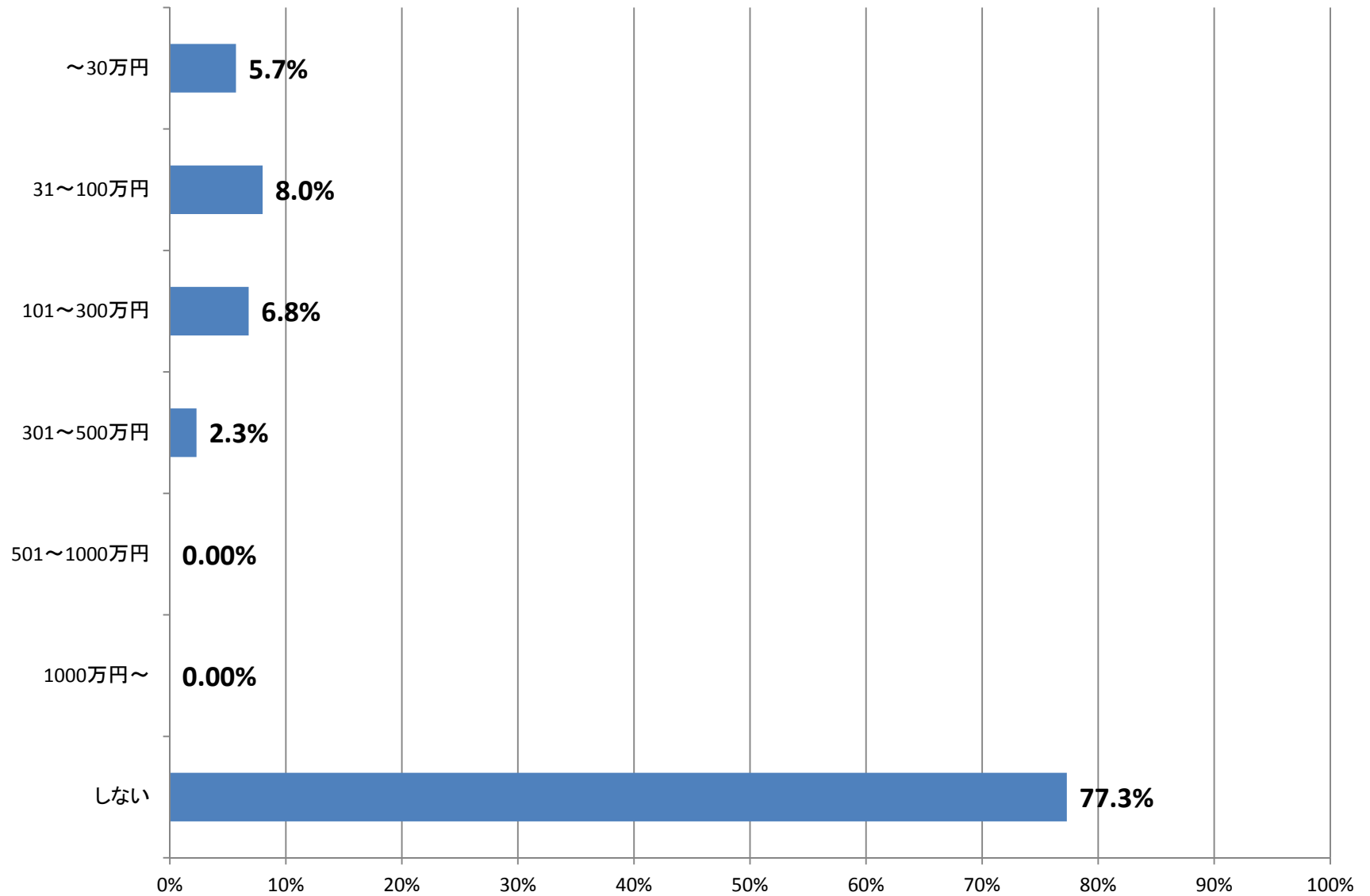
渡航治療を検討する金額(精子提供)



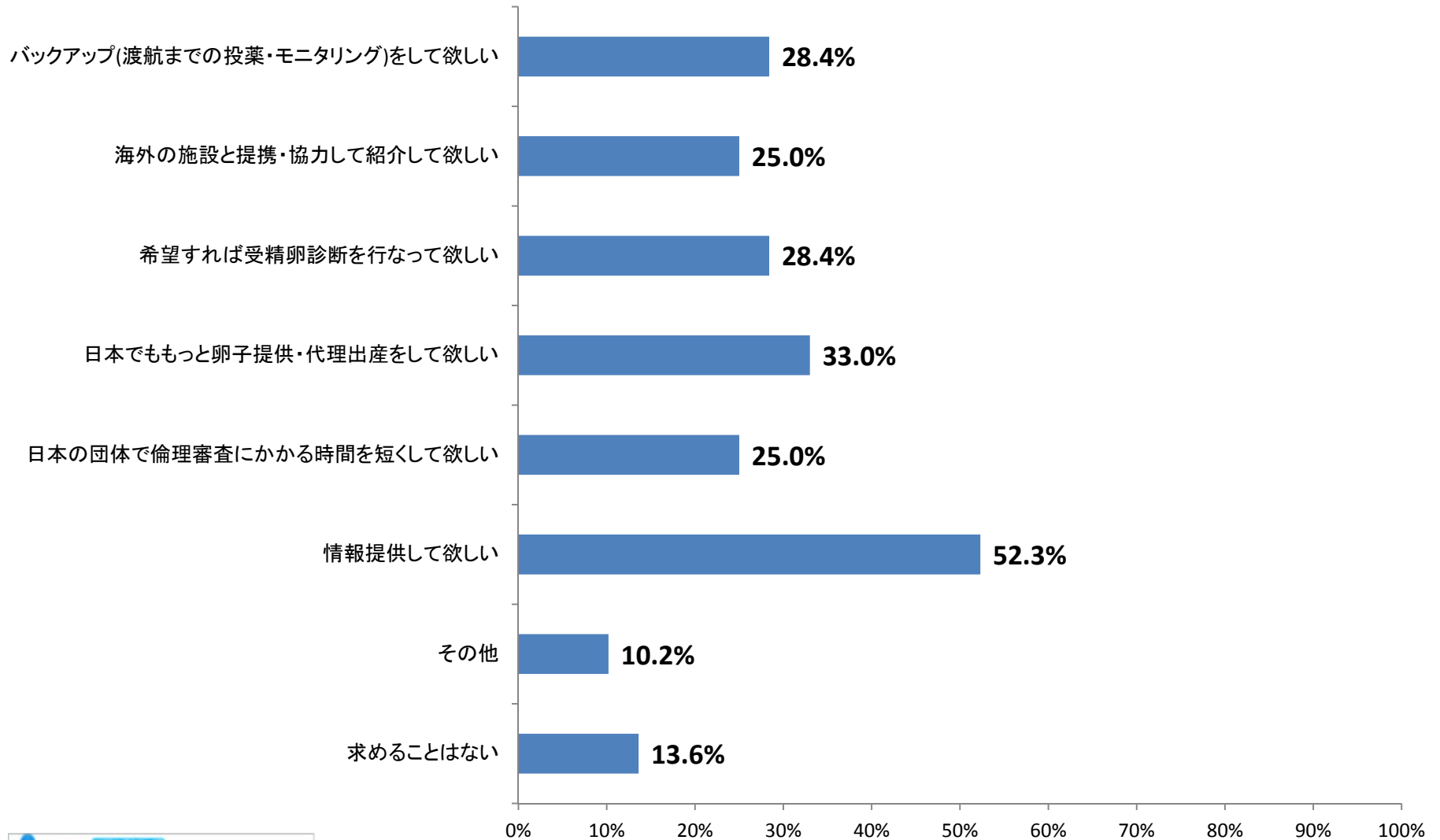
渡航治療を検討する金額(受精卵提供)



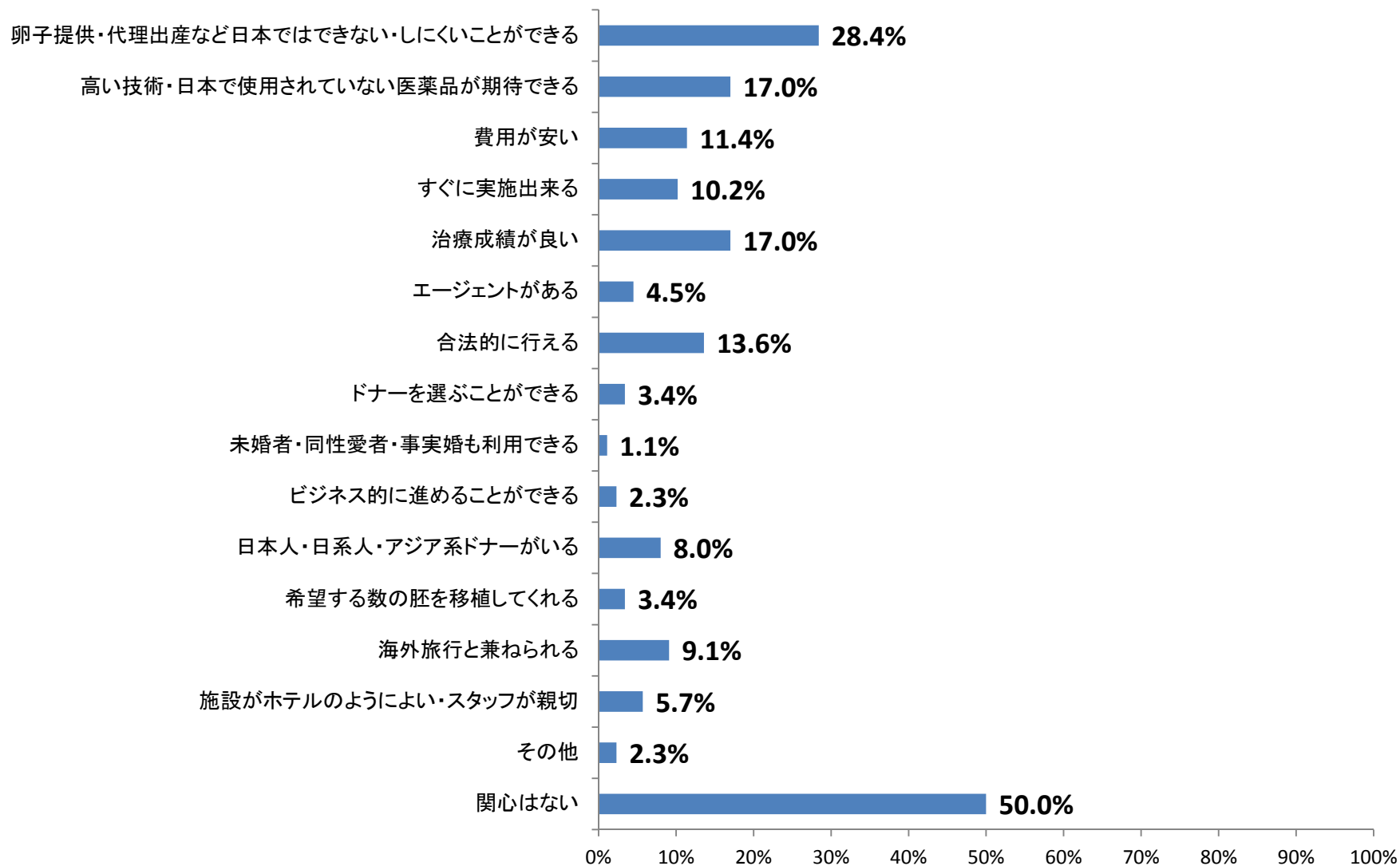
渡航治療を検討する金額(代理出産)



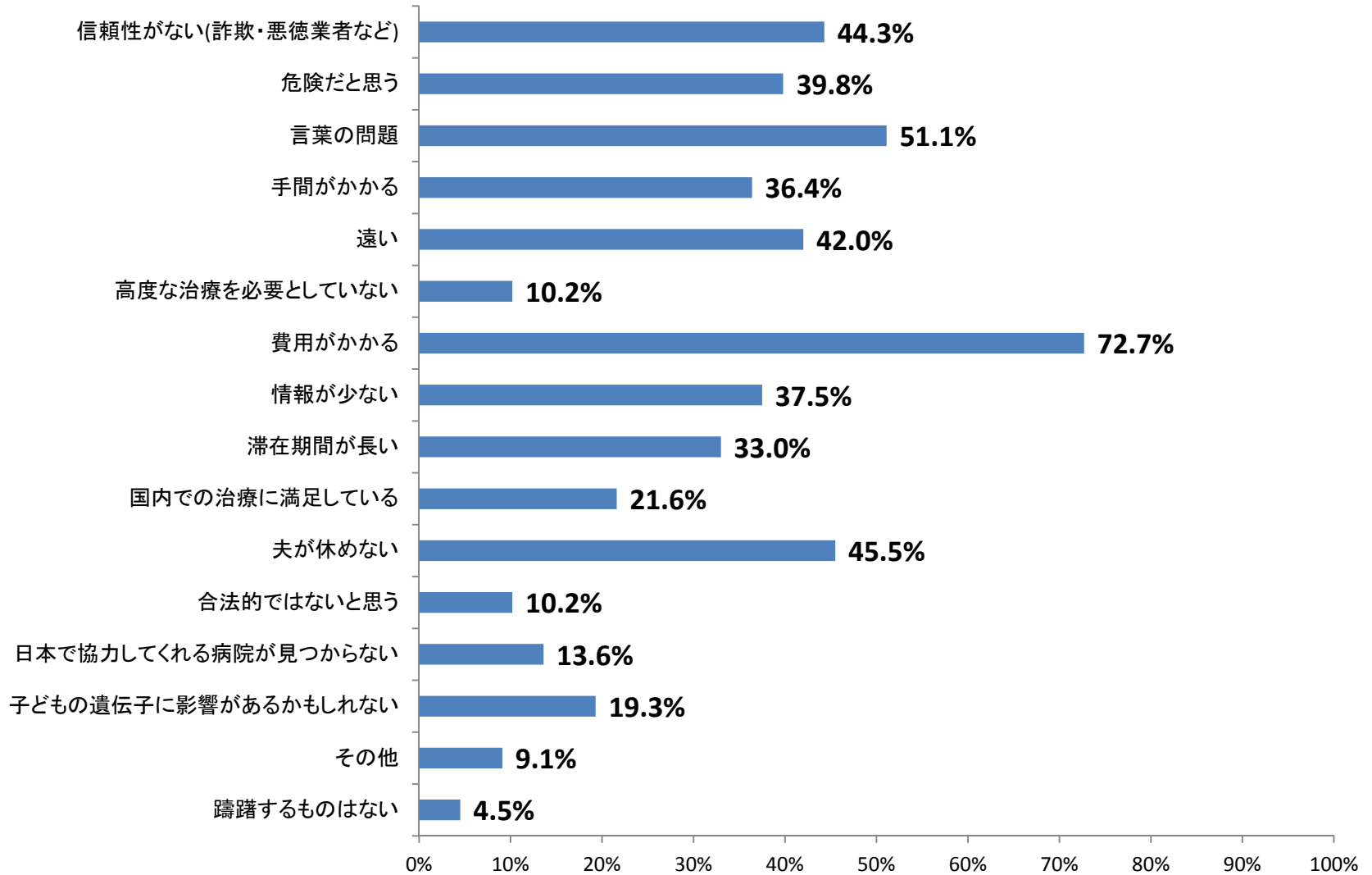
日本の病医院・医師に求めること(複数回答可)



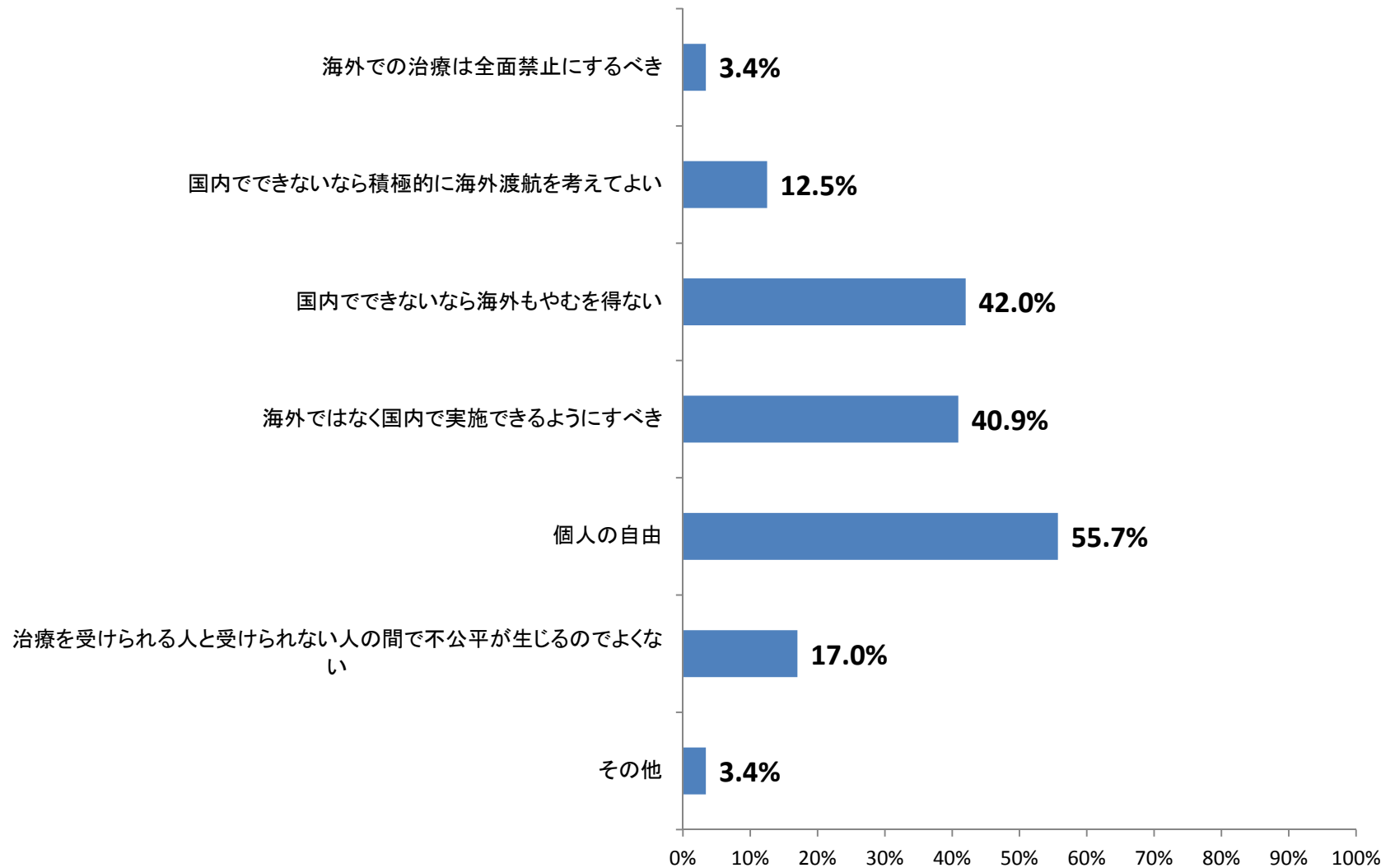
渡航治療に関心を持つ理由(複数回答可)



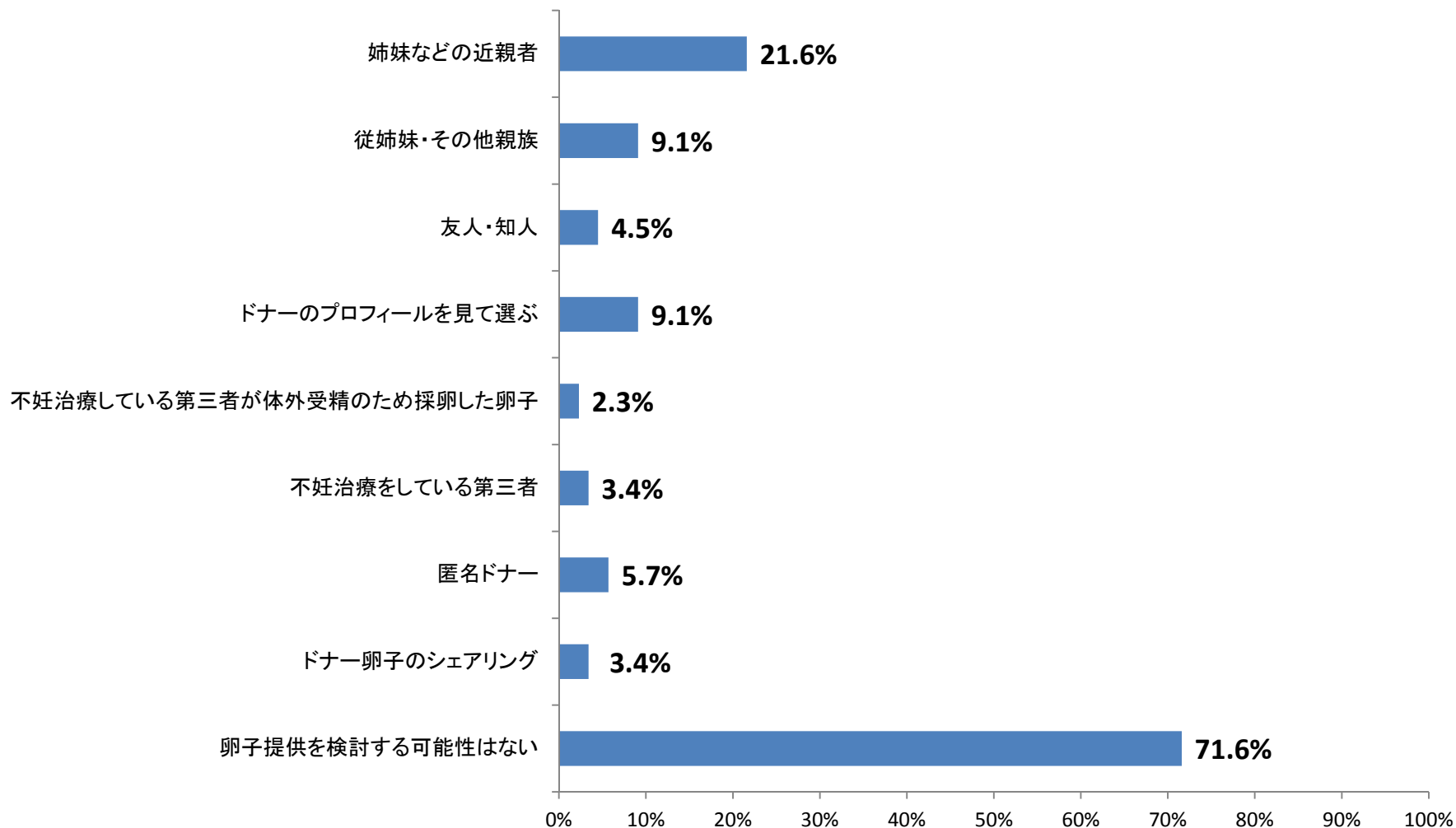
渡航治療に躊躇する理由(複数回答可)



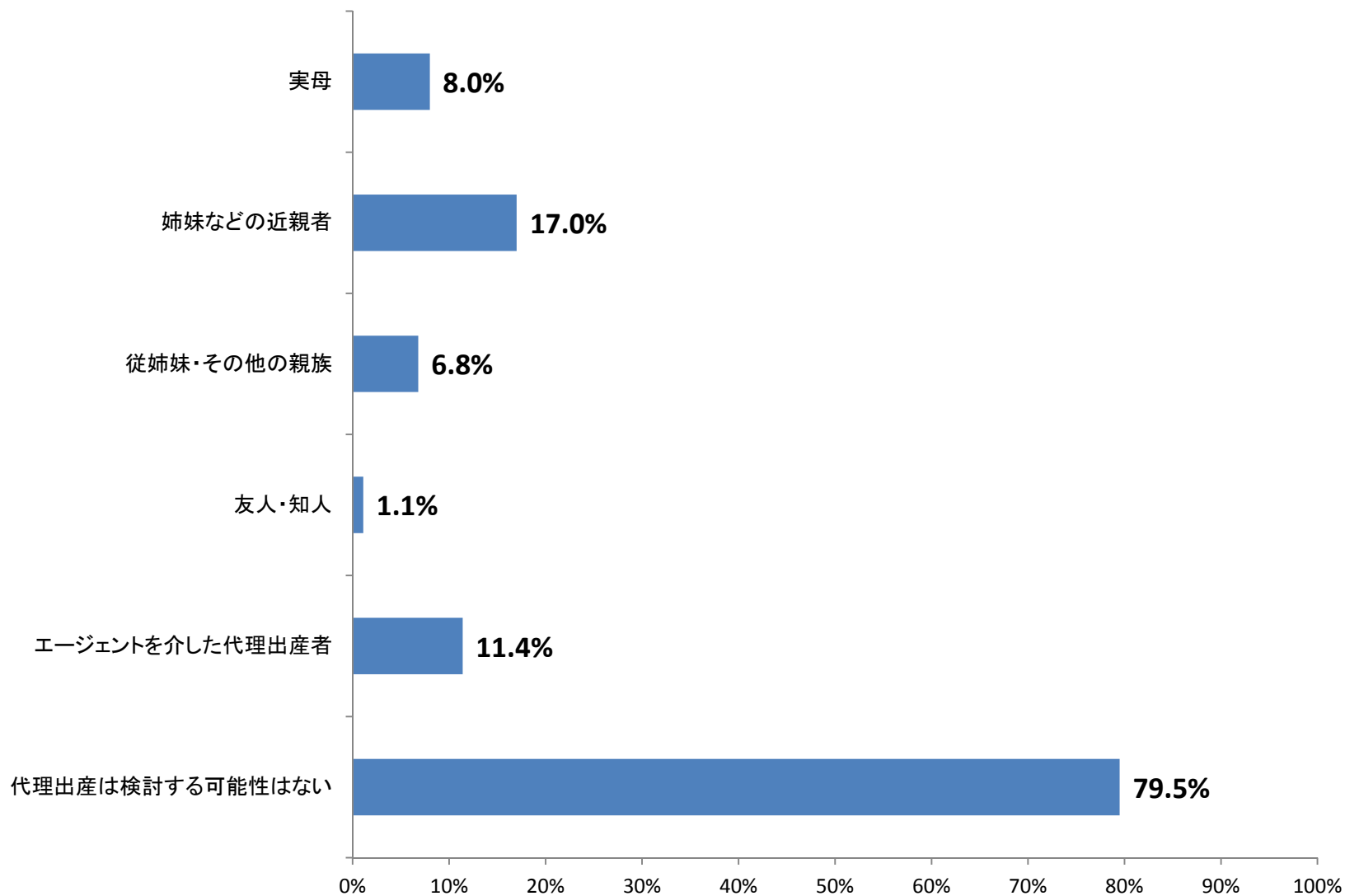
渡航治療についての見解(複数回答可)



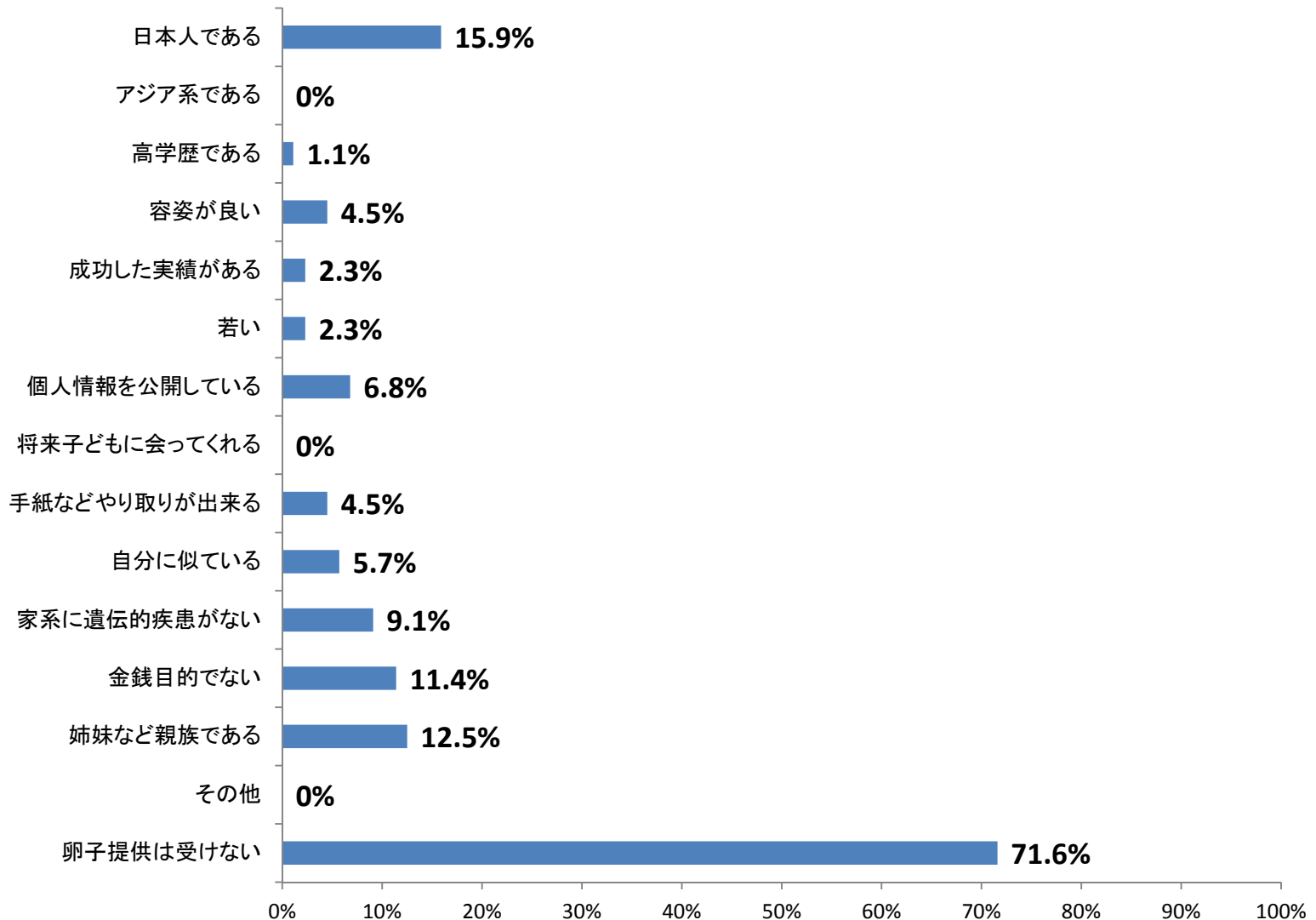
卵子提供を受けるとしたら検討する可能性のある選択肢 (複数回答可)



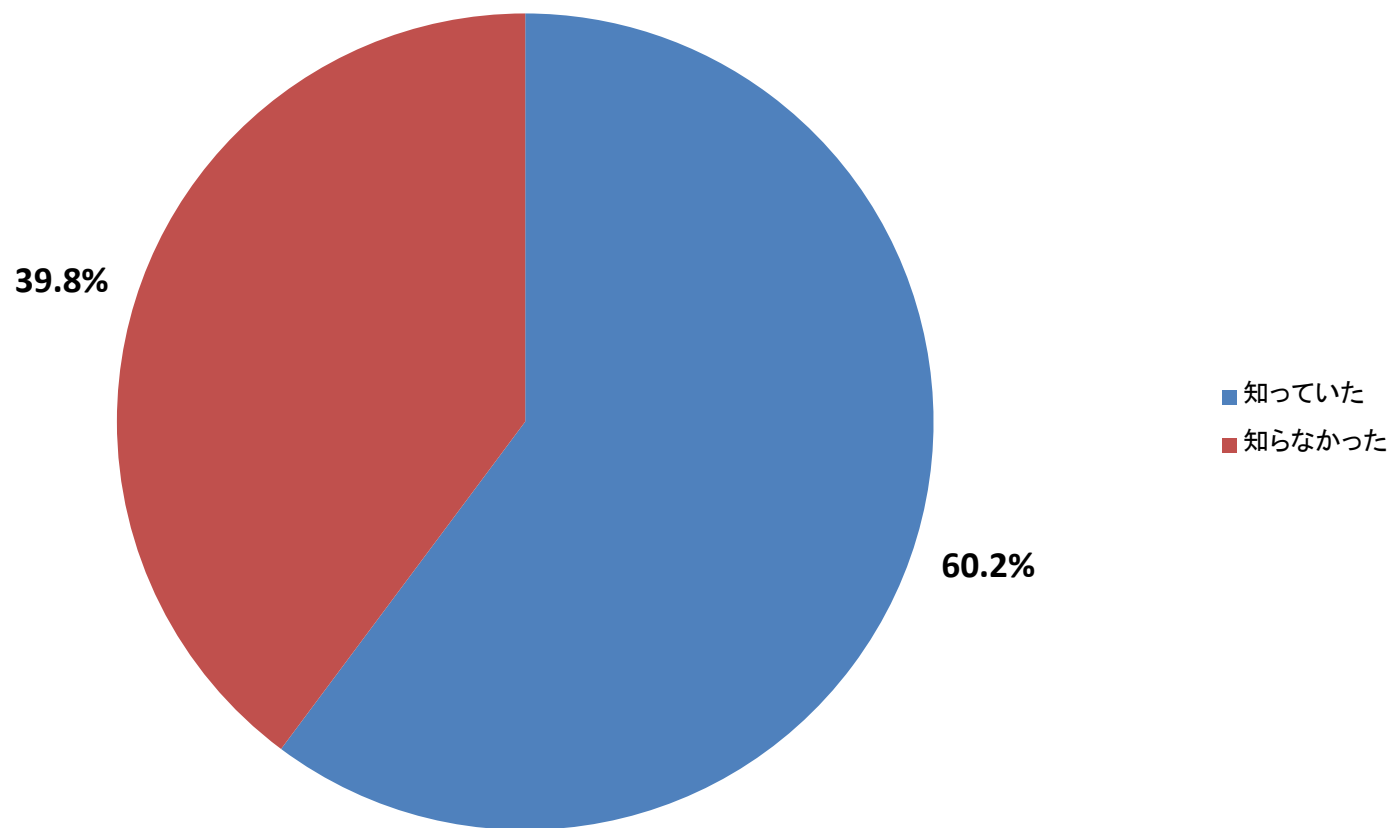
代理出産を依頼するとしたら誰に依頼したいか(複数回答可)



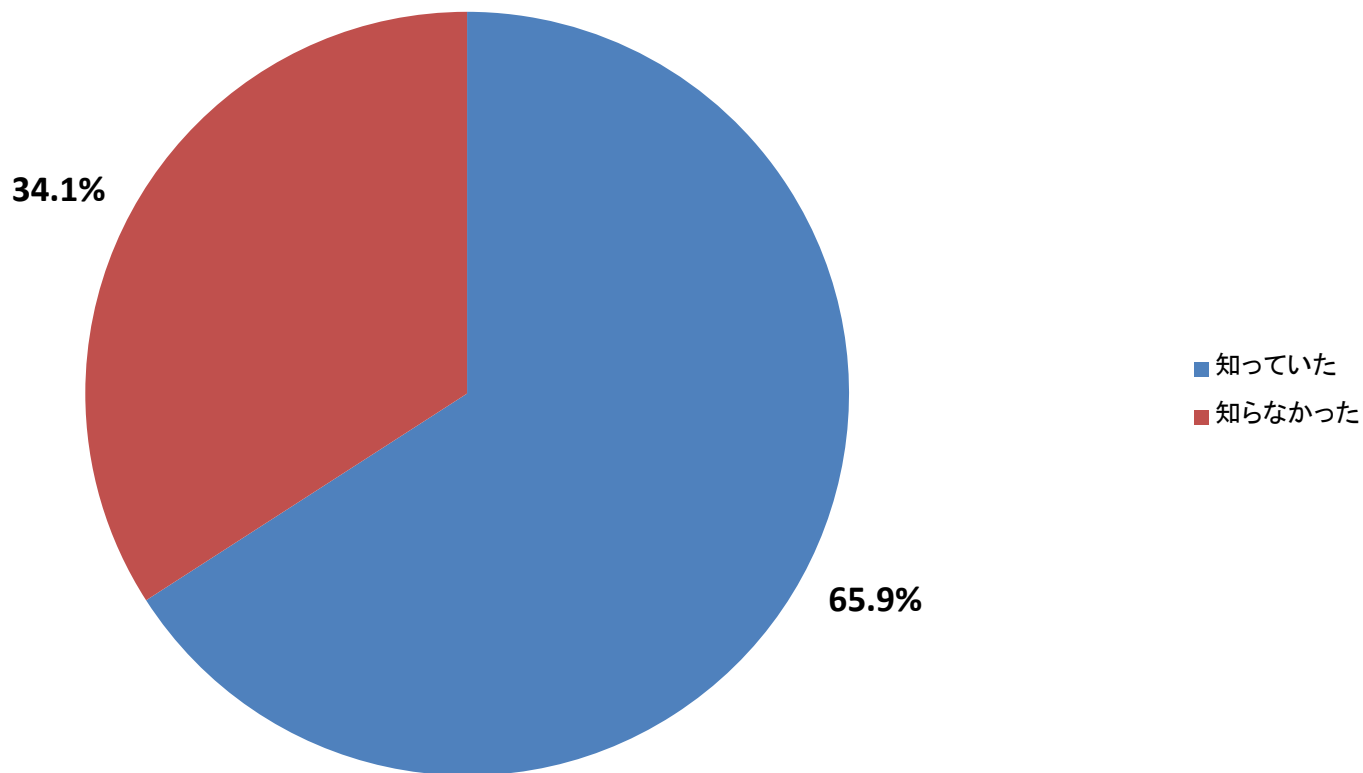
卵子提供のドナーに求めることは何か(複数回答可)



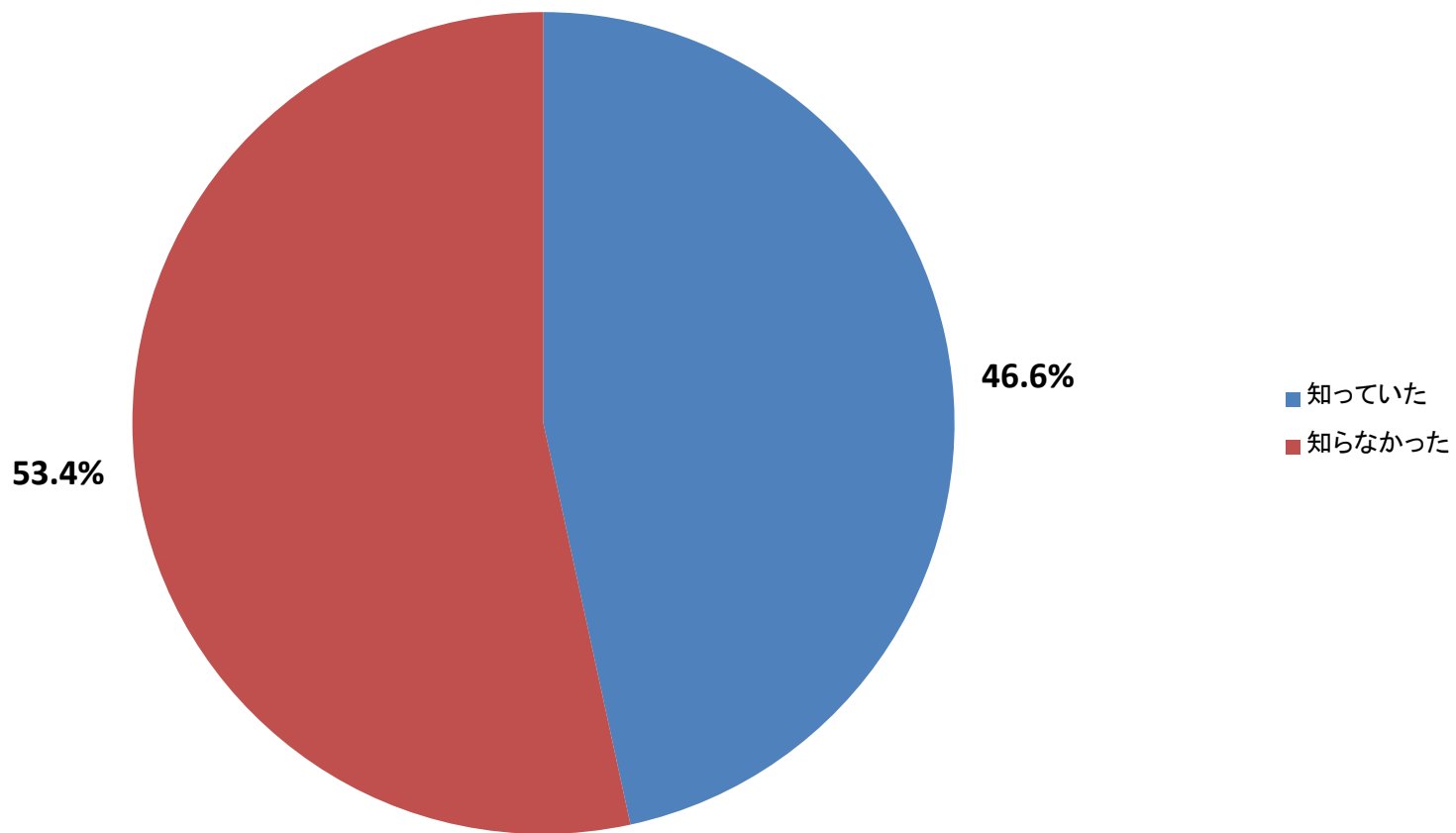
高年齢で卵子提供を受けると国内で妊娠管理、分娩を受け入れてくれる施設が見つからないことがある



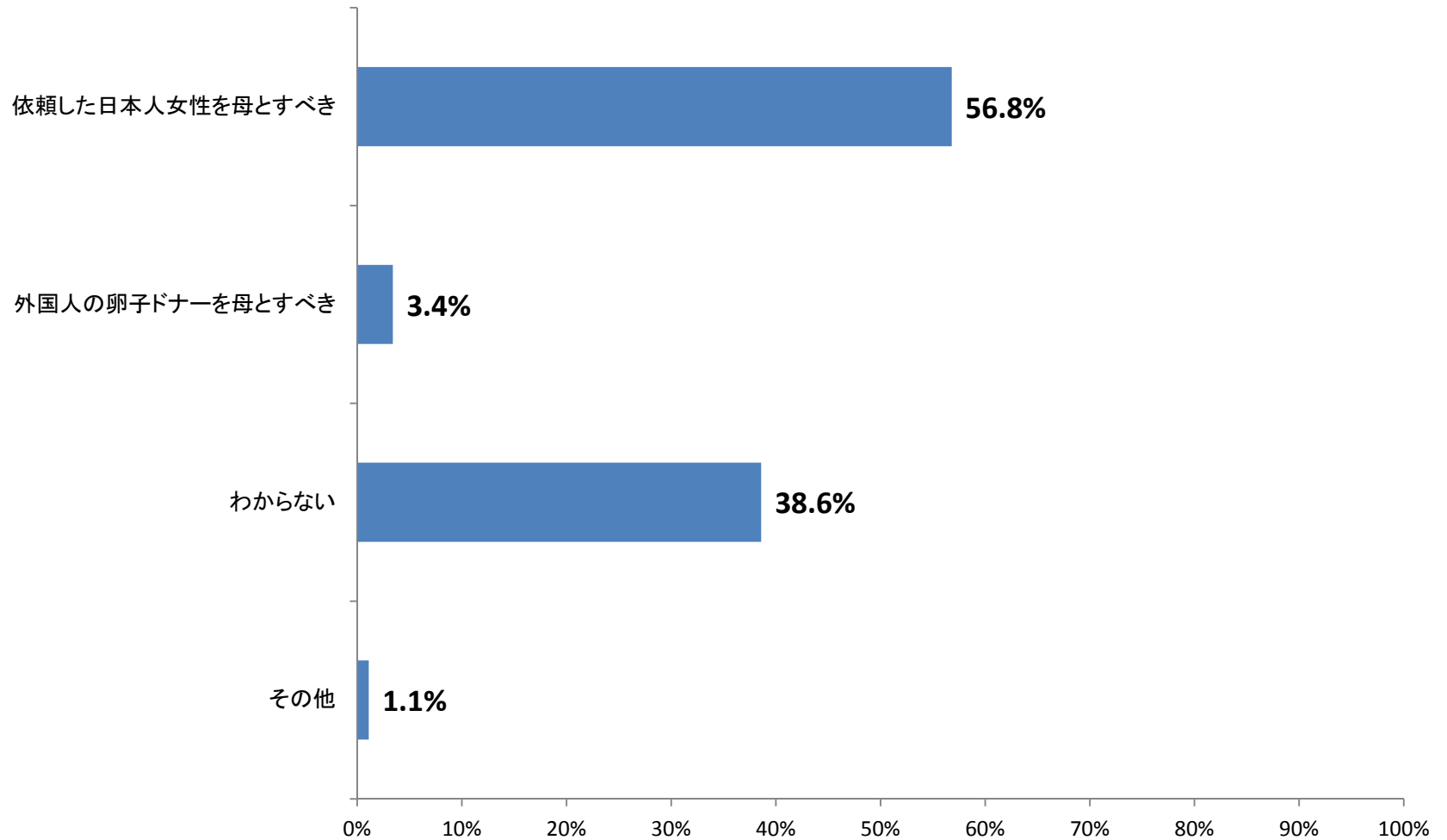
高年齢で卵子提供を受けると流産・死産(胎内死亡等)・早産による 児の予後不良のリスクが高くなる



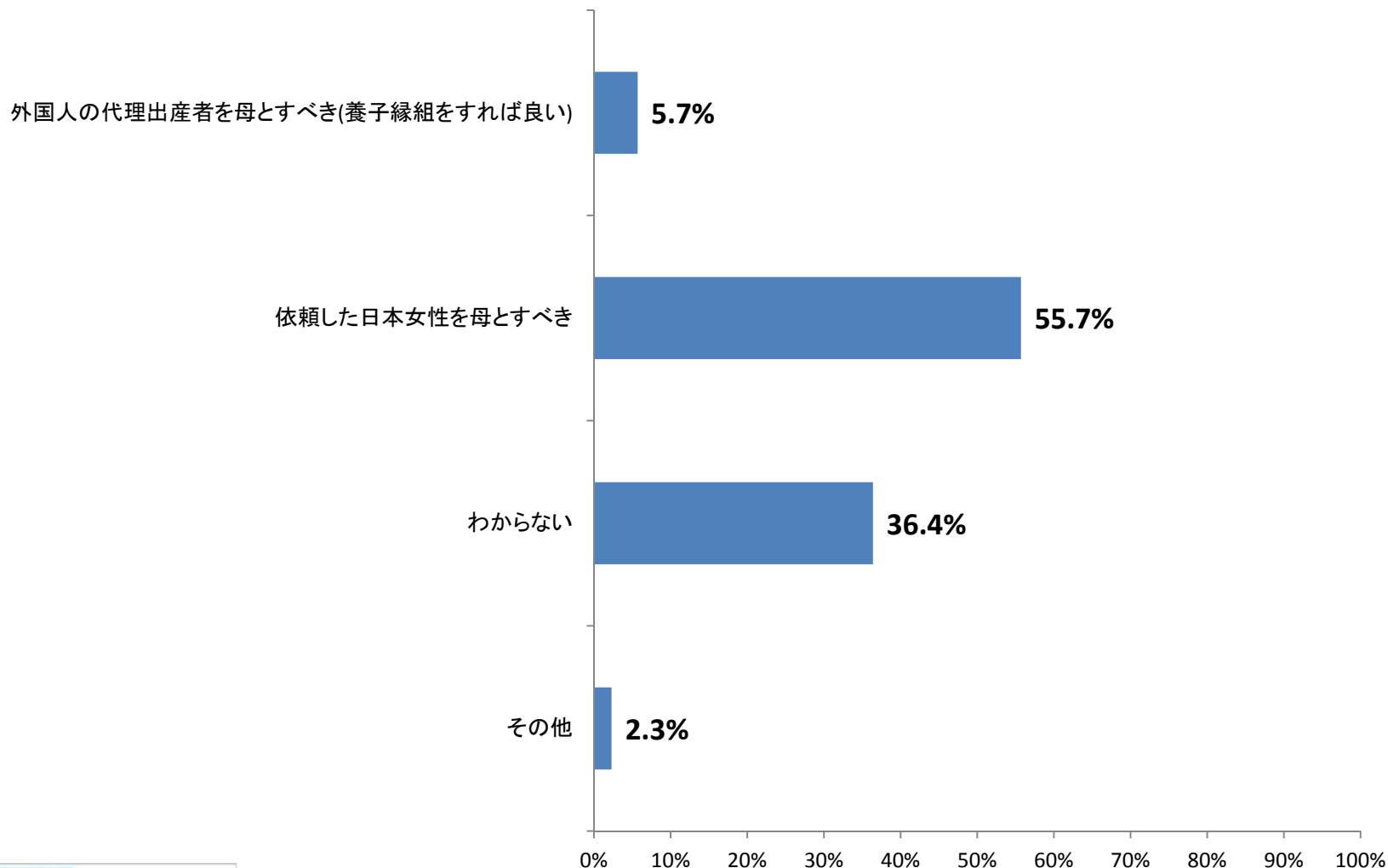
高年齢で卵子提供を受けると出血多量・子宮全摘等のリスクが高くなる



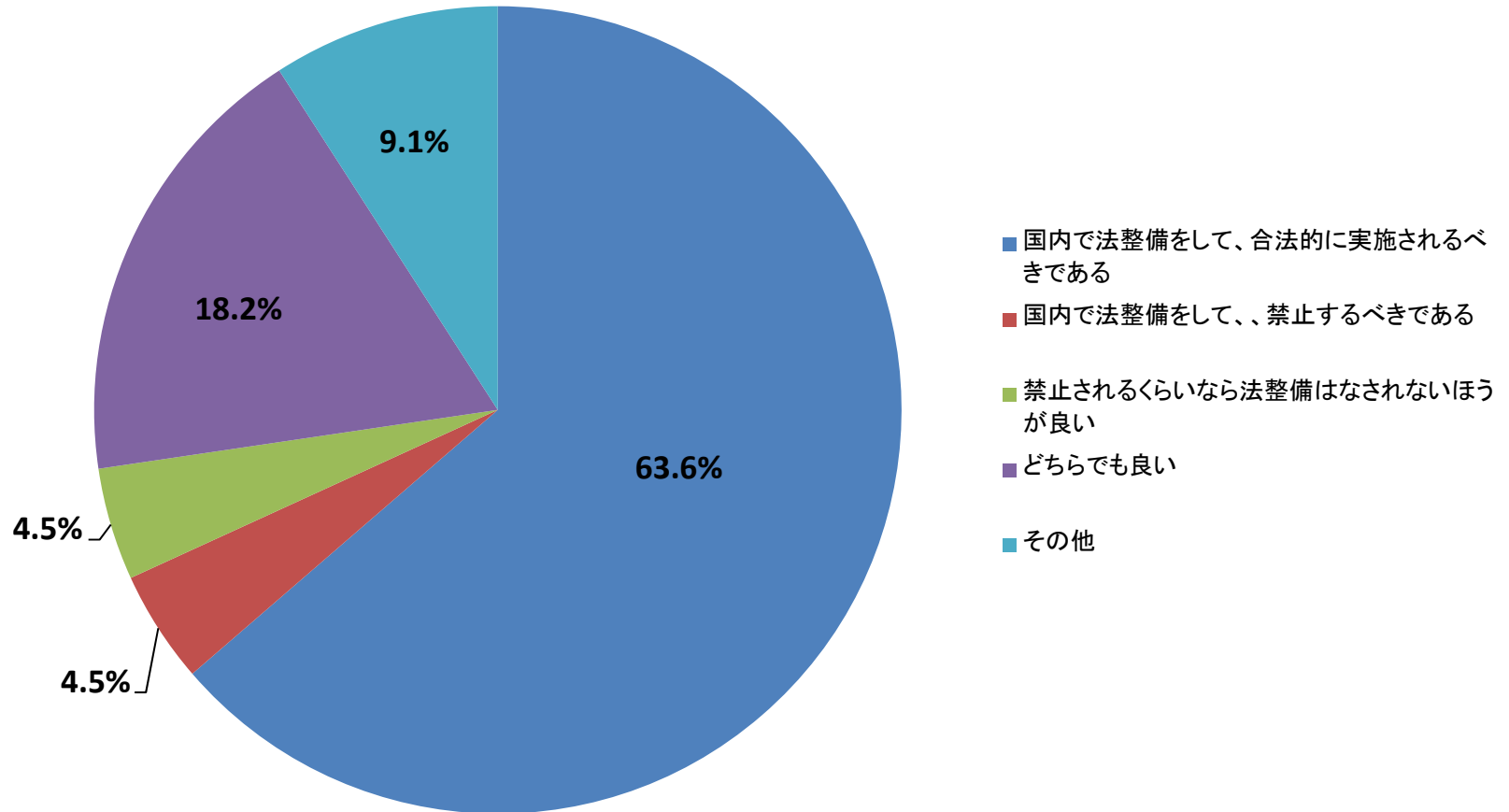
海外で卵子提供を依頼する場合、生まれた子どもの法的地位はどうあるべきだと思えるか



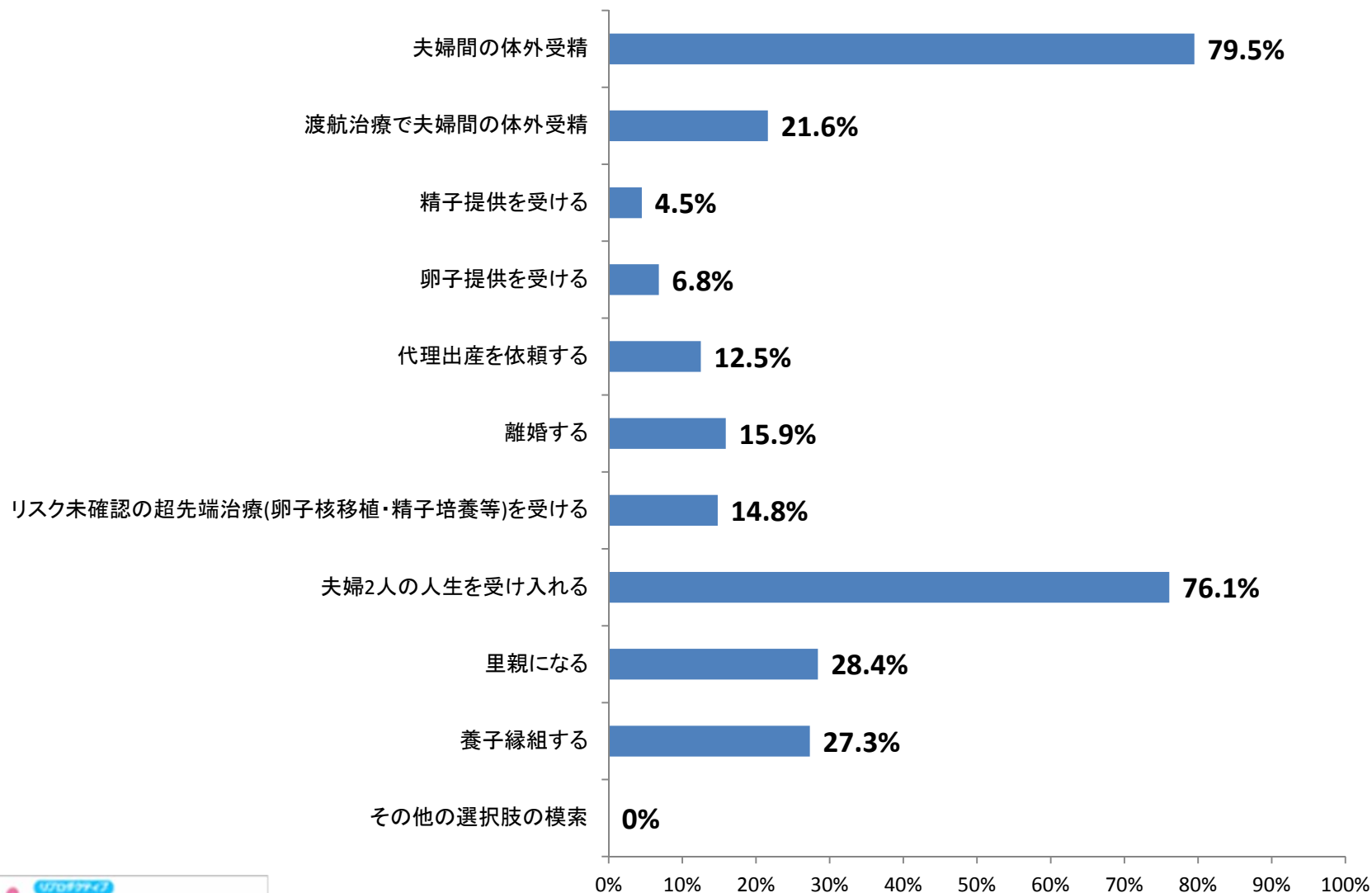
海外で代理出産をする場合、生まれた子どもの法的地位はどうあるべきと考えるか



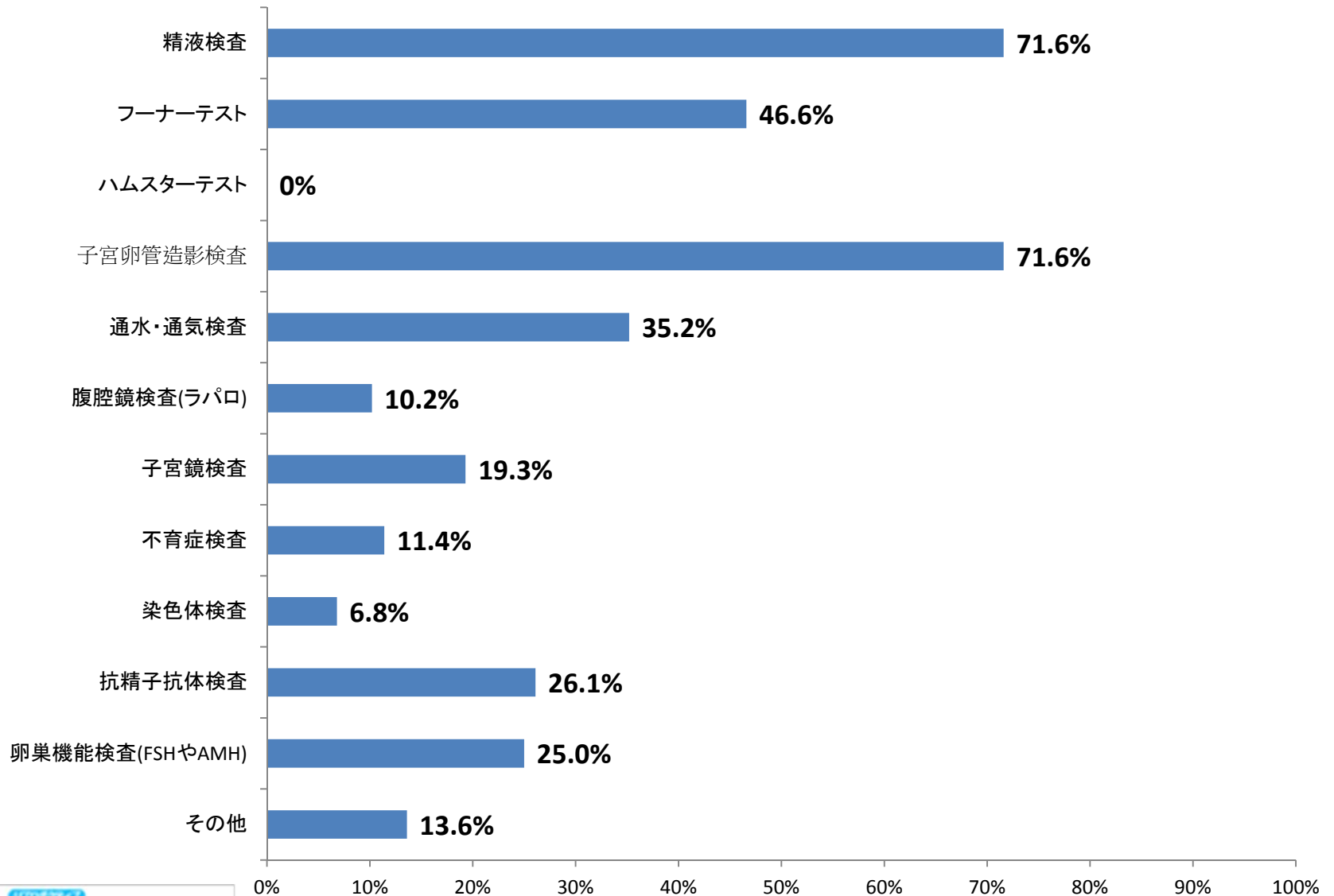
生殖補助医療に関して、日本での法整備は必要か



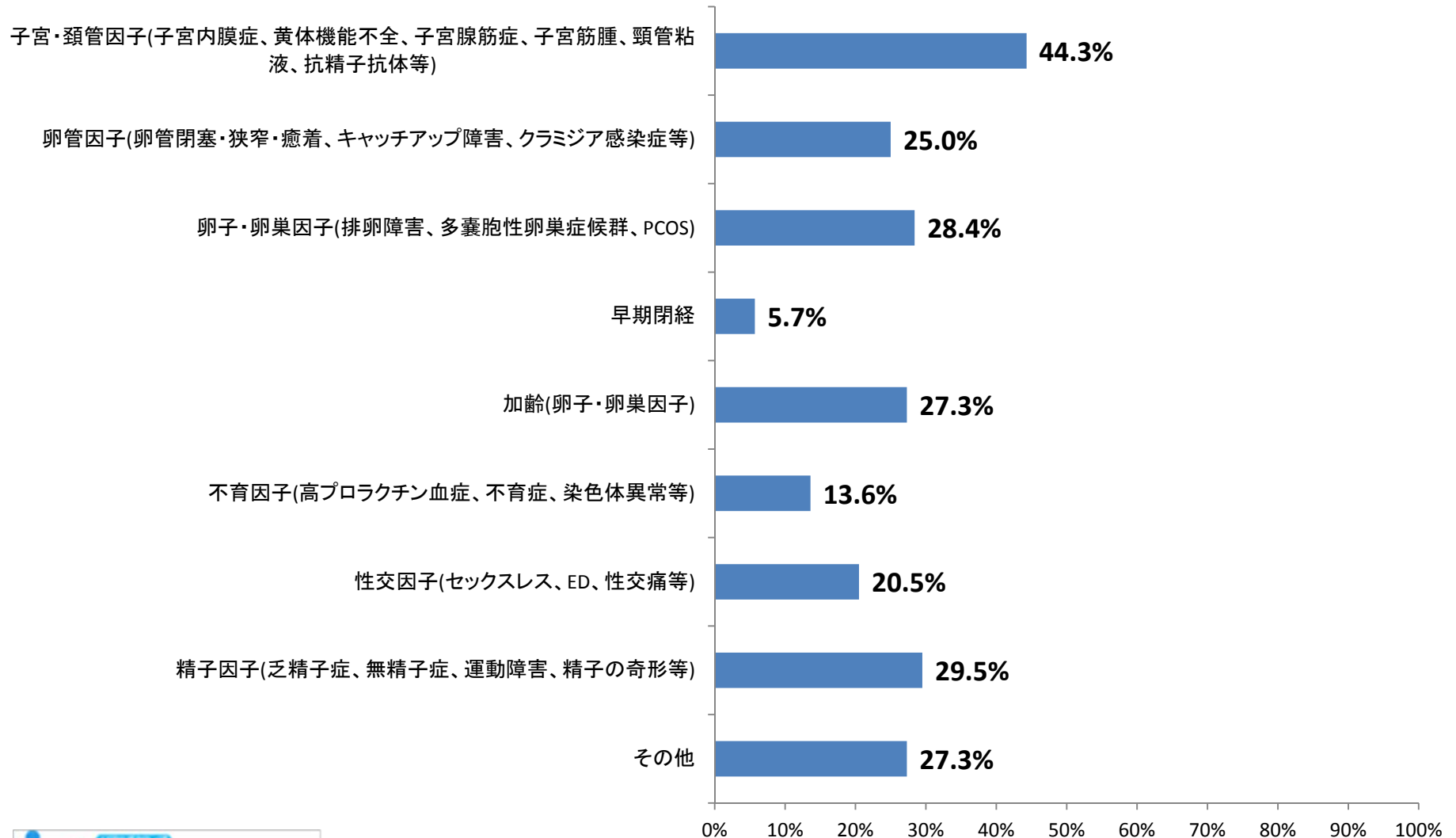
子どもを授かることが出来ずに年月が過ぎた時、あなたの中でありうる選択肢はどれか(複数回答可)



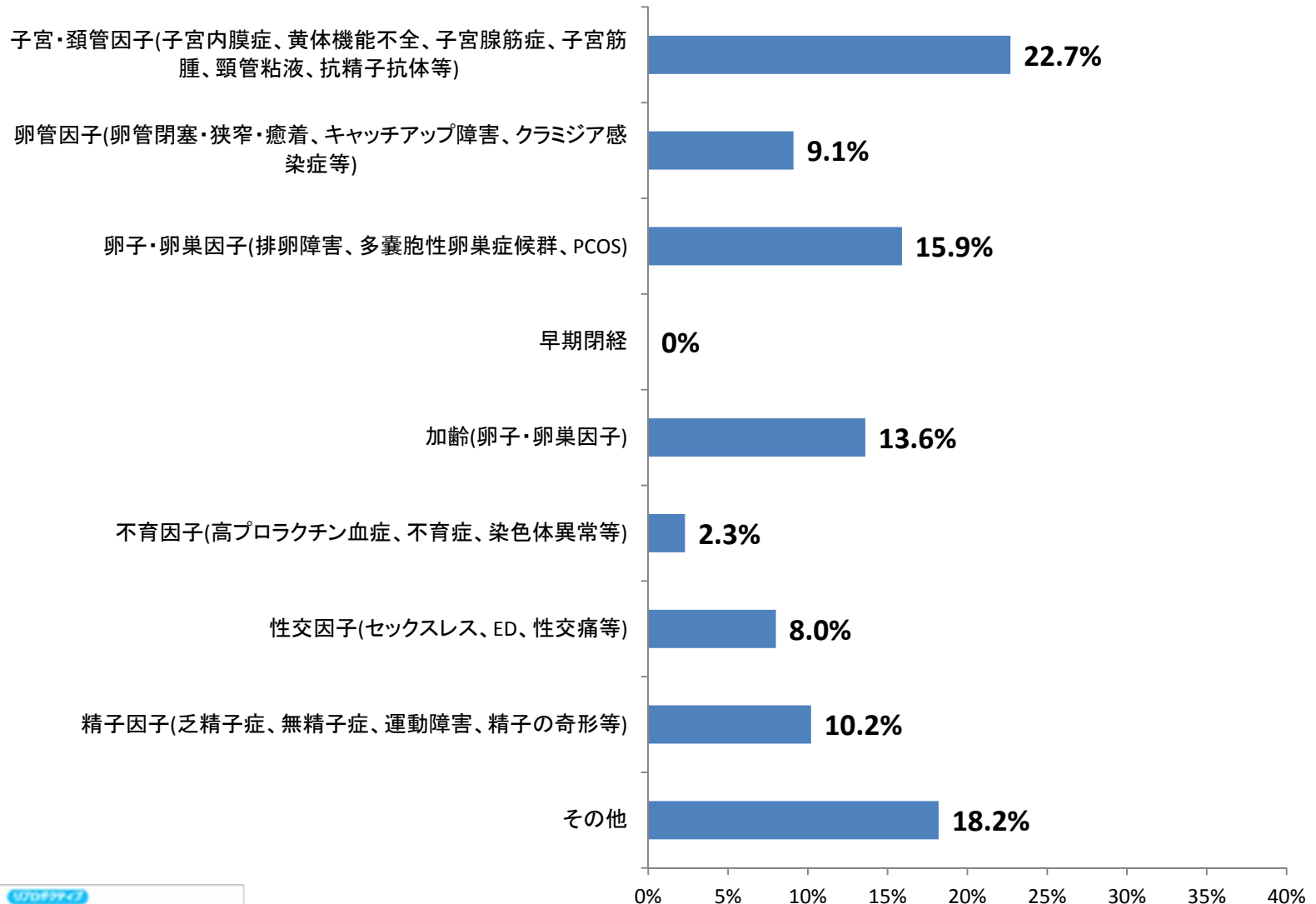
受けたことがある検査(経験があるものすべて)



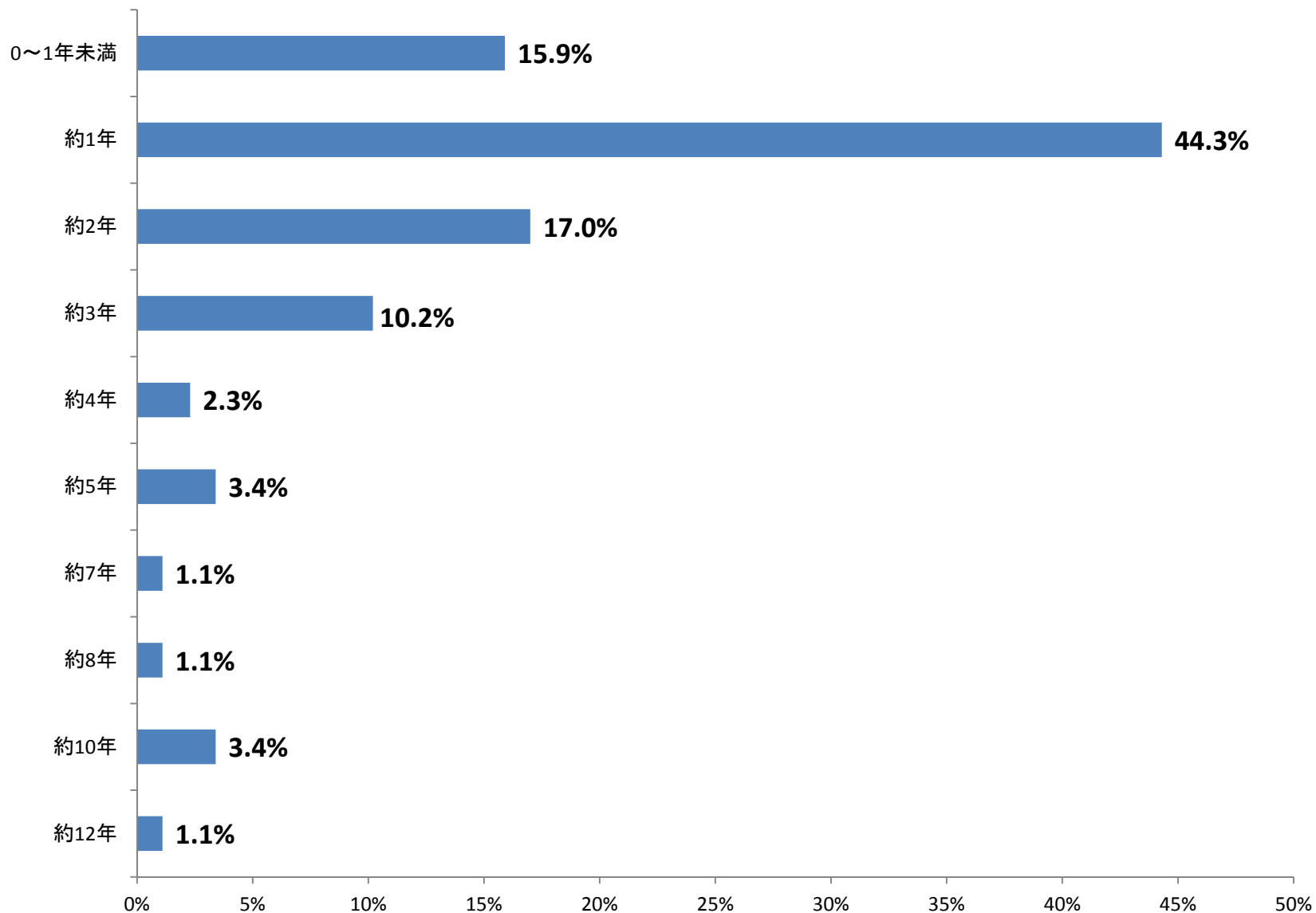
現在の不妊原因としてわかっているもの(当てはまるものすべて)



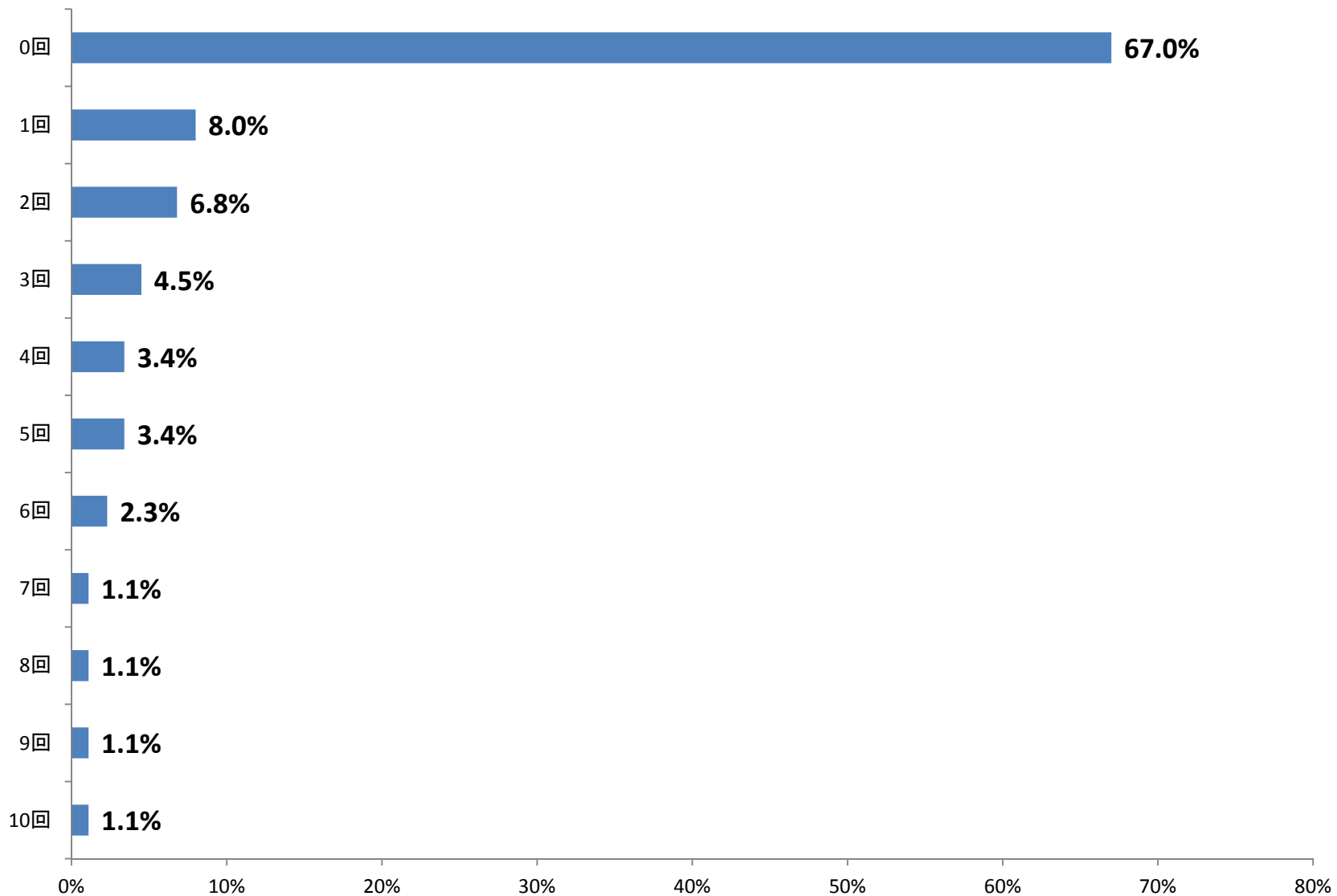
不妊の主原因はどれだと思われるか



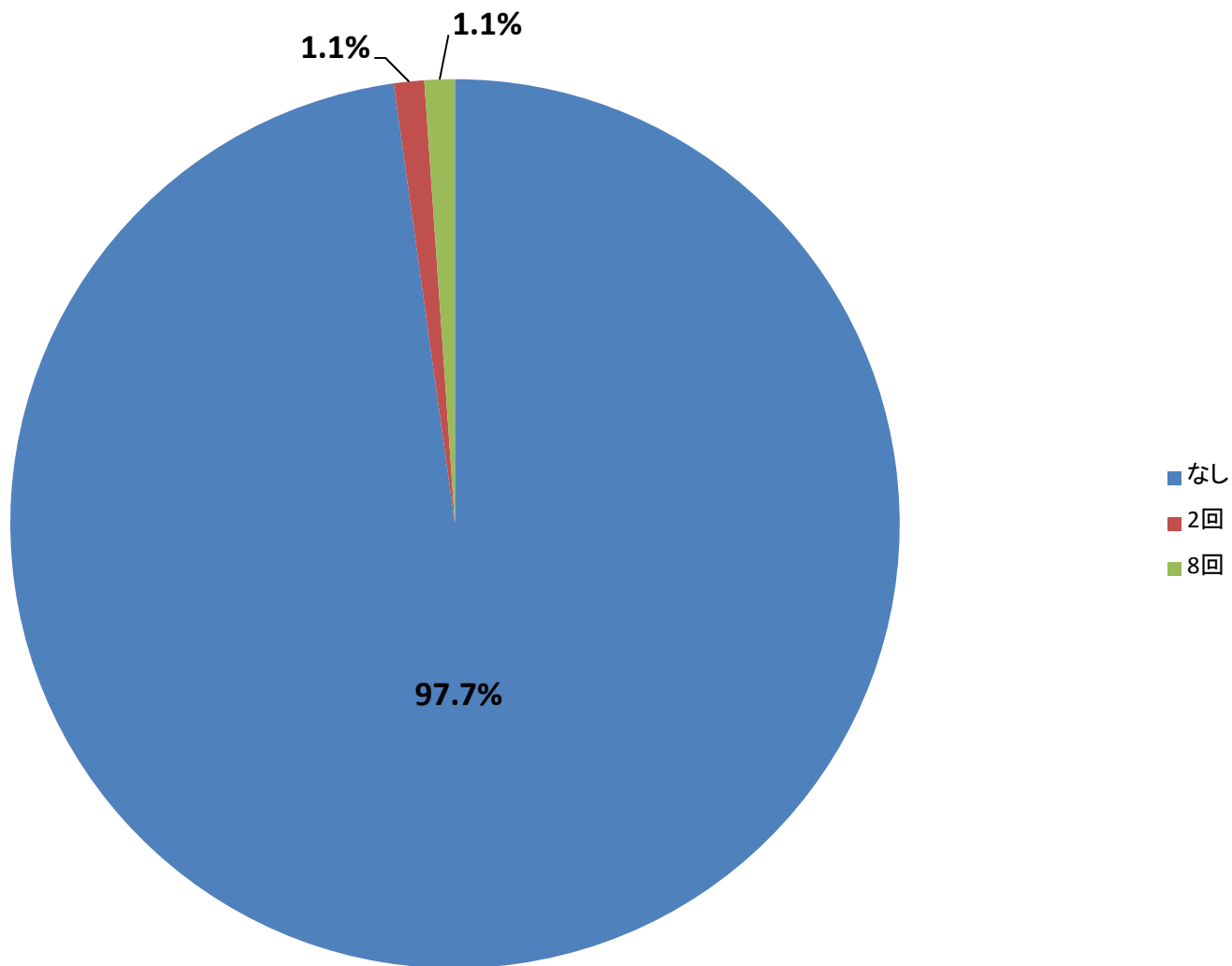
タイミング法を行った年数



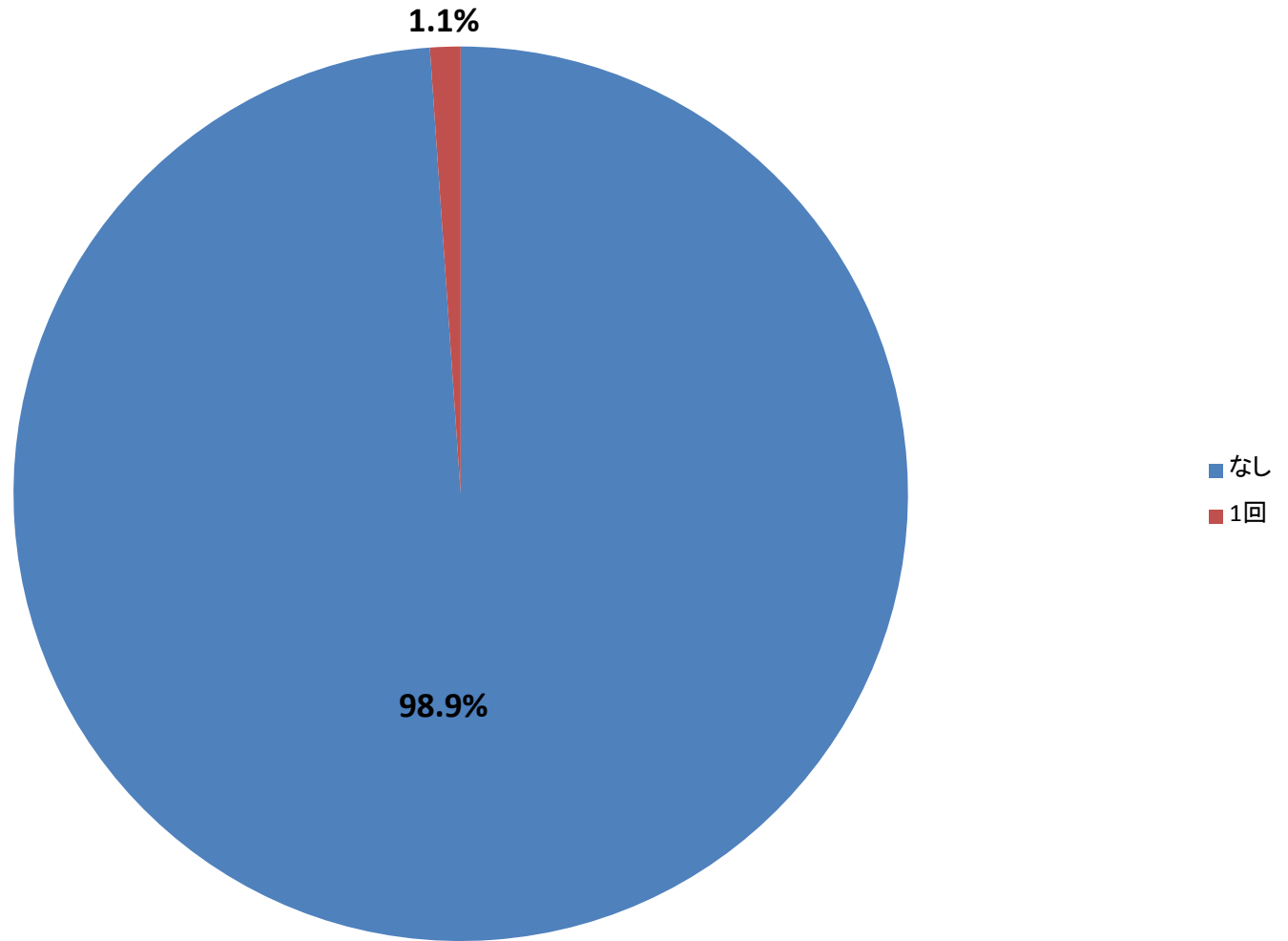
体外受精を実施した回数(採卵チャレンジのみを含む)



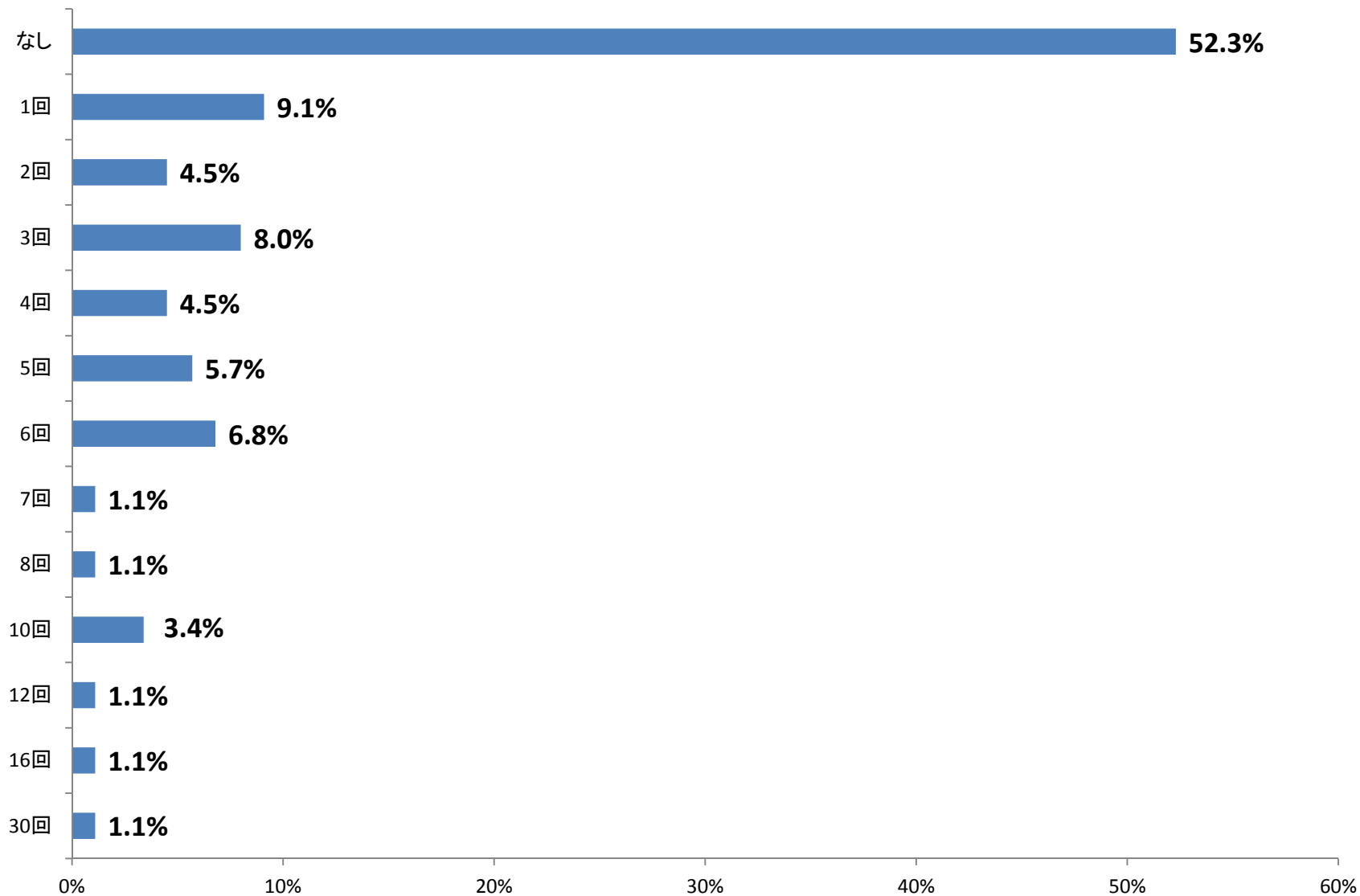
精子吸入採取を実施した回数



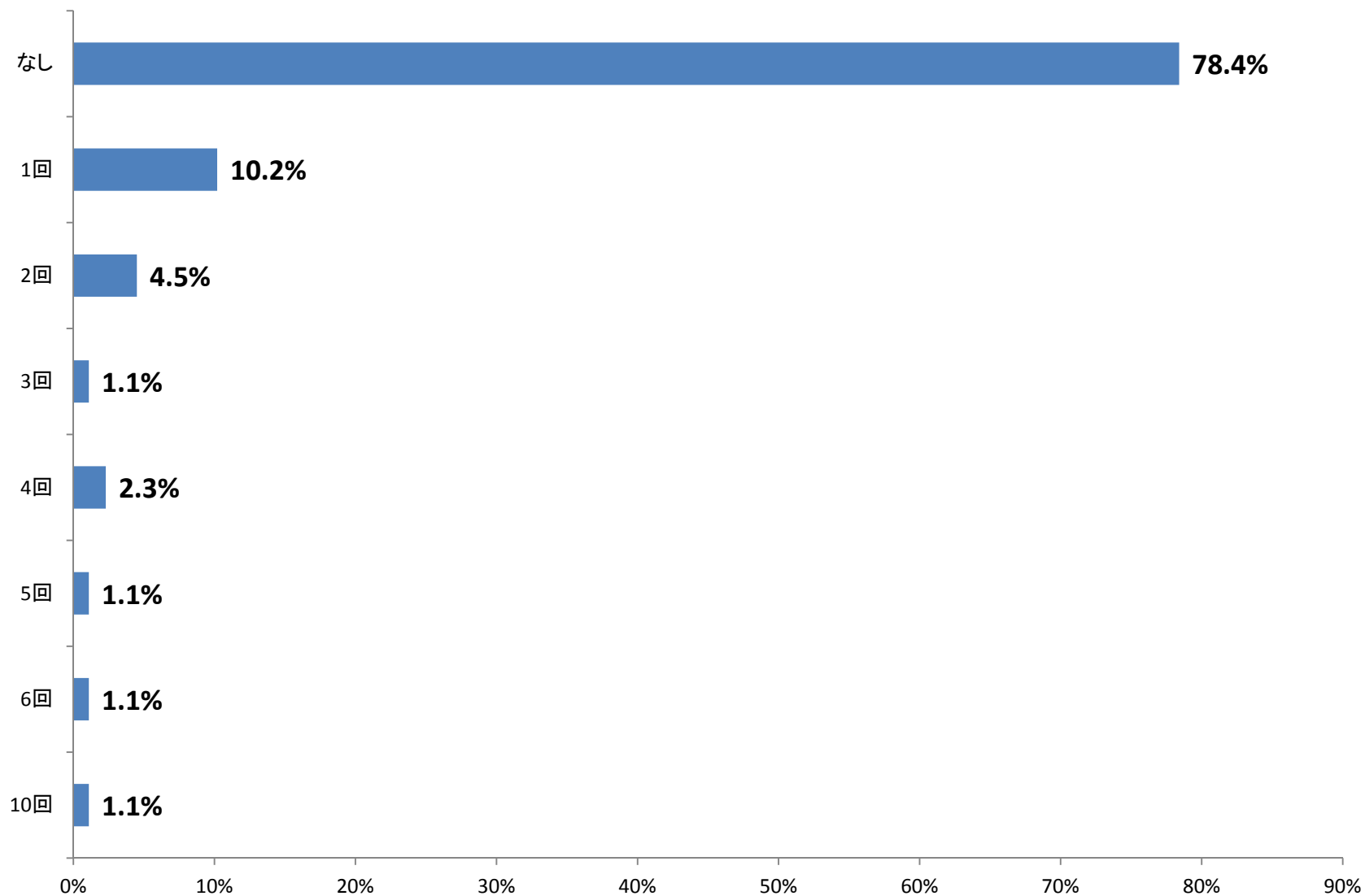
代理出産の依頼



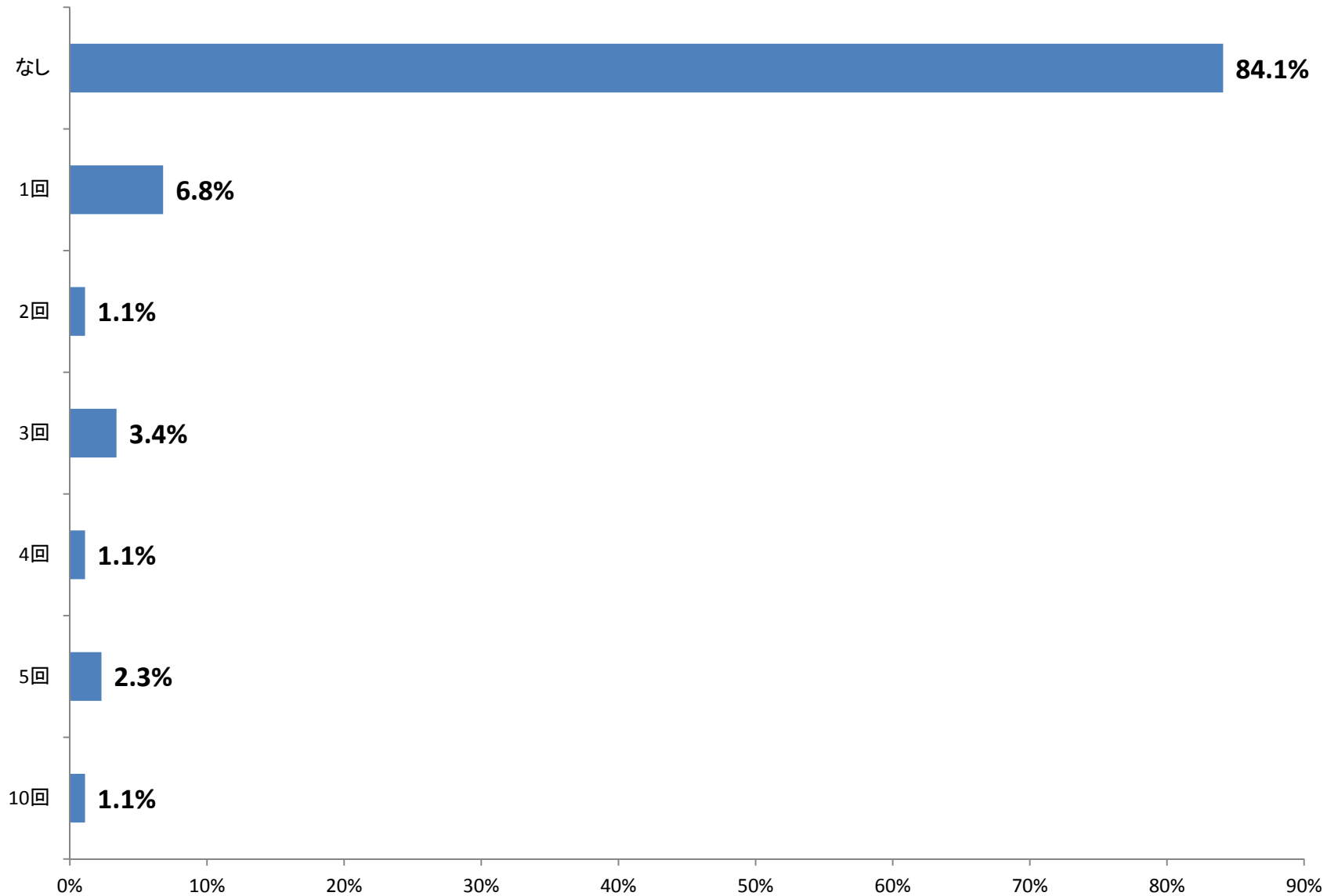
AIH(配偶者間の人工授精)を実施した回数



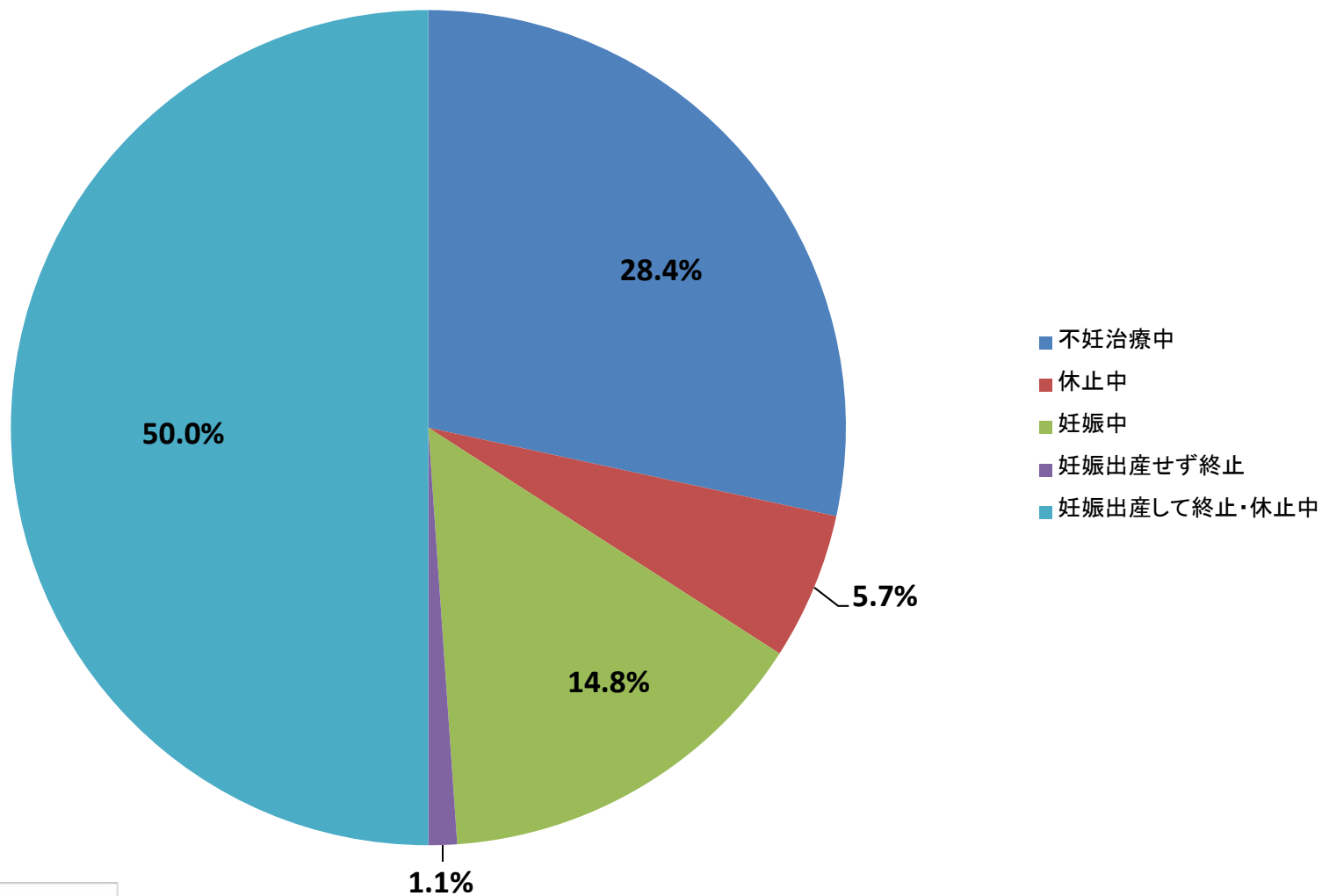
顕微授精を実施した回数(採卵チャレンジのみを含む)



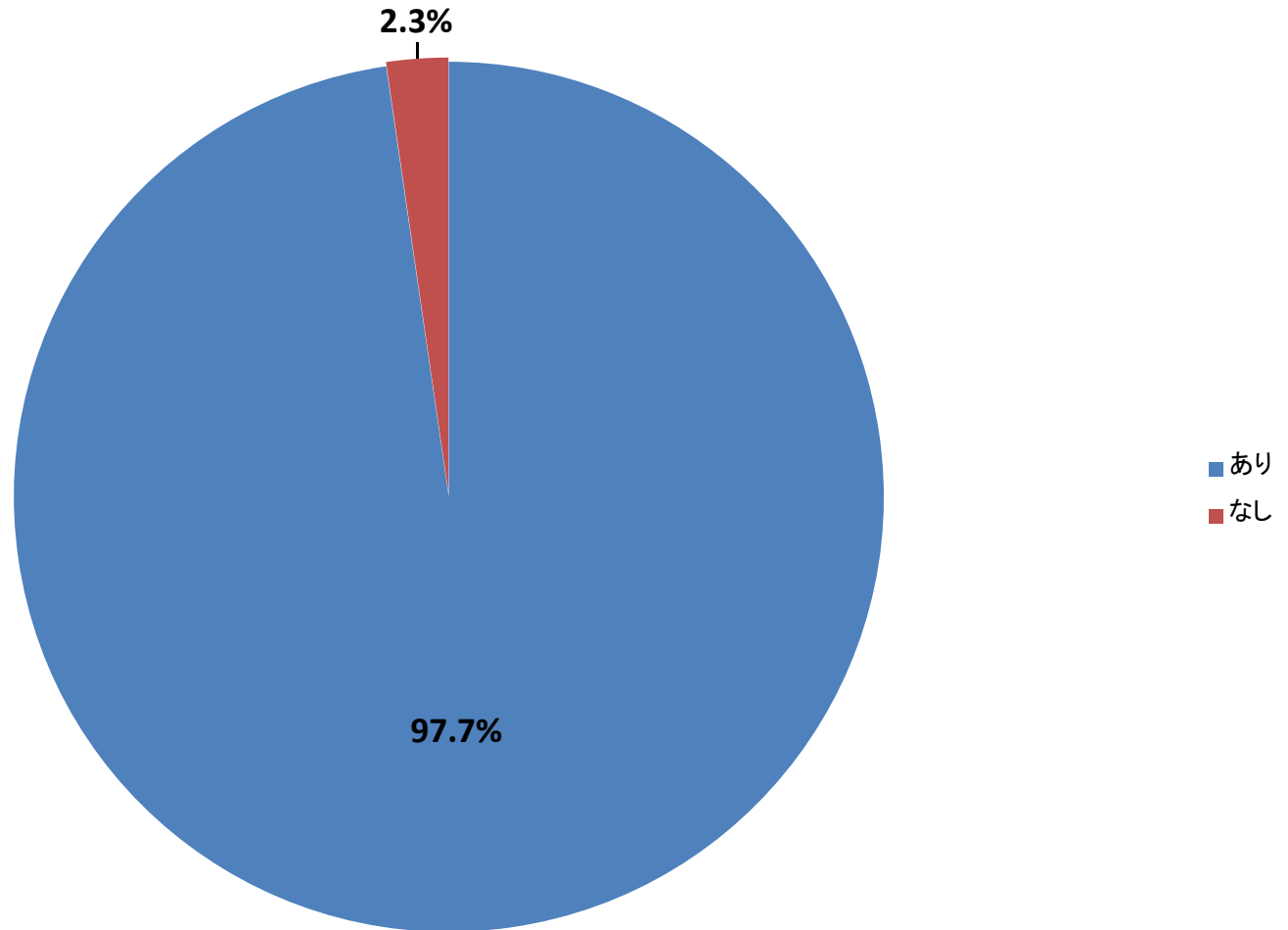
融解して移植(ETのみ)を実施した回数



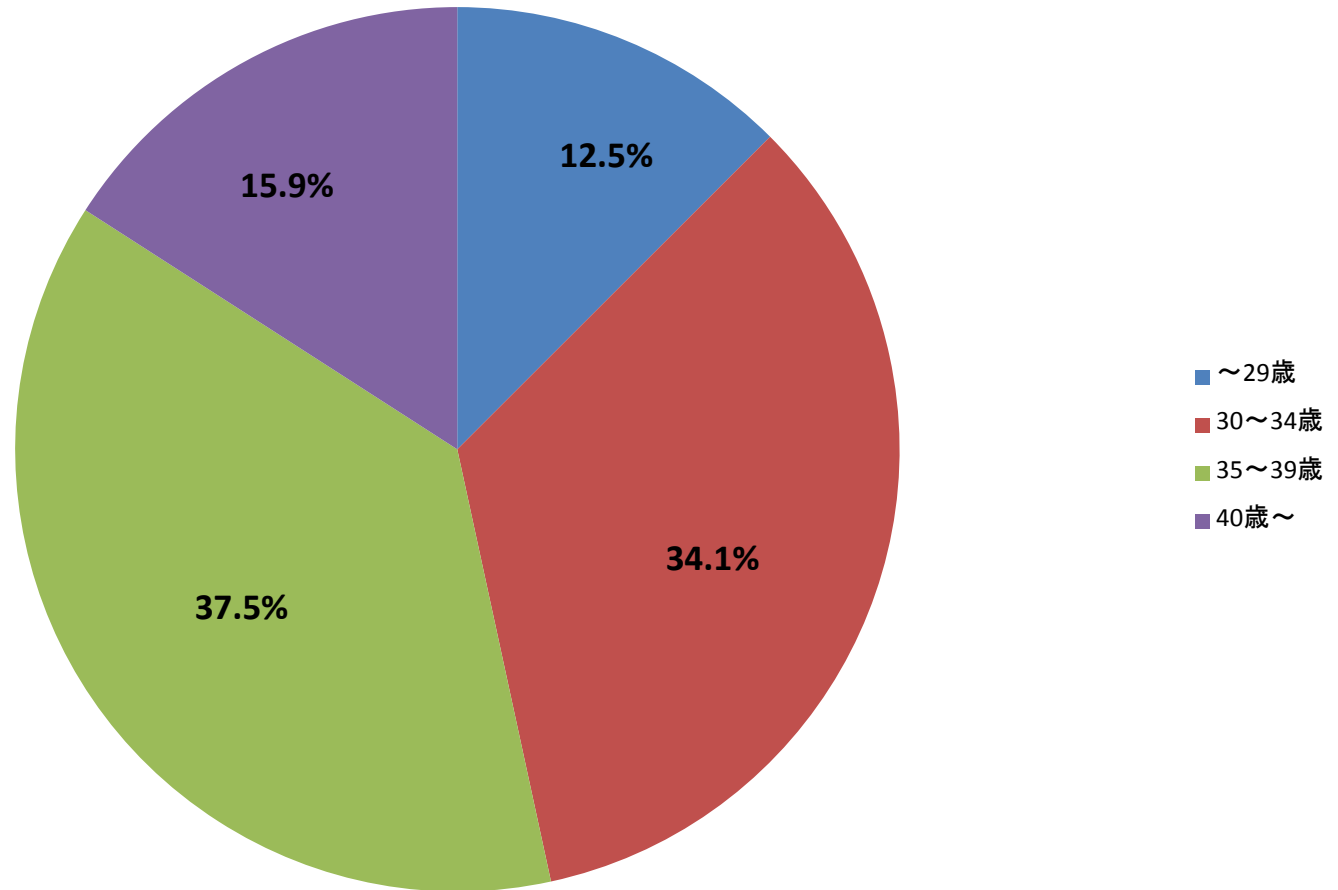
現在、不妊治療を行なっているか



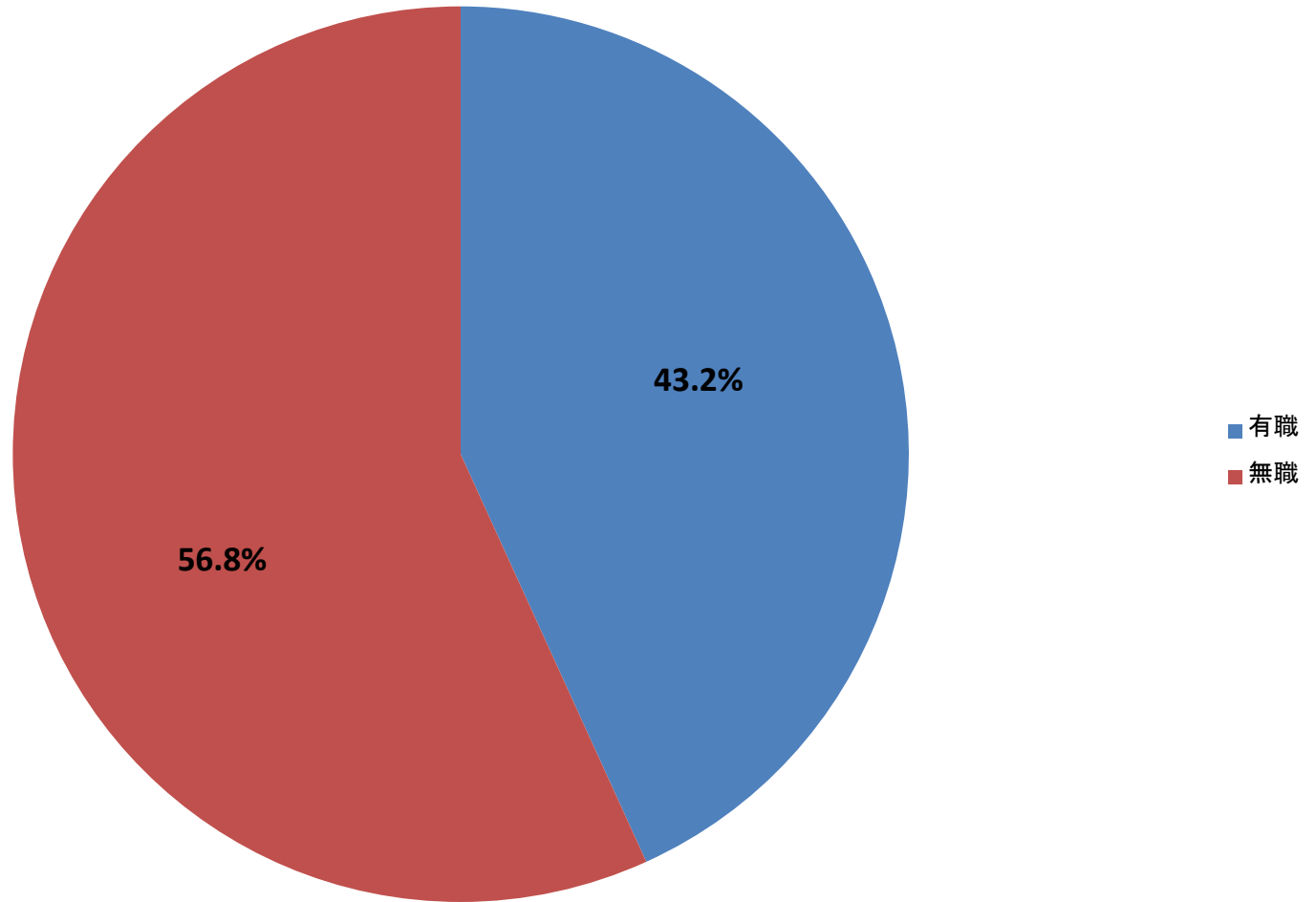
現在の配偶者の有無



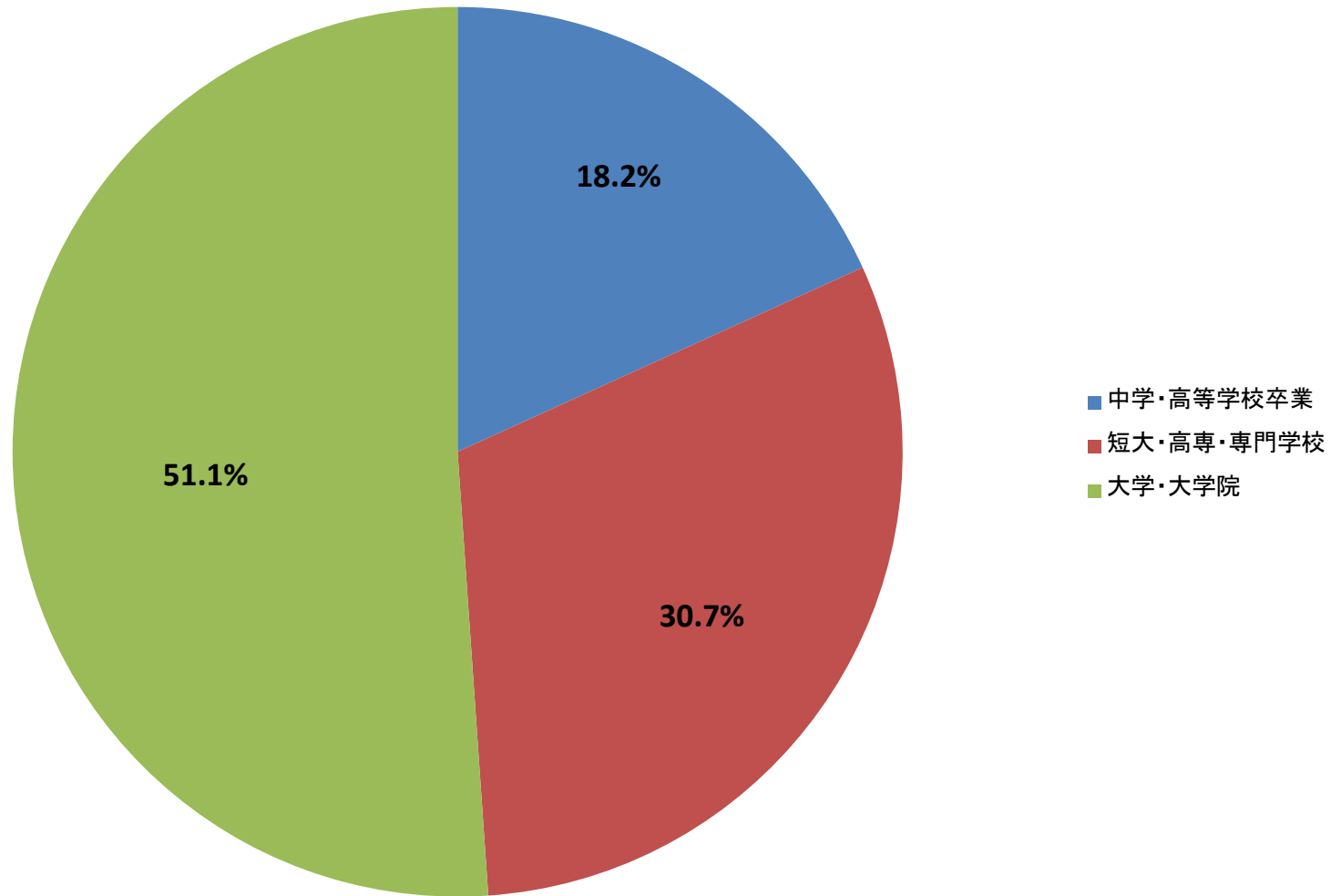
現在の年齢



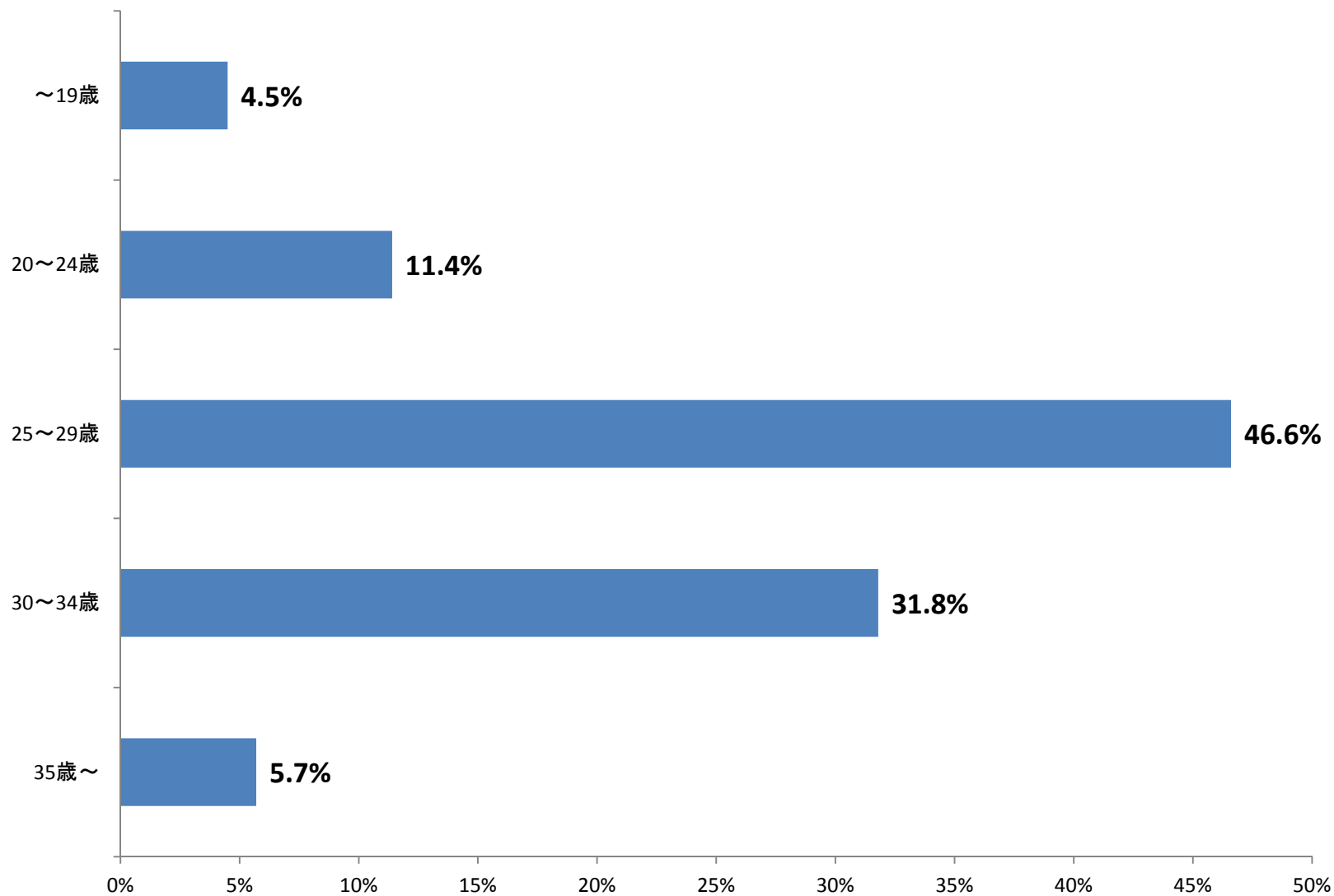
現在の就労の有無



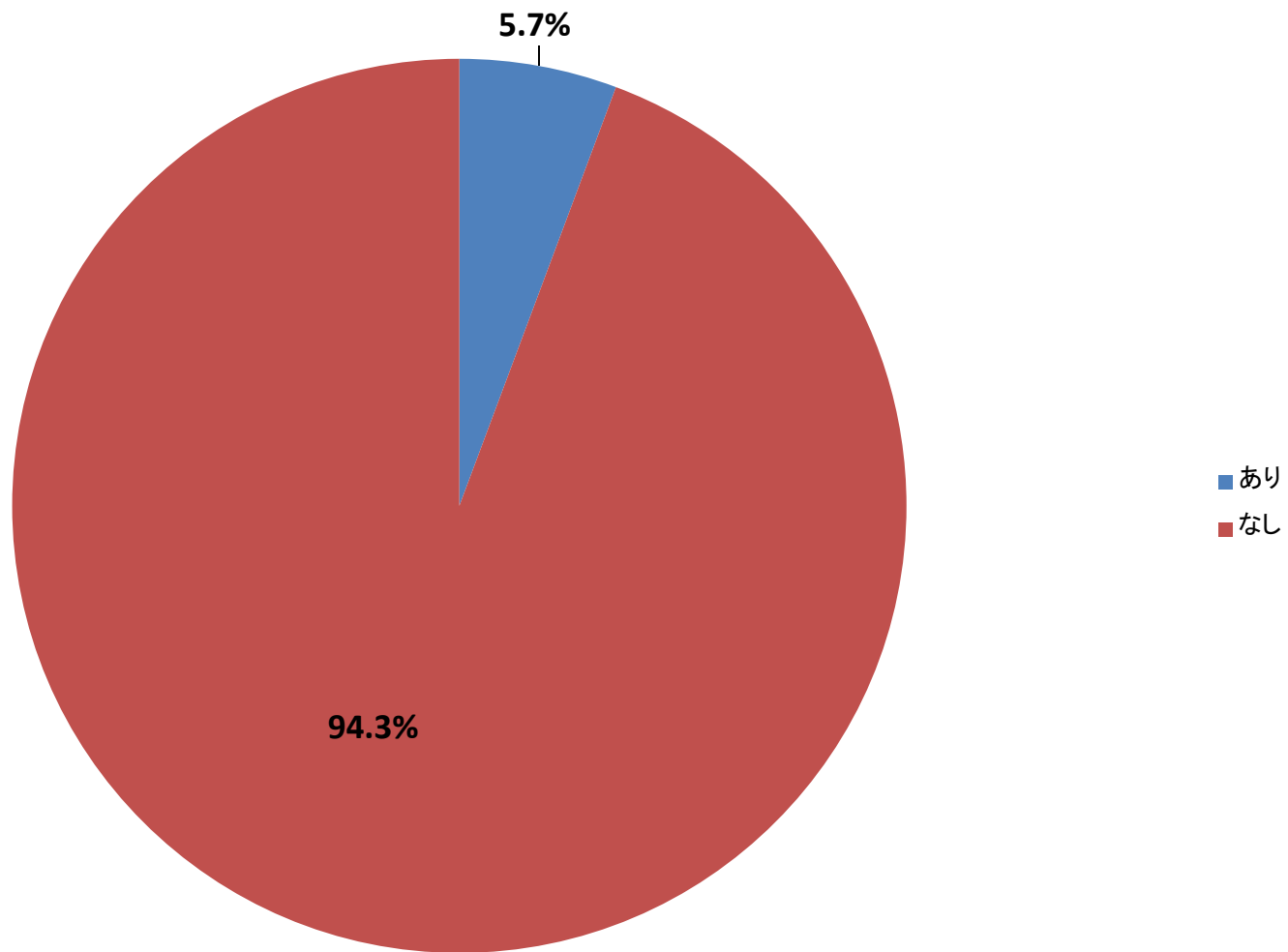
最終学歴(退学含)



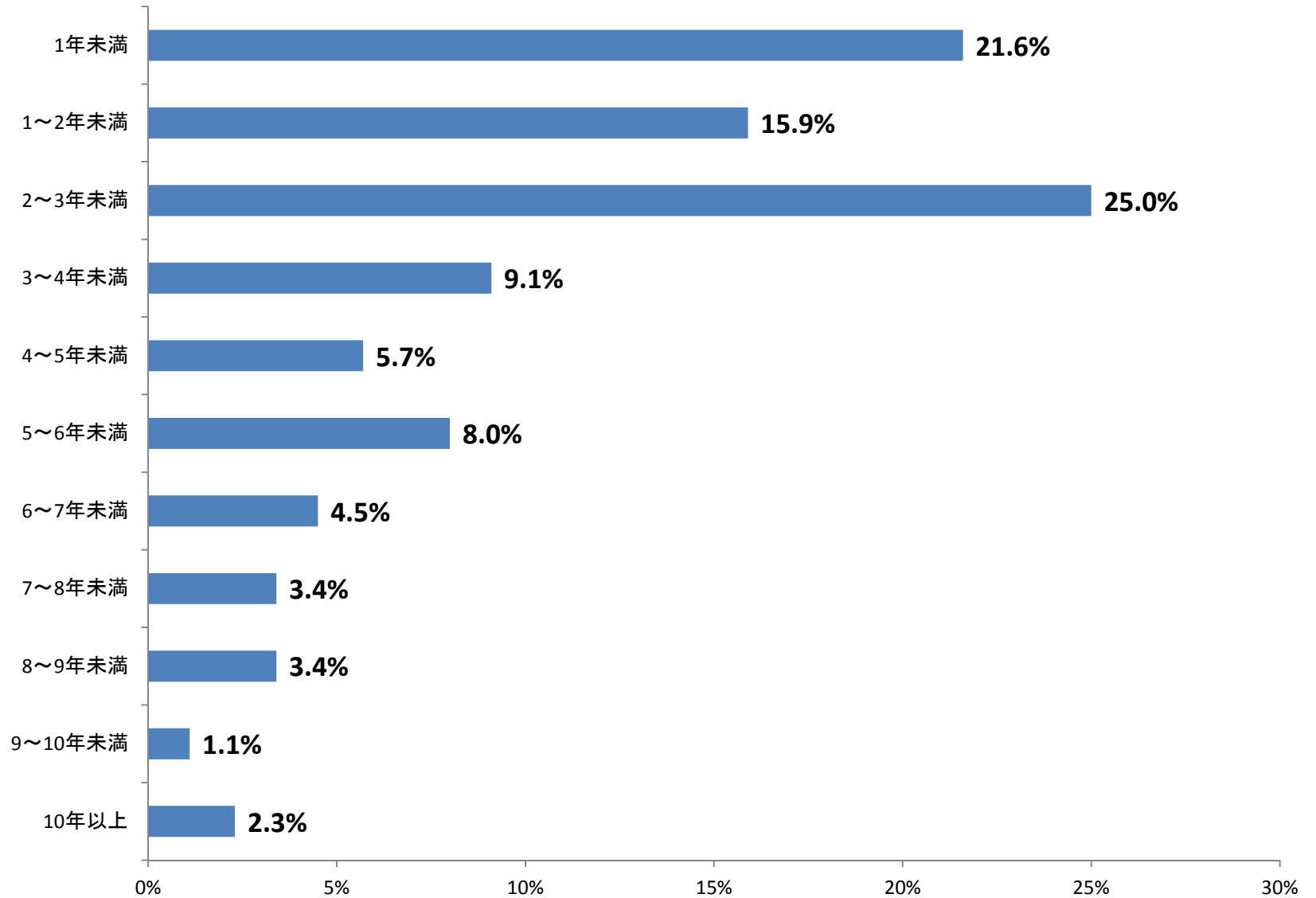
初婚年齢



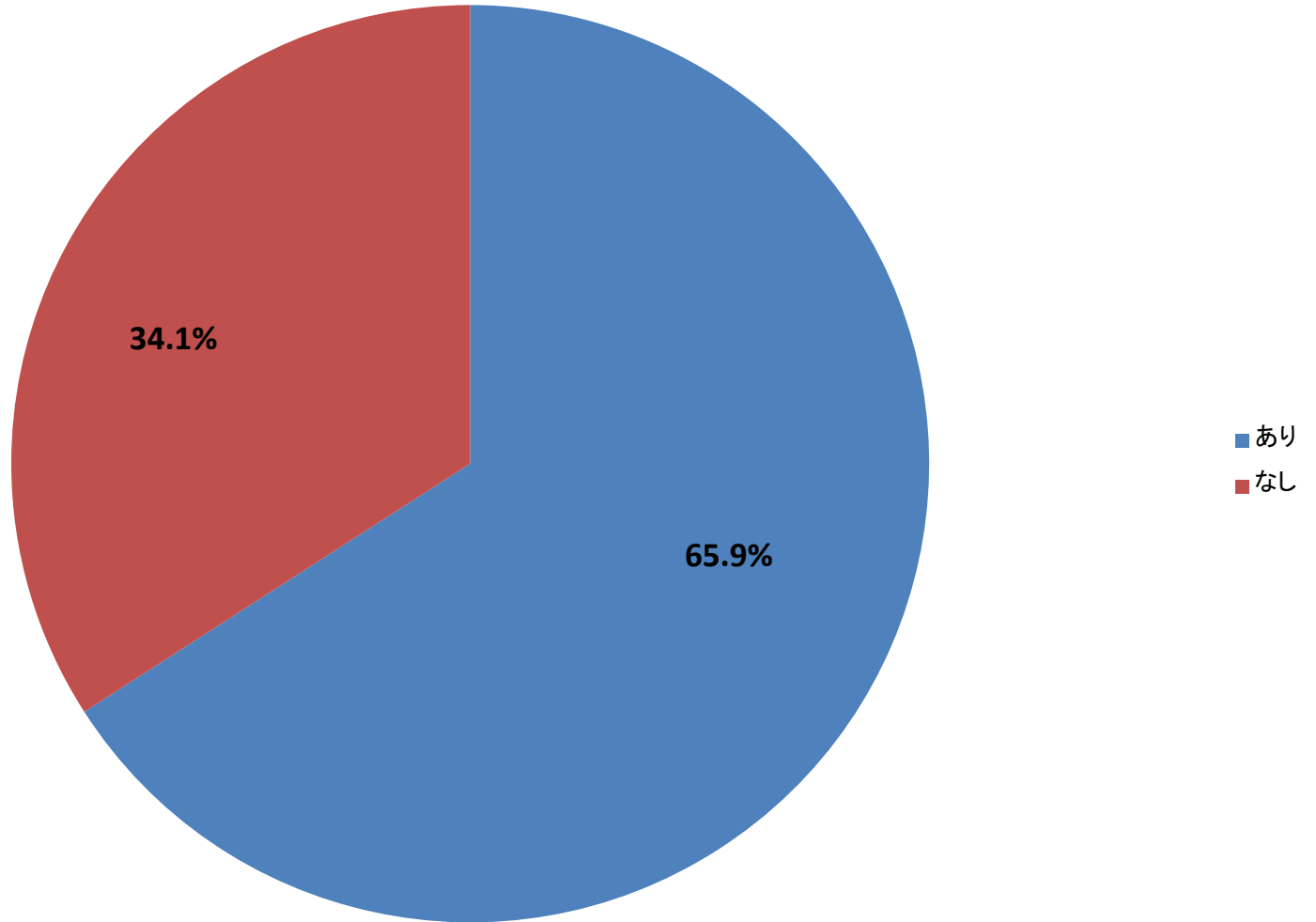
離別・死別・再婚経験



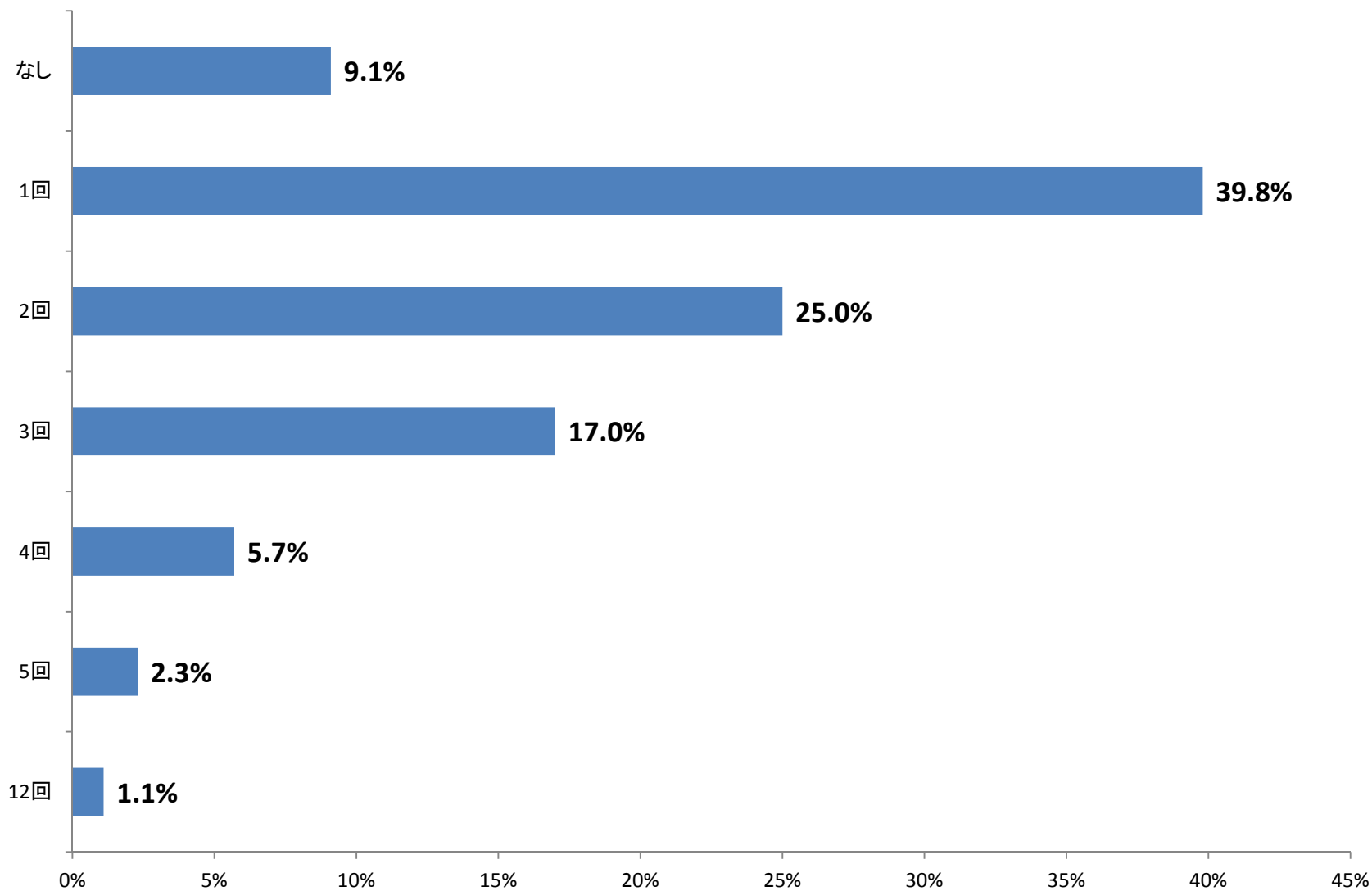
不妊治療歴(年)



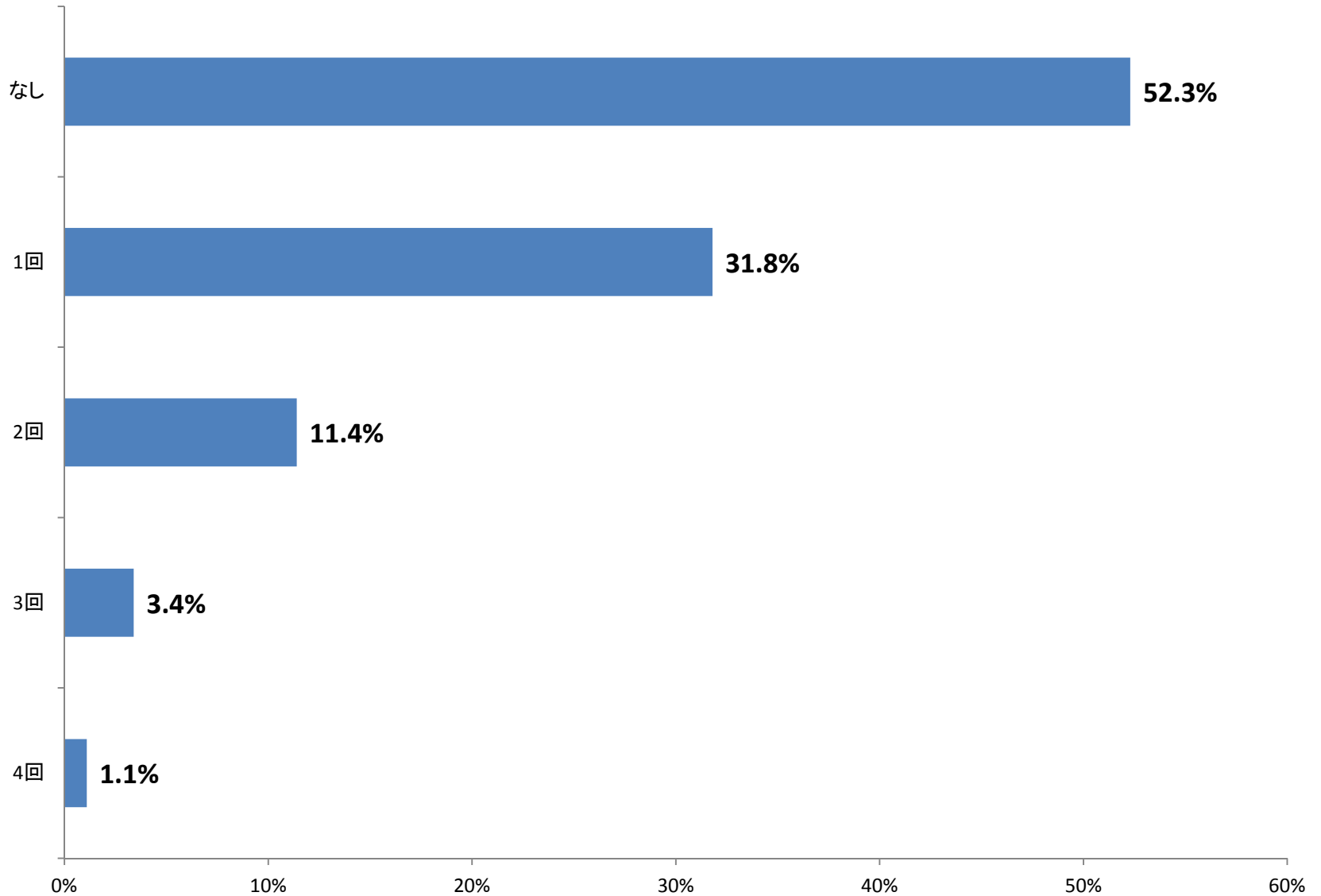
姉妹の有無



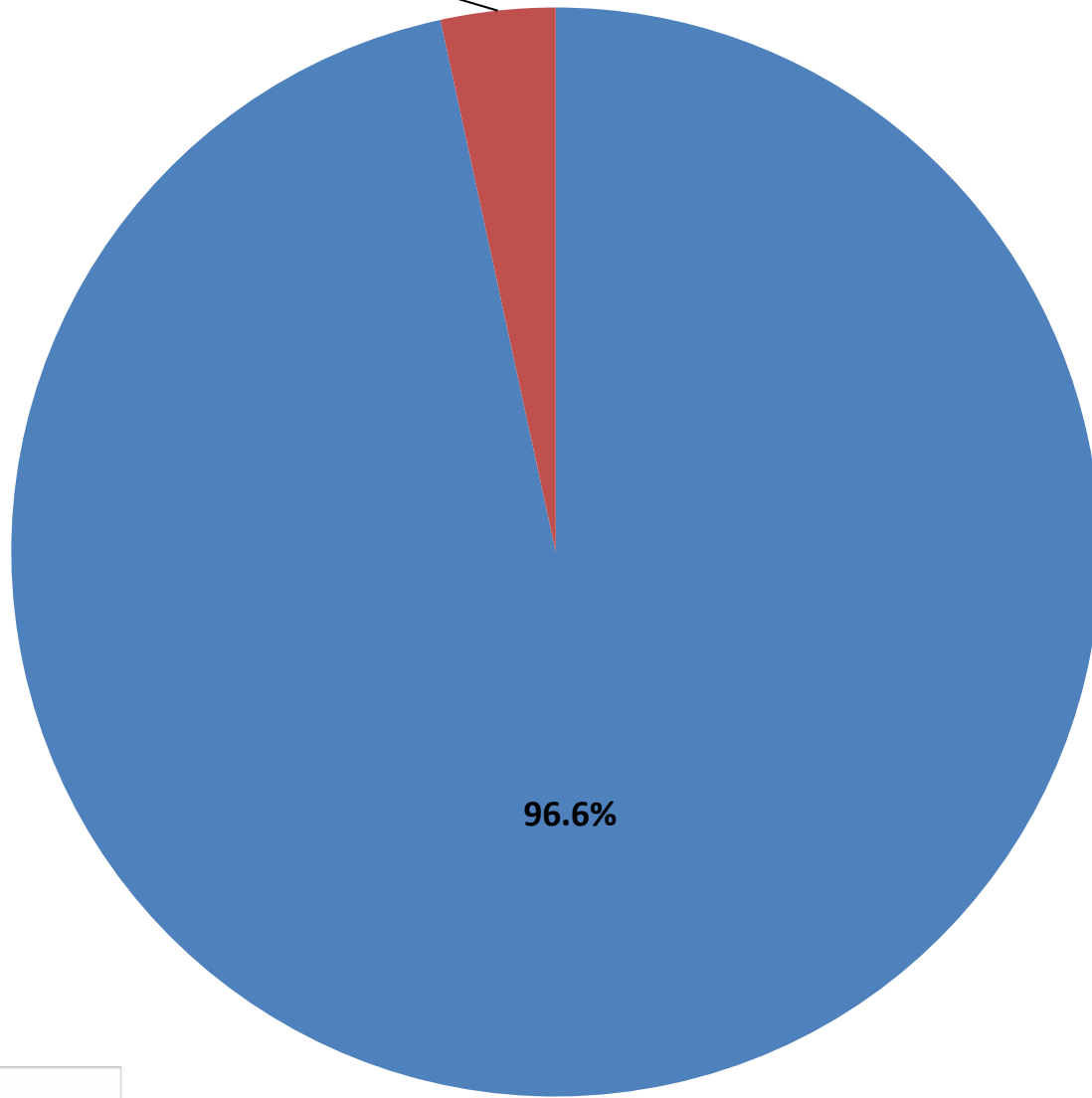
妊娠回数(科学的妊娠含む)



流産・異常妊娠回数



死産経験

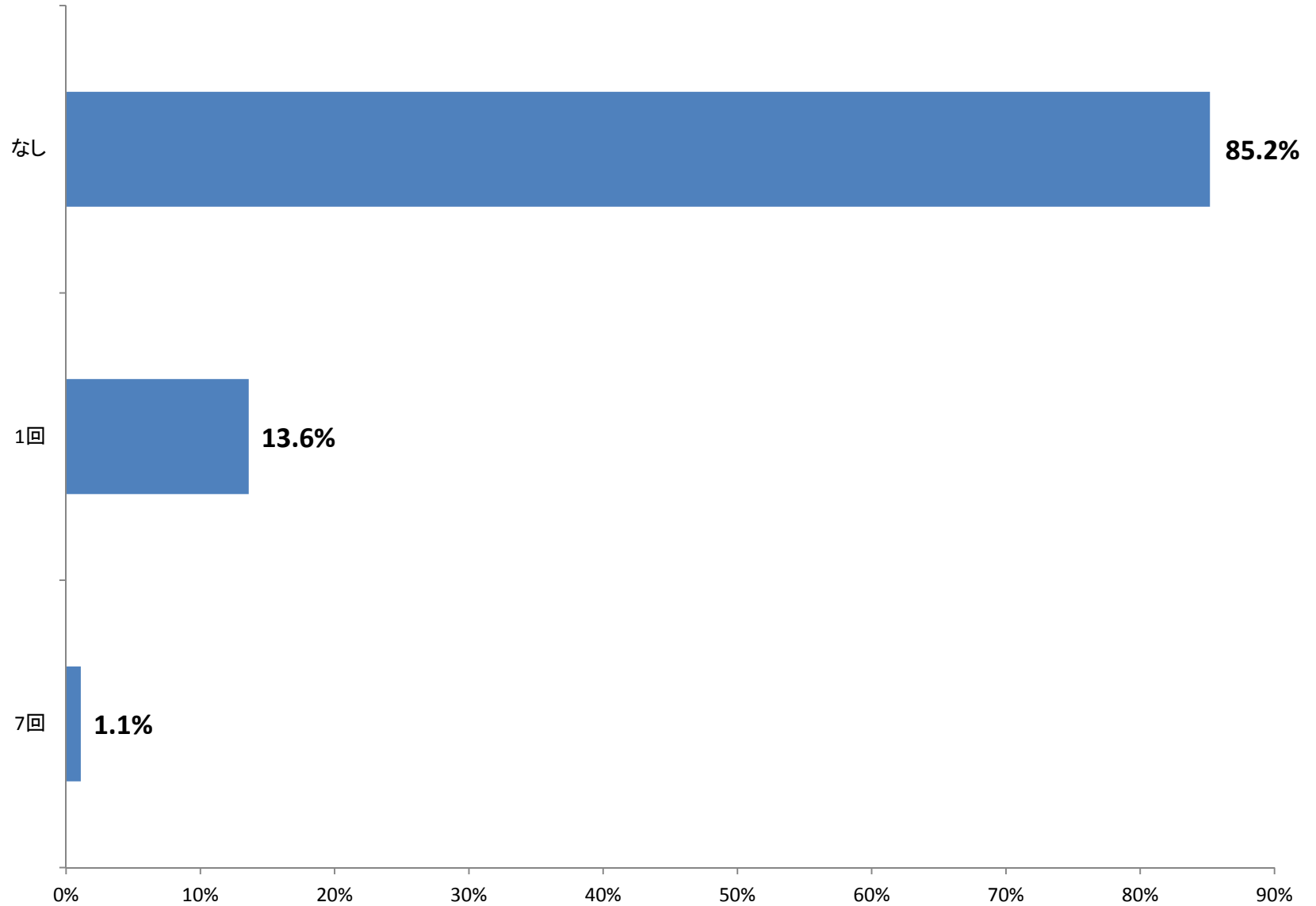


3.4%

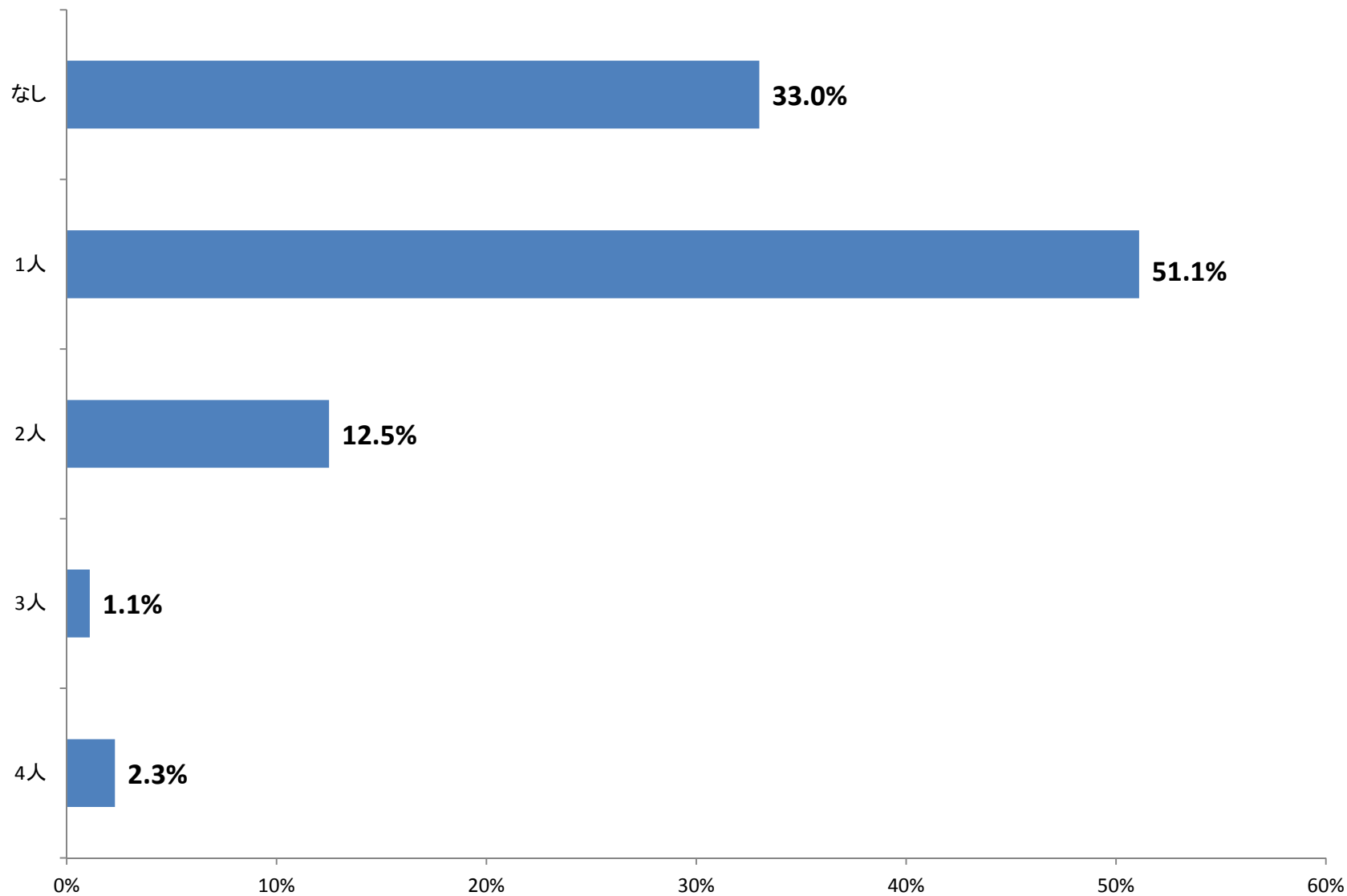
96.6%

- なし
- あり(1回)

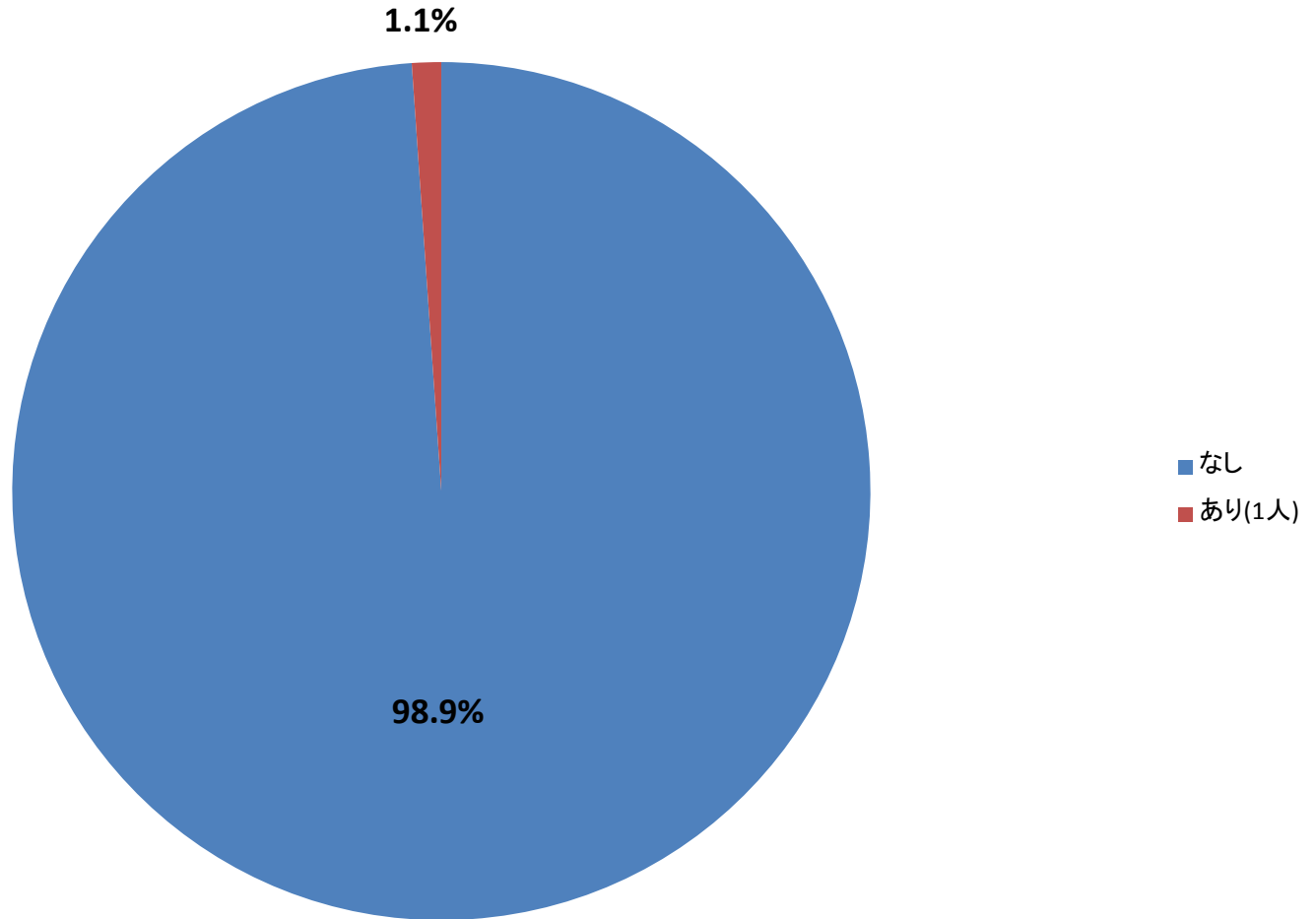
人工妊娠中絶



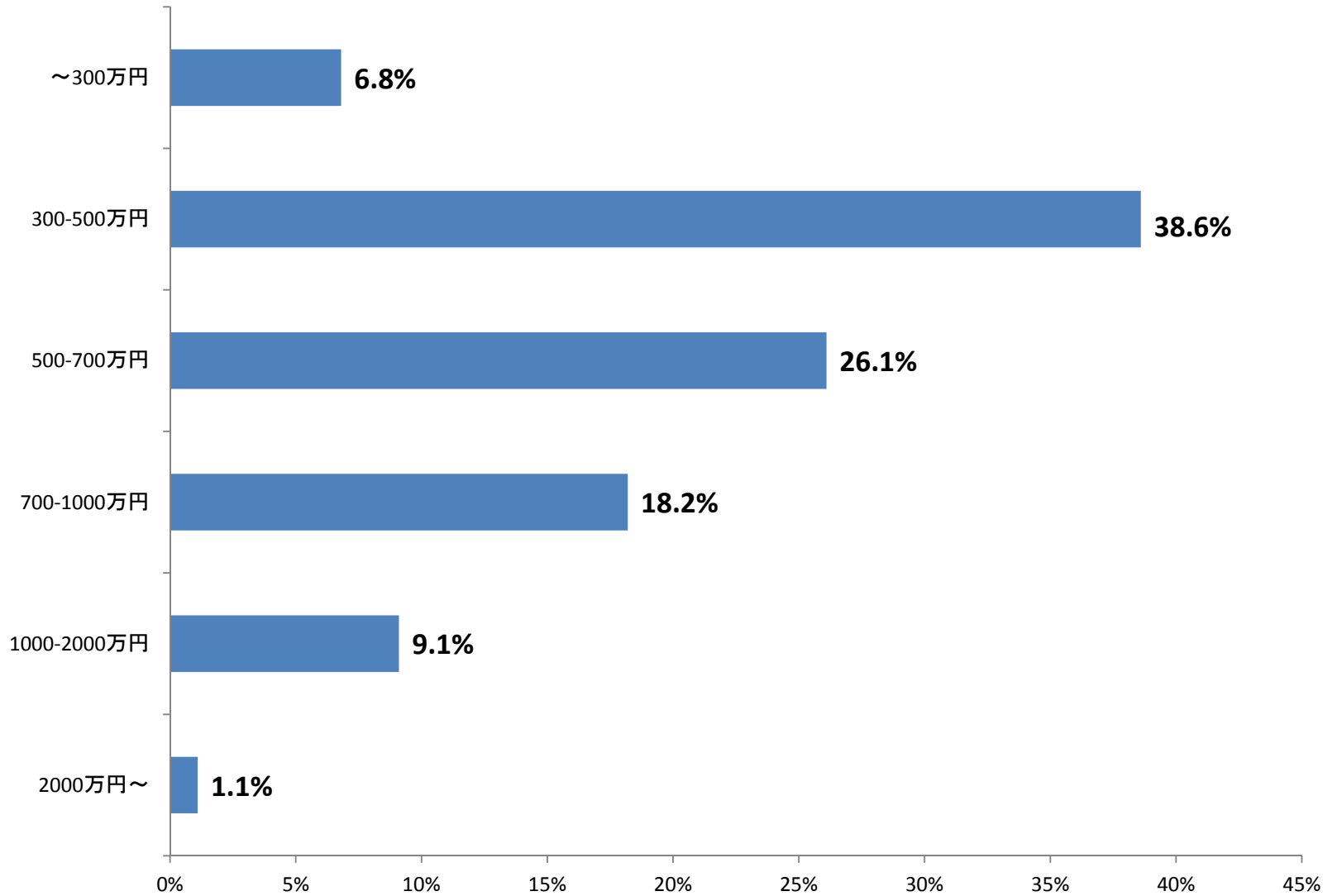
子どもの数



子どものうち養子・里子・継子



世帯年収(税込み)



渡航治療についての考え その1

- ・倫理的な問題が根底にあると思う。人の命をここまでして操作して良いのだろうかという疑問がある。
- ・やはり自分たちの卵子と精子であってほしい気もするし、それならば、せっかく生まれても親に恵まれない子を引き取るのも一つの選択の気もする
- ・夫婦間に関しては国内で十分な治療ができると思います。
(病院をきちんと選べば、ですが) 卵子提供以上の治療は国内では出来ずに海外になりますが、費用が高すぎて一般のサラリーマン家庭には不可能に近いと思っています。つまり、子どもをあきらめる道しかないのです。現実的ではありません。
- ・不妊治療は 経済的もですが 精神的の負担も大きいものです。
海外に慣れた人であれば いいのかもしれませんが 国内治療以上に 負担が大きくなるのはよくないと思います。もっと 国内での理解度が上がり 渡航治療をしないで国内で十分な治療ができるようになることを望みます。
- ・当事者として、可能性があるならば手を尽くしたいという気持ちはすごく分かります。しかし、技術が進歩することで、治療の辞めどきが分からなくなり、経済的・精神的・肉体的にかなりの負担がかかってしまうということもあります。
- ・私はそこまでの気はないが、国内で同じように治療ができないなら、渡航もやむをえないと思う
- ・海外は最後の選択肢とするために、日本で最大限の努力が出来るよう国もバックアップしてほしい。

渡航治療についての考え その2

- ・コミュニケーションが難しい
- ・周囲にそういう方がいないので、現実感に乏しいが、「どうしても欲しい」理由はなにか？それより大事なことはたくさんあるのではないかと人事ながらに思ってしまう。
- ・自分自身は「子どもは授かり物」であり、なかなかできないとはいえやはり自分の子は自分で産みたいと思う。
- ・子どもができないのなら、子どもをもたない人生の楽しみ方を前向きに考えたいと思う。なので、他人に代わりに生んでもらうということは、正直考えられない。でも、「それでもどうしても欲しい」と強く希望する夫婦の気持ちもわからないでもないし、日本では代理母が認められていないというのなら追い詰められて最終手段として海外へ・・・という選択も否定はできないような気がする。
- ・夫婦間の治療だけで済むものなら、日本の医療技術を信じ、技術・精神面でも安心な国内で行いたい。
- ・個人的な考えと、私自身の知識不足が前提ですが・・・何をすることも言葉の壁があること、渡航しても失敗に終わったら・・・など日本で高度治療を受けて結果が出なくてもかなりのストレスになり絶望感もあるのに、渡航までして頑張っても結果が出なかったときの疲労とその落胆など・・・私には耐えられない。
- ・渡航治療に関しては、私自身も怖いし検討もしてません。私の場合、国内での不妊治療も旦那からの許可が出ないし、費用もないので、卵胞確認、タイミング法、排卵誘発剤のみしかしてません。それも、旦那からみれば不妊治療に入るらしく快くは思っていないみたいです。不妊がどれだけ女性にとってストレスになるか男性にもっと知ってほしいです。
- ・金銭的な問題や夫の仕事が休めないこと、行くために周りの人に治療について打ち明けることを考えると、渡航することは、考えられない

渡航治療についての考え その3

・本来なら、あまり勧めることではないと思う。結婚してなかなか子供を授からないと、周りがなんども色々聞いてきたりとストレスを感じる事もあるとおもう。実際自分がそうでした。夫婦ではいつでも妊娠出来ると思っていたがなかなか妊娠に至らず、不妊治療で薬付けになり本来の妊娠機能を低下させることもある。今の世の中、なかなか結婚しなかったり等社会的問題も多い中、高校の保健体育などで、妊娠を望んでも出産までに至らない事もある事を教えて欲しい。望む夫婦がなかなか授からないと、精神的にも辛く、また、身近で出産や妊娠した人を見るのがとても辛く我慢なかなか人には言えない事であり、理解者が少ない。夫婦間の治療は、お互いの意見が同じ方向性にあるのならば、将来の子供にきちんと話す事ができ、親としても責任を果たせれば良いかも知れない。

・命を人工的に生み出す技術は、不自然さを最初から抱えている。選択する夫婦と誕生する子供、それぞれに生涯に渡るバックアップやケアが必要だと思う。それと、日本では血縁を重視する反面非血縁を軽んじる傾向がある。そのような偏見は是正されるべきだが、長い時間がかかると思う。

・渡航治療は費用もかかり、裕福な家庭に限定されたものと感じる。少子化対策として国内の法律や制度をもっと整備し、子供を希望する人に可能性を広げてほしい。国内で受けるにしてもまだまだ費用が高い。費用の助成は少子化対策において子供手当よりずっと効果的だと思う。

・夫婦間の治療なら、お金に余裕があれば、考えたいと思います。卵子(精子)提供や受精卵提供となると、私自身もそうなのですが、日本国内には海外渡航しての不妊治療に偏見があると思います。アジア圏での卵子提供があるといっても、顔立ちが日本人離れしていると、家族が愛情を持って育てても、将来、様々な理由で子供が傷つくことになると思います。子供を望んでいても、国内での治療で無理な場合はあきらめる。私たち夫婦にとっては、日本でダメなら子供のいない人生を考える区切りにもなると思っています。

・国内では行えない治療が海外で行えるのなら、個人の自由で受ければ良いと思う。それぞれのライフスタイルに合わせて、選択肢が広がるよう、国内外問わず、治療を受けられればもっといいのですが・・・。